HIJIRIISHI SITE

聖石遺跡

2004.3

茅野市教育委員会

HIJIRIISHI SITE

聖石遺跡

――県営ほ場整備事業芹ヶ沢地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

2004.3

茅野市教育委員会





3区と県埋蔵文化財センター調査区 (南から)



2区と3区 (南から)



3区の礫検出状態 (北西から)



3区斜面の礫検出状態 (南東から)



3区の礫検出状態 (南から)

3区の完掘状態 (南から)



4区の完掘状態 (西から)



3区斜面の土層断面 (g断面) (南東から)





3区斜面の土層断面 (g断面) (南から)



3区12号住居址P4付近の礫堤と土堤(北から)



3区12号住居址P4付近の礫堤と土堤(北から)

茅野市は長野県南東部に位置する風光明媚な高原都市です。東に八ヶ岳連邦、西に赤石山脈から続く山脚、北に霧ヶ峰山塊を擁し、霧ヶ峰の南麓からは遠く富士山を臨むこともできます。

現在、市内には300を超える遺跡が登録されていますが、半数以上は縄文時代の遺跡です。中でも中期には山麓部を中心に遺跡数が激増し、「縄文の里」として全国にその名を知られています。日本で最初に縄文集落の姿が明らかにされた国特別史跡の尖石遺跡をはじめ、上ノ段遺跡、駒形遺跡と3つの縄文時代の国史跡があります。

聖石遺跡は八ヶ岳の西山麓にある、縄文時代と平安時代の集落跡です。県営ほ場整備事業に伴い、平成9年度から11年度に茅野市教育委員会と長野県埋蔵文化財センターが発掘調査をしました。その結果、台地の平坦面から縄文中期の環状集落、南側斜面から低地では縄文後期の集落跡と平安時代の住居址が発見されました。台地全体と、調査が及びにくい斜面から低地が合わせて記録保存された、市内でも例のない発掘調査となりました。

本書は茅野市教育委員会が調査した台地平坦面の一部と南側斜面から低地の調査成果を報告するものです。遺構中心の内容でありますが、これらの成果が多くの方々に活用され、縄文集落研究の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から整理作業にご理解とご協力を賜りました地元委員会と地権者の皆様、長野県教育委員会と長野県埋蔵文化財センターの皆様、そして調査に従事された作業員の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成16年3月

茅野市教育委員会 教育長 両角 源美

- 1. 本書は平成9・10・11・14・15年度県営ほ場整備事業(担い手育成基盤型) 芹ヶ沢地区に伴う、長野県 茅野市北山芹ヶ沢所在の聖石遺跡の発掘調査報告書である。
- 2. 本調査は長野県諏訪地方事務所の委託を受け、国庫および県費の補助を得て、茅野市教育委員会が実施した。
- 3. 試掘調査、発掘調査、整理作業および報告書作成は以下の期間に実施した。

試掘調査 平成8年度:平成9年3月3日~28日

発掘調査 平成9年度:平成9年5月7日~平成10年3月25日

平成10年度:平成10年4月20日~平成11年1月11日

平成11年度:平成11年5月21日~8月10日

整理作業および報告書作成

平成14年度:平成14年10年1日~平成15年3年20日

平成15年度:平成15年10年1日~平成16年3年19日

4. 本調査における委託業務は以下の業者に委託した。

基準点測量 入原測量有限会社

遺跡写真測量 平成 9年度:株式会社パスコ

平成10年度:中央航業株式会社

平成11年度:株式会社東京航業研究所

遺構写真撮影 株式会社東京航業研究所

遺構実測 株式会社写真測図研究所

地形測量 株式会社写真測図研究所

- 5. 本調査に係わる出土品、諸記録は茅野市尖石縄文考古館で収蔵・保管している。
- 6. 発掘調査から報告書作成までに下記の諸氏からご指導、ご協力を頂いた。記して感謝申し上げる次第である。

会田 進	青木正洋	石井 寛	石原州一	市川桂子	上田典男	臼居直之	臼田広之
江原 英	小坂英文	神村 透	川崎 保	河西克造	桐原 健	櫛原功一	小林公明
小林秀夫	小松隆史	小宮山隆	五味一郎	五味裕史	佐野 隆	鈴木保彦	高見俊樹
田中慎太郎	田中 総	田中 基	坪井清足	鶴田典昭	寺内隆夫	戸沢充則	長崎元廣
西 香子	林 賢	林 幸彦	原 明芳	樋口誠司	樋口昇一	平出一治	平林 彰
平林とし美	廣瀬昭弘	福島 永	三上徹也	水沢教子	宮坂 清	宮坂光昭	宮島義和
武藤雄六	百瀬長秀	柳澤 亮	山本暉久	綿田弘美	諏訪考古学	研究会	

目 次

序	文
例	言
目	次

M. a. da. 196 Per den da . Decemb	
第 I 章 発掘調査の概要 ····································	
第1節 事業の経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の体制	
第4節 遺構の概要	6
第Ⅱ章 遺跡の環境	20
第1節 遺跡の位置と地理的環境	20
第2節 周辺の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
第Ⅲ章 遺構と遺物	··· 22
第1節 1区の遺構と遺物	22
(1) 概 要	··· 22
第2節 2区の遺構と遺物	
(1) 概 要	23
(2) 縄文時代	··· 23
①住居址	··· 23
②方形柱穴列	··· 33
第3節 3区の遺構と遺物	··· 41
(1) 概 要	··· 41
(2) 旧石器時代	··· 41
(3) 縄文時代	··· 41
①住居址	49
②方形柱穴列	88
③配石·列石 ·····	97
④埋設土器	99
⑤土器集中	99
(4) 平安時代	99
①住居址	99
第 4 節 4 区の遺構と遺物	102
(1) 概 要	102
(2) 縄文時代	102
①住居址	102

第 I 章 発掘調査の概要

第1節 事業の経過

聖石遺跡は耕作の際に多くの土器や石器が出土する場所として、地権者の間では古くから知られていた。しかし、大正13年発行の『諏訪史』第一巻「諏訪郡先史時代遺物発見地名表」の北山村芹ヶ沢の欄に、「聖石」の地名は見当たらない。関係する地名と考えられるのは「ベッタ草」である。出土遺物は薄手式の土器とある。遺跡がある台地の南側には、台地に沿って東西に延びる幅広の谷があり、地元ではその谷を「ベッタ沢」と呼んでいる。その呼称に類する「ベッタ草」は台地南側の谷中にある遺跡と考えられる。

平成11年度に茅野市教育委員会(以下、市教育委員会)と長野県埋蔵文化財センター(以下、県埋蔵文化財センター)は、聖石遺跡と長峯遺跡(遺跡番号50、平成11・12年度県埋蔵文化財センター調査)の「ベッタ沢」への広がりを確認する試掘調査を実施している。その結果、縄文時代中期終末と後期前半の遺構と遺物が確認され、ベッタ沢遺跡(遺跡番号327)として登録している。遺跡はほ場整備事業の埋土で保存されている。

昭和40年前後に聖石遺跡がある台地は発掘調査されることなく開田工事が行われている。工事関係者の話によると、その時かなりの土器が出土したとのことである。以降、工事によって遺跡は湮滅したと言われてきた。

聖石遺跡一帯のほ場整備事業は、台地を削り、その土で谷を埋めて施工するものである。県・市教育委員会と関係部局は複数年度にわたる保護協議で、遺跡がある台地を残した工事の施工を検討してきた。しかし、周囲のほ場が完成しつつある中で、台地を残す工事は工法的に難しく、記録保存を前提とする発掘調査が実施されることとなった。

平成8年度

今年度は遺跡の広がりと内容を把握する試掘調査を行った。調査は平成9年3月3日に着手した。重機により、遺跡の主体部と目される台地平坦面の最大幅部を中心に試掘した結果、縄文時代中期後半と考えられる住居址14軒、土坑89基ほか多数のピットが検出された。開田工事により遺跡が完全に削平された部分は僅かであることが確認され、遺跡の範囲も当初予測していた10,000㎡からやや拡大し12,000㎡以上となった。また、遺跡内の土層堆積状態は良好で、黒褐色土層中に礫や焼土址が遺存することも確認された。これにより部分的に2面の調査が必要と考えられ、調査は長期間を要するものと判断された。

3月7日に聖石遺跡の保護協議が開催された。工事計画とのすり合わせの結果、平成9年度に市教育委員会が直営で発掘調査を行うこととなった。面積は試掘範囲の外側にさらなる遺構の広がりを想定し15,000㎡とした。

平成9年度

今年度は発掘調査範囲を確定する試掘調査と、1~3区の発掘調査を行った。

4月15日付け「担い手育成基盤整備事業芹ヶ沢地区埋蔵文化財発掘業務委託」により長野県諏訪地方事務 所長小林俊規と茅野市長矢崎和広で委託契約を締結し、平成9年度の発掘調査に着手した。調査に要する費 用は総額31,894,000円(農政部局負担90.5% 28,864,000円・文化財保護部局負担9.5% 3,030,000円)である。 現場作業は5月7日に開始した。遺跡主体部の様相は試掘調査である程度把握されていたが、遺跡の広がりは判然としないままであった。そこで、調査範囲を確定させる試掘調査を表土剥ぎ取り作業前に行うこととした。

5月下旬、台地平坦面最大幅部の南側斜面において、耕作土直下の黒色土層中から人頭大以上の扁平な礫が列をなして検出された。その中には数段に積まれた礫も見受けられた。礫は台地の南側斜面を若干切り崩して設けた道路に沿っていた。道路建設の際、台地平坦面側に据えられた礫とも考えられ、即座に縄文時代の所産である礫と判断することはできなかった。

約1ヶ月にわたり、礫が据えられた時代・時期を特定するための面的な礫の検出作業と、土層断面の調査を行った。礫の間から出土した遺物は縄文土器と黒曜石に限られ、土器の大半は後期前半から中葉であることが確認された。これにより該期に持ち込まれた礫であると判断された。土層断面の調査では、自然堆積と考えられる黒色土層の上にローム塊・パミス・焼土を含む黒褐色土や暗褐色土が堆積し、敷設された板状の礫も確認された。その状態から、斜面を整地する大がかりな土木工事と、そこに構築された敷石住居址の存在が示唆された。さらに、低地では現道から1.5~2m下で数基の土坑と焼土址が確認された。発掘調査面積はさらに広がり、この時点で20,000㎡を超えていた。

9月1日に芹ヶ沢区公民館で地権者を交えて発掘調査の協議が開催された。市教育委員会では調査の経過と現状を報告し、平成9年度中に発掘調査を終了させることは困難であると伝えた。その結果、平成10年度への継続調査が認められた。しかし、来年度中に発掘調査を終了させるためには複数の調査員を投入する必要があり、調査員の確保に課題を残した。また、平成10年度から計画されていた長峯遺跡の発掘調査は、平成11年度以降に実施することが確認された。協議の中で地権者を対象とする見学会の要望があり、9月15日に斜面から検出された敷石住居址と配石・列石を公開している。

10月に入り調査員を増員し、斜面から低地の調査区(以下3区)と併行して、東側の調査区(以下2区)の調査を開始した。今年度の目標として、2区は12月中に調査を終了させ、3区は露出させた礫の記録を終了させることとした。

11月3日に現場を一般公開する。午前と午後の見学とし、約200名の参加がある。

9月の協議以降、市教育委員会では来年度の調査体制を検討していた。来年度も大規模な発掘調査が数本計画され、聖石遺跡に複数の調査員を張り付けることは困難と判断された。11月13日付け「平成10年度茅野市教育委員会実施予定の埋蔵文化財発掘調査に係る協力依頼について(依頼)」が茅野市教育委員会教育長両角徹朗から長野県教育委員会教育長戸田正明宛で提出された。平成9年度に引き続き、県埋蔵文化財センターから職員の派遣を依頼する内容である。

11月17日に平成10年度の市内遺跡発掘調査に係る保護協議が開催された。この場で県埋蔵文化財センターから職員を派遣することに代わり、発掘調査の一部を県埋蔵文化財センターへ委託する案が出された。協議の結果、平成10年度の発掘調査は市教育委員会と県埋蔵文化財センターの2者が行うことで合意した。3区は市教育委員会が継続調査し、台地平坦面15,600㎡の調査を県埋蔵文化財センターへ委託するものであった。なお、県埋蔵文化財センター調査区の西端1,000㎡は国道299号線の付け替え関連事業であり、15,600㎡から1,000㎡を差し引いた14,600㎡がほ場整備事業にかかる発掘調査面積である。調査費用の負担割合は、14,600㎡の発掘調査費用の90.5%を農政部局が負担し、農家負担分の9.5%は茅野市が負担することとなった。

12月上旬に2区の発掘調査が終了し、下旬に3区の礫の諸記録が終了した。3区の調査は年を越して続いたが、1月8日から翌日まで降り続いた大雪で調査区は完全に埋没し、調査の続行は不可能となった。

1月23日に県埋蔵文化財センターと調査委託に係る協議が開催された。ここでは委託範囲と調査費の負担割合が確認された。協議の結果を受けて、1月26日付け「県営担い手育成基盤整備事業芹ヶ沢地区に係る聖石遺跡発掘調査業務委託について(依頼)」が茅野市長矢崎和広から長野県諏訪地方事務所長小林俊規宛で提出された。内容は台地平坦面の発掘調査を県埋蔵文化財センターへ委託し、南側斜面から低地は市教育委員会が継続調査する。発掘調査は平成10年度に終了させるというものである。

3月13日に県埋蔵文化財センターと調整会議がもたれる。図面上で委託範囲を確認し、作業員の募集方法などが検討された。

3月23日には平成10年度以降の市内遺跡発掘調査に係る保護協議が開催される。ここでは平成10年度の聖石遺跡発掘調査の最終確認がなされた。大雪で中断していた発掘調査を3月上旬に再開し、25日に終了した。平成9年度の委託業務は平成10年3月25日に完了した。調査に要した費用の総額は31,530,000円(農政部局負担90.5%28,534,000円・文化財保護部局負担9.5%2,996,000円)であった。完全に発掘調査が終了した面積は1区の440㎡と2区の2,800㎡を合わせた3,240㎡である。

平成10年度

今年度は3区の継続調査を行った。

4月14日付け「平成10年度担い手育成基盤整備事業芹ヶ沢地区埋蔵文化財発掘業務委託」により長野県諏訪地方事務所長香坂守義と茅野市長矢崎和広で委託契約を締結し、平成10年度の発掘調査に着手した。調査に要する費用は総額20,000,000円(農政部局負担90.5% 18,100,000円・文化財保護部局負担9.5% 1,900,000円)である。

現場作業は4月20日に開始した。3月に調査を再開し、掘るべき箇所が明確にされていたため、調査は順調に進んでいった。

10月27日に平成11年度の市内遺跡発掘調査の保護協議が開催される。この時点において、聖石遺跡の発掘調査は今年度に終了する予定であったが、後に聖石遺跡の範囲が拡大することとなる。

11月28日に県埋蔵文化財センターと共催で現場を一般公開する。約200名の参加がある。

12月上旬から聖石遺跡の発掘調査と並行して、長峯遺跡の試掘調査に着手した。試掘調査は約1ヶ月に及んだ。両遺跡を画す台地の括れ部分から直径1m前後の土坑群が検出された。地形および想定される遺構の性格などから聖石遺跡との関連が示唆され、遺跡の範囲が拡大することとなった。

発掘調査は年内の終了を目指していたが、今年度も年越しの調査となった。現場作業を終了したのは1月 11日である。

1月14日に平成11年度の市内遺跡発掘調査の保護協議が開催される。長峯遺跡の試掘結果の報告と、今後 の進め方が検討された。ここで聖石遺跡の拡大部分は市教育委員会が発掘調査することとなった。

今年度の委託業務は平成11年3月25日に完了した。調査に要した費用の総額は12,000,000円(農政部局負担90.5%10,860,000円・文化財保護部局負担9.5%1,140,000円)であった。今年度に発掘調査した面積は、低地に入れた5本の試掘トレンチ(160㎡)を含む1,360㎡である。

平成11年度

今年度は聖石遺跡の拡大部分を4区として発掘調査を行った。

4月15日付け「平成11年度担い手育成基盤整備事業芹ヶ沢地区埋蔵文化財発掘業務委託」により長野県諏訪地方事務所長香坂守義と茅野市長矢崎和広で委託契約を締結し、発掘調査に着手した。調査に要する費用は総額6,000,000円(農政部局負担90.5% 5,430,000円・文化財保護部局負担9.5% 570,000円)である。

現場作業は5月21日に開始し、8月10日に終了した。

今年度の委託業務は平成11年3月21日に完了した。調査に要した費用の総額は4,900,000円(農政部局負担90.5%4,434,000円・文化財保護部局負担9.5%466,000円)であった。今年度に発掘調査した面積は1,900㎡である。

平成14年度

今年度は報告書作成に向けて図面と遺物の整理作業を行った。

10月1日付け「平成14年度ほ場整備事業芹ヶ沢地区埋蔵文化財発掘業務委託」により長野県諏訪地方事務所長古坂和俊と茅野市長矢崎和広で委託契約を締結し、整理作業に着手した。調査に要する費用は総額2,000,000円(農政部局負担90.5% 1,810,000円・文化財保護部局負担9.5% 190,000円)である。

今年度の委託業務は平成15年3月20日に完了した。調査に要した費用の総額は2,000,000円であった。

平成15年度

今年度は報告書を刊行した。

10月1日付け「平成15年度ほ場整備事業芹ヶ沢地区埋蔵文化財発掘業務委託」により長野県諏訪地方事務所長牧野内生義と茅野市長矢崎和広で委託契約を締結し、図版作成と原稿執筆に着手した。調査に要する費用は総額2,000,000円(農政部局負担90.5%1,810,000円・文化財保護部局負担9.5%190,000円)である。

今年度の委託業務は平成16年3月19日に完了した。調査に要した費用の総額は2,000,000円であった。

第2節 調査の方法

(1) グリッド設定

(2) 試掘調査

試掘トレンチの掘削はバックホーを用いて実施した。必要に応じて人力で掘り下げた箇所がある。

(3) 本調査

表土(耕作土と開田工事に伴う盛土)の除去作業はバックホーを用いて実施した。以下調査区毎に方法 を記す。

1・2・4区 3箇所の調査区は台地平坦面にあり、開田工事に伴う切り盛りが随所にみられる。切土部分では表土直下が明黄褐色土層(ローム漸移層~ローム層)または基盤の火砕流堆積物層となり、この面が遺構検出面である。盛土部分では遺構が明確に確認できる面を検出面としている。

2区の北西部には、北西に開口する小規模な谷があり旧地形が残存していた。黒褐色土層面で遺物が散見され精査を行うが遺構は確認されなかった。その後、重機で明黄褐色土層まで掘り下げている。

遺構の断面図と平面図は縮尺を1/20を基本とし、調査補助員および作業員が図化した。遺構の掘削深度は図化の際に計測している。遺構全体図は縮尺を1/100とし、航空測量図面を基に作成した。

3区 北側の調査区境界は2区の台地の南側肩部である。2区との境界から11・25住および19~21住に至る間は、開田工事による切土で南側斜面が大きく削り取られている。これに対し、他の地点では開田工事

や道路建設に伴う盛土によって遺構の保存が極めて良い。表土の除去と、流路跡の覆土上層の掘り下げに は重機を使用したが、他の掘り下げはすべて人力で行った。

礫の平面図は縮尺を1/20とし、業者と調査補助員および作業員の2者で図化している。検出状態と上面の礫を外した下面の2面は業者へ委託し、現場で図化されたものを担当者が校正し作成した。下面の礫下から検出された礫は(敷石住居址の敷石や炉址など)、調査補助員および作業員が図化した。

遺構の平面図は縮尺を1/20とし、調査補助員および作業員が図化した。掘削深度は図化の際に計測している。遺構全体図は縮尺を1/100とし、航空測量図面を基に作成した。

遺物の取り上げは遺構またはグリッド単位を基本とした。グリッド単位の取り上げは 3 区で実施し、必要に応じて 1 m四方に 4 分割して取り上げている。この場合、北東から時計回りに $a \cdot b \cdot c \cdot d$ とした (例 I-100 (a))。

(4) 整理作業

微細な黒曜石片を除く出土遺物には、遺跡番号の51に続けて遺構番号・グリッドなどを注記した。その中に $51A \cdot 51B \cdot 51I \cdot 51$ などと注記したものがある。記号は地点や調査年度を表すが、本書では51A な 2 区、51B と51I を 3 区、51 2 を 4 区として報告する。また、報告に際し、現場で付した遺構名や番号を変更したものは、各遺構の記述または土坑計測表の備考に記している。

(5) 報告書の作成

作成にあたっては、多くの遺構図面を掲載するように努めた。個別遺構の平面図は1/60を基本に作成した。

遺構の切り合いが著しい3区では、同一遺構の検出面が数面に及ぶものがあり、その表現方法に苦慮した。特に斜面では同一住居址の柱穴が複数の面から検出されたものが多い。したがって、掲載した平面図の多くは同一検出面で図化されたものではない。同一住居址の柱穴でありながら平面規模が大きく異なるのは、検出面の違いによるものである。ただし、掘削深度は任意のレベルを設定し、これを基準に計測している。

第3節 調査の体制

本調査は茅野市教育委員会文化財課が実施した。組織は下記のとおりである。 調査組織(平成9~15年度)

①調査主体者 両 角 徹 朗(平成9~10年度 教育長)

両 角 源 美 (平成11~15年度 教育長)

②事 務 局 宮 下 安 雄 (平成9~10年度 教育次長)

宮 坂 泰 文(平成11~12年度 教育次長)

伊 藤 修 平 (平成13~14年度 教育部長)

宮 坂 耕 一 (平成15年度 教育部長)

③文化財課 矢嶋 秀一(平成9~13年度文化財課長)

小 平 廣 泰 (平成14~15年度 文化財課長)

鵜 飼 幸 雄(平成9~15年度 文化財係長・平成13~15年度 尖石縄文考古館長)

守 矢 昌 文 (平成9~15年度 文化財課職員・平成13~15年度 文化財係長)

小 林 深 志 (平成9~15年度 文化財課職員)

大 谷 勝 己 (平成9~15年度 文化財課職員)

功 刀 司 (平成9~15年度 文化財課職員)

小 池 岳 史(平成9~15年度文化財課職員)

百 瀨 一 郎 (平成9~15年度 文化財課職員)

小 林 健 治 (平成9~15年度 文化財課職員)

柳 川 英 司 (平成9~15年度 文化財課職員、平安土器整理・実測)

大 月 三千代(平成9~12年度、平成14~15年度 文化財課職員)

金 井 美代子 (平成13年度 文化財課職員)

④調 査 担 当 小 池 岳 史(発掘調査・整理報告担当)

河 西 克 造 (平成9年度発掘調査担当、長野県埋蔵文化財センター派遣職員)

⑤発掘調查·整理作業参加者

補 助 員 赤堀彰子 牛山矩子 堀内 潭 武居八千代 武藤雄六

作 業 員 伊藤益郎 伊東みさを 牛山和男 牛山晴雄 柿沢貞子 柿沢政道 北沢もと 金子清春 北原きよゑ 木戸克子 小堀幸恵 小松 敏 小松厚子 小松純子 酒井みさを 大勝弘子 大丸多栄子 竹内美樹 立岩貴江子 田中達朗 田中 実 花岡照友 藤森三千恵 水谷ちとせ 両角清一 矢嶋恵美子 柳沢 侃 柳沢友治柳平年子

整理作業員 木戸克子 小松純子 酒井みさを 大勝弘子 竹内美樹 立岩貴江子 藤森三千恵

第4節 遺構の概要

(1) 調査区と遺構の概要

聖石遺跡の発掘調査は平成9年度に開始され11年度に終了した。市教育委員会では台地平坦面の最大幅部分(平成10年度県埋蔵文化財センター調査区)を除いた地点を発掘調査している。第1章第1節で記した1区~4区の調査区は、調査年度と地形により区分したものである(第1図)。

市教育委員会の調査区から検出された遺構の種類と数は以下のとおりである。

縄文時代:住居址25軒、方形柱穴列4基、土坑379基、配石6基、列石8基、埋設土器1基、焼土址9基、

土器集中2箇所、黒曜石集積1箇所 遺物包含流路跡1条、

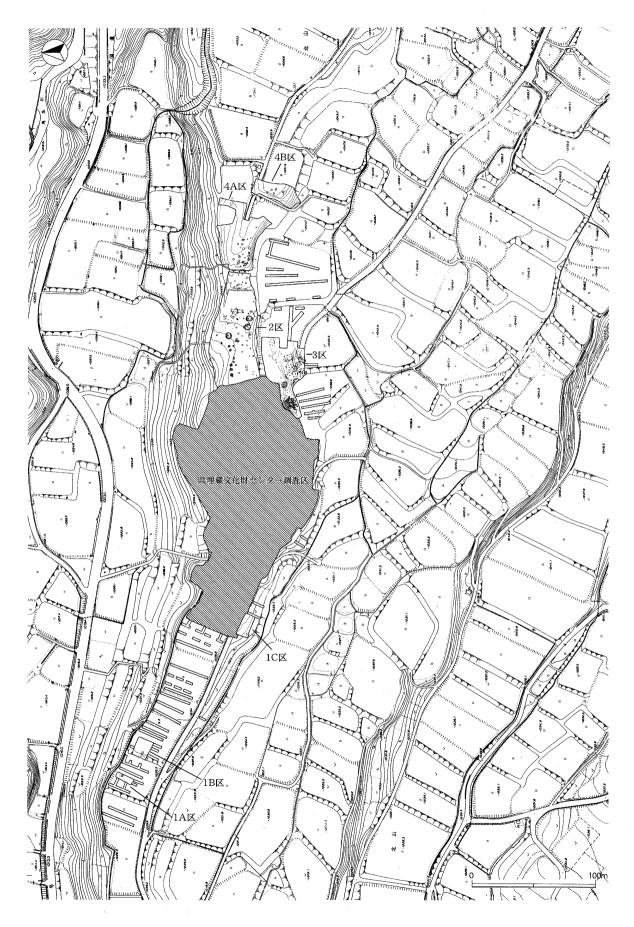
中期後半・後期前半(~中葉)遺物包含層

平安時代:住居址1軒

不 明:住居址1軒

1 区 (第2・3図)

県埋蔵文化財センター調査区に接する南斜面と、西へ約100m離れた台地平坦面である。平成9年度の調査範囲を確定させる試掘調査で土坑が検出され、同年度に土坑周囲を拡張して発掘調査した。調査区は3地点で、西からA・B・C地点とした(以下1A・1B・1C区)。1A区と1B区は隣接している。面積は1A区:70㎡、1B区:200㎡、1C区:170㎡である。3地点から縄文時代と考えられる土坑が7基検出されている。



第1図 発掘調査区 (1/3,000)

2 区 (第4図)

県埋蔵文化財センター調査区の東に接する台地平坦面で、平成9年度に発掘調査した。調査面積は2,800 m²である。縄文時代の住居址5軒、方形柱穴列2基、土坑107基、焼土址1基と時期不明の住居址1軒が検出された。

3 区 (第5~7図)

県埋蔵文化財センター調査区の南に接する斜面で、平成9・10年度に発掘調査した。調査面積は1,360 ㎡である。縄文時代は住居址19軒、方形柱穴列2基、土坑219基、配石6基、列石8基、埋設土器1基、焼土址7基、土器集中2箇所、黒曜石集積1箇所、後期前半の土器を包含する流路跡1条と、中期後半・後期前半(~中葉)の遺物包含層が検出された。平安時代は住居址1軒が検出された。

4 区 (第8・9図)

2区の東に隣接する台地平坦面で、平成11年度に発掘調査した。調査区は2地点からなり、開田工事でローム層から火砕流堆積物層まで削平された箇所を挟み東西に隣接する。西側1,400㎡をA地点、東側500㎡をB地点とした(以下4A・4B区)。縄文時代の住居址1軒、土坑46基、焼土址1基が検出された。4B区から長峯遺跡の発掘調査区南端までの距離は約40mである。

(2) 遺構の認定

住居址

竪穴構造で(検出状態から竪穴構造と考えられるものも含む)、炉址があり、その周りに柱穴がめぐる ものを住居址とした。ただし、炉址は検出されないが柱穴と敷石が揃って検出されたもの(3区16住)、 柱穴が整然と配列し住居址と想定されるもの(3区23・26住など)には番号を付している。

方形柱穴列

6基以上の柱穴の組み合わせで、長軸・短軸とも柱筋が通るものを方形柱穴列とした。柱穴にはピット 番号でなく土坑番号を付している。これは現場で方形柱穴列と認識できず、各柱穴を土坑で扱ったためで ある。

土 坑

住居址に伴わない穴で、人為的に掘削された穴のすべてを土坑とした。

配石・列石

住居址(主体部)内の礫を除き、意図的に置かれた礫、掘方を伴い据えられた礫に番号を付した。形状が列をなすものを列石とした。番号を付した配石・列石は、無数にあると思われるものの中の主だったものである。

埋設土器

住居址や土坑に伴わない土器で、掘方をもつものに番号を付した。

焼土址

検出された場所で形成した焼土で、住居址の炉址を除くものに番号を付した。

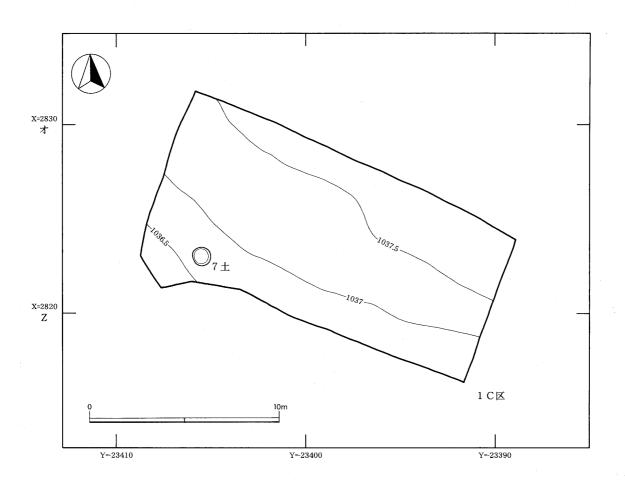
土器集中

特定範囲からの土器の集中出土を土器集中とした。

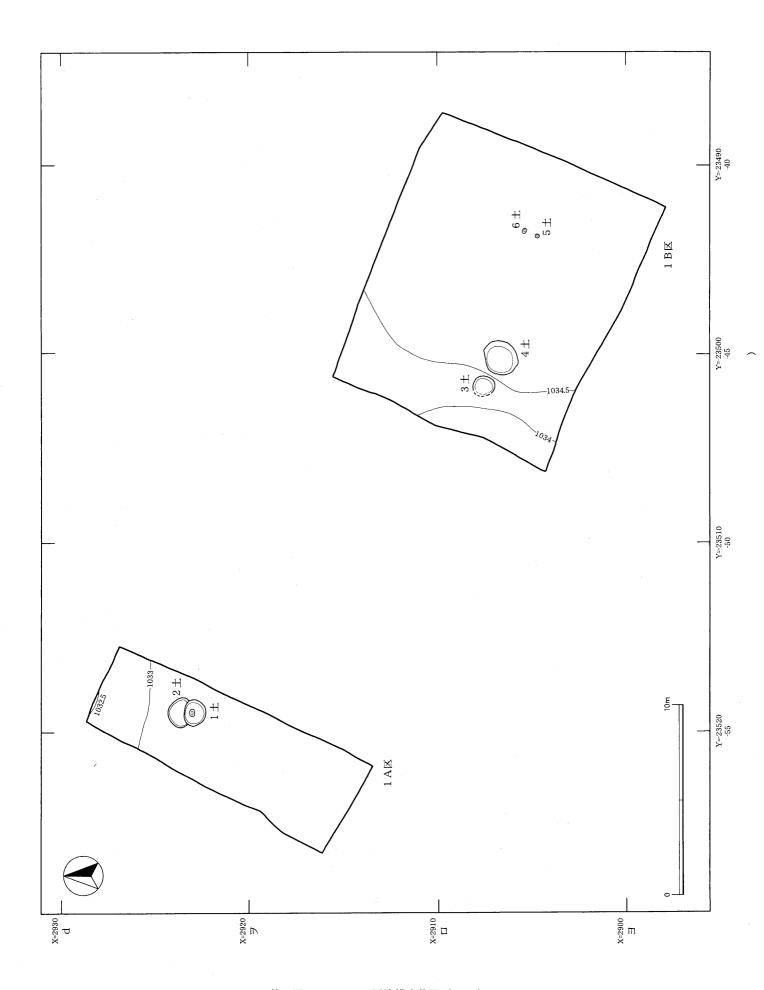
(3) 遺構名と遺構番号

市教育委員会が調査し検出した遺構の番号は、通しで付したものと調査区ごとに付したものがある。通 し番号の遺構は住居址と方形柱穴列である。それ以外は調査区ごとに番号を付している。土坑を例にとれ ば、2つの調査区を別の担当者が同時に調査をした年度があり、次々と検出される土坑に対し即座に番号を付す必要があったためである。

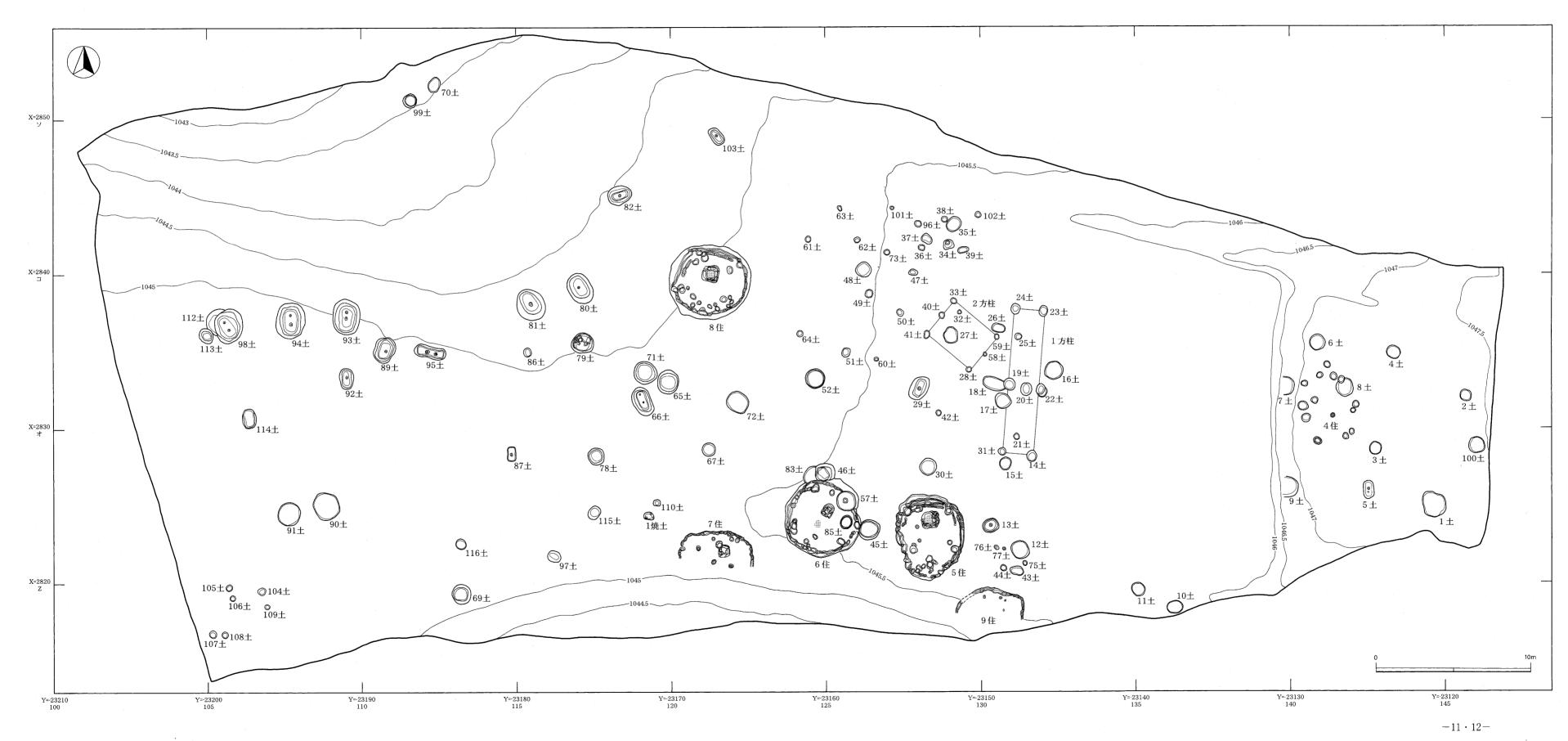
整理作業時に、遺構番号を変更したものと新たに番号を付したものがある。ここでは住居址に限り記しておく。3 a · 3 b · 3 c 住とした住居址は、3 a 住を 3 住、3 b 住を23 住、3 c 住を24 住に変更している。また、11 住に重複する住居址を25 住、2 · 17 住に重複する住居址を26 住と、新たに番号を付している。住居址に伴う柱穴および推測されるものには、住居址ごとにピット番号(P1、P2~)を付している。しかし、壁(掘方)が検出されなかった住居址は、柱穴のすべてを特定することができていない。特に住居址の重複が著しい 3 区の斜面には、整理作業を経た今でも所属不明の柱穴が多数存在する。数が多すぎて特定できないもの(23 · 24 住の出入口部付近)、重複する住居址のどちらともとれる位置にあるものは(2 · 17 · 26 住)、該当するすべての住居址番号をピット番号に冠している(例:23 · 24 - P1)。



第2図 1 C 区遺構全体図 (1/200)



第3図 1A·1B区遺構全体図 (1/200)

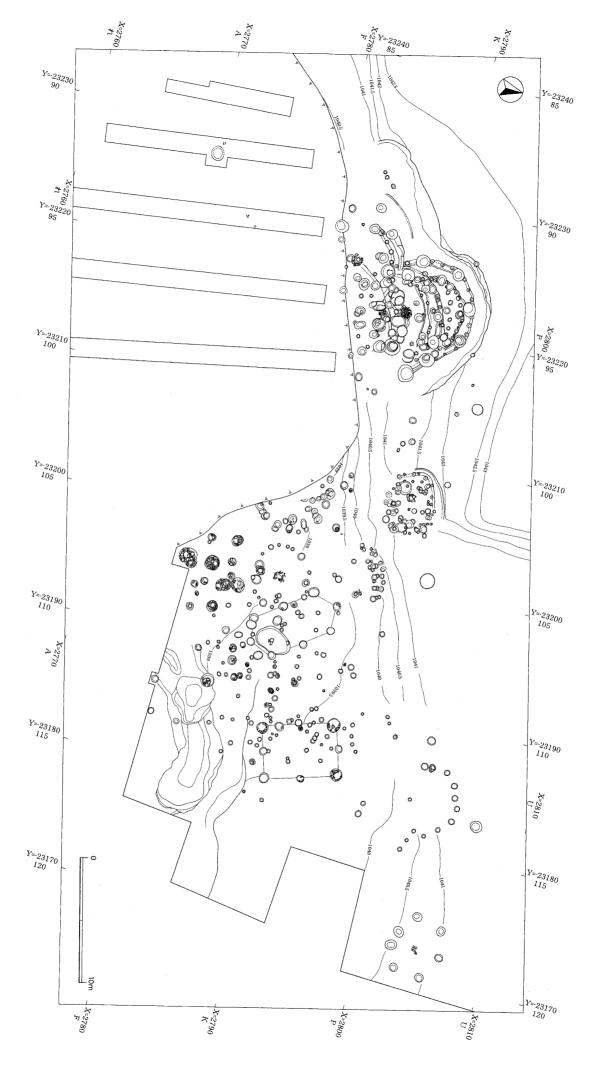




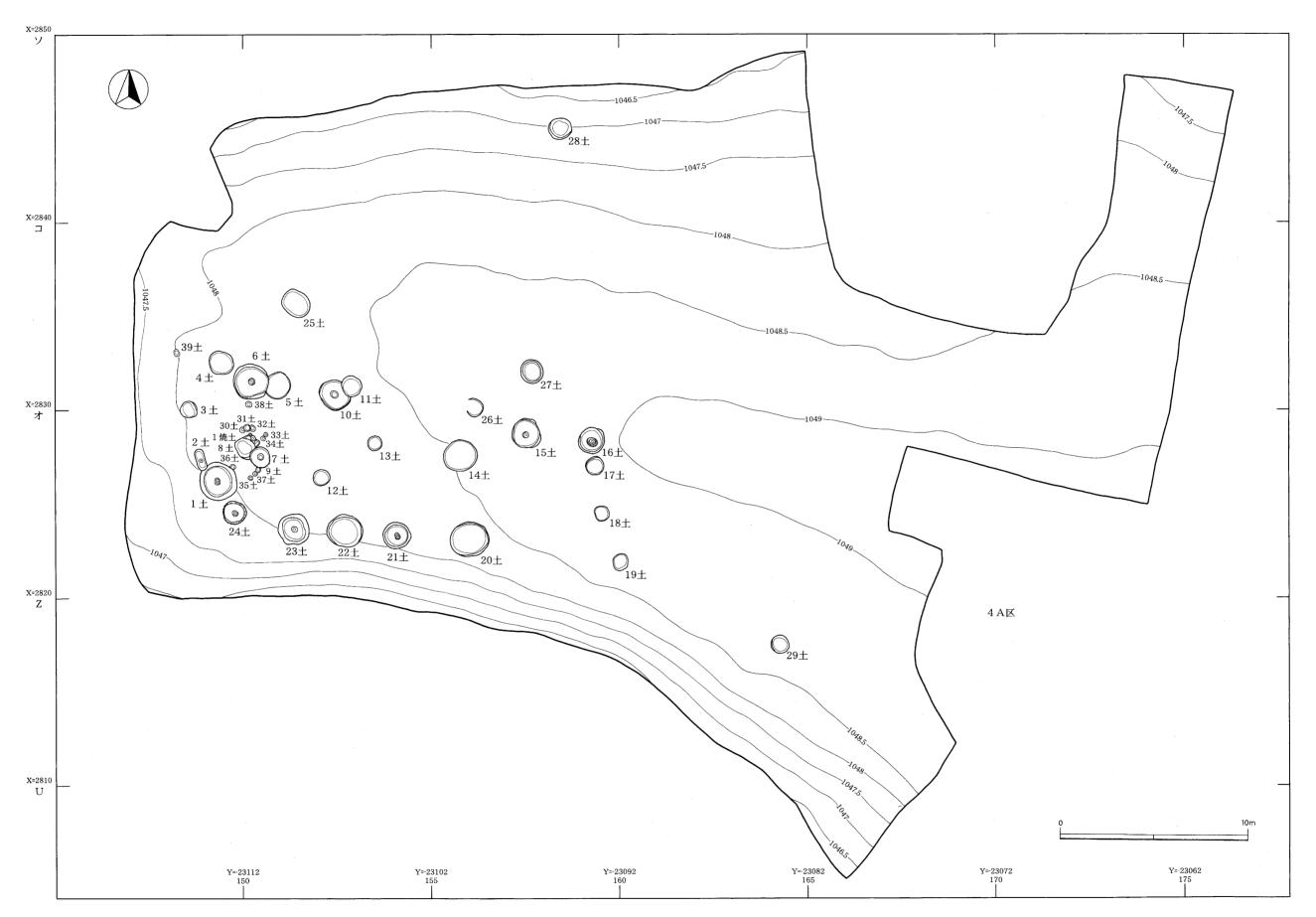
第5図 3区礫 (上面) 検出状態 (1/200)



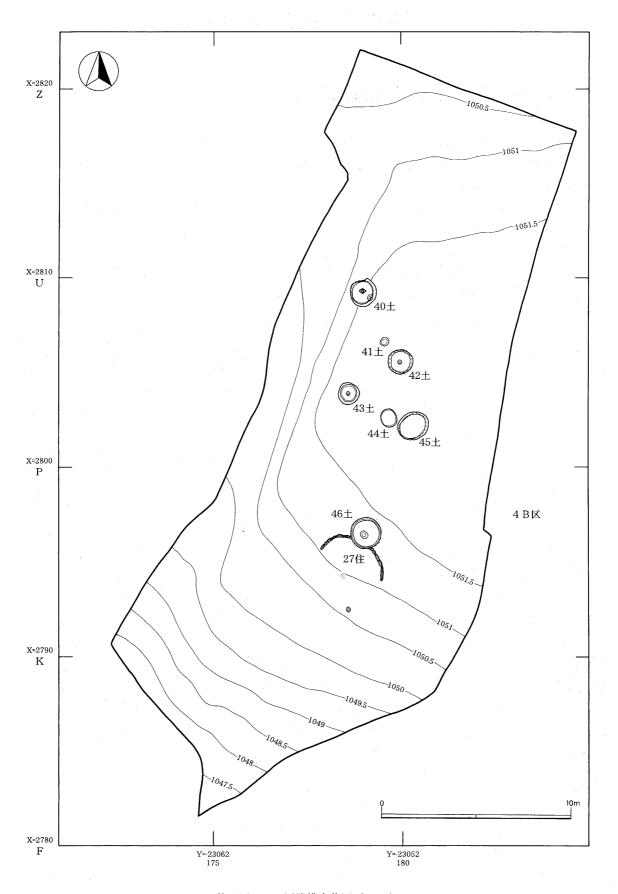
第6図 3区礫(下面)検出状態(1/200)



第7図 3区遺構全体図 (1/200)



第8図 4A区遺構全体図 (1/200)



第9回 4B区遺構全体図 (1/200)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

聖石遺跡(遺跡番号51) は長野県茅野市北山芹ヶ沢に所在する。八ヶ岳西麓の裾野に位置し、角名川・渋川に沿った東西に長い細尾根状の台地に立地する。JR茅野駅から北東方面へ約9kmの位置にあり、遺跡内の標高は1031~1051mを測る。

遺跡名は遺跡内にある安山岩の巨石「ヒジリ石」に由来する。遺跡内に畑をもつ地権者によると、「ヒジリ石」は台地平坦面最大幅部の中央付近にあり、昭和40年前後の開田工事の際に台地の南縁辺に沿った道路に接する畑に移されたとのことである。この石は芹ヶ沢区の七石の一つとされている。

台地の平坦面と南北の斜面は、縄文時代から現在に至るまで自然と人工の地形改変を受けている。平坦面 の大部分は開田工事でひな壇状に造成され、土手とその法尻周囲はローム層、または下位の火砕流堆積物層



第10図 遺跡の位置 (1/75,000)

まで削り取られている。南北の斜面は河川の浸食や凍結による自然崩落に加え、開田工事と道路建設時の切り盛りにより、平坦面以上に複雑な地形となる。斜面は流失や削平により崖と言い換えられる箇所が多く、相当数の遺構が失われていると考えられる。逆に盛土された部分は遺構の保存状態が極めて良い。市教育委員会が調査した南側斜面から低地では(3区)、縄文時代の地表面とみられる面が広範囲に検出されている。

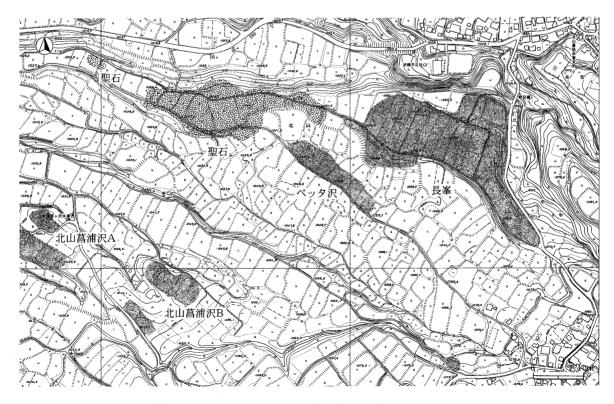
遺跡内における台地平坦面の最大幅は南北100m弱を測る。ここには直径10m程の遺構の空白域「中央広場」を囲み縄文時代中期後半の環状集落が形成されている(平成10年度県埋文センター調査区)。台地は西側へ向かい徐々に幅を狭めながら芹ヶ沢の集落へ続く。東側へは一旦「ベッタ沢」の浸食により、遺跡内で最も台地の幅を狭めるが(4A区)、急激に幅を増して縄文時代中期の著名な長峯遺跡(遺跡番号50、平成11・12年度県埋蔵文化財センター調査)へ至る。

「ベッタ沢」は八ヶ岳西麓の谷の中でも特に幅が広く、谷の傾斜はなだらかである。谷中には台地に平行する微高地が数条ある。上流から供給された土石流の堆積による地形と考えられ、その一つにベッタ沢遺跡がある。調査を開始した頃、谷中には湧水点や湿地があり、セリ・フキ・ナズナなどの山菜が採集できた。また、冬期になると水場に集まる鳥獣を狙う猟師の姿が見受けられた。縄文時代においても「ベッタ沢」は、飲料水や食糧を賄う上で絶好の場所であったと考えられる。

第2節 周辺の遺跡

聖石遺跡の周辺には、大小の遺跡が群在する。この地域は農業基盤整備事業により多くの遺跡が発掘調査され、個々の遺跡の内容が明らかにされてきた。遺跡群を研究する上で最適な資料を有する地域となっている。

周辺の遺跡として同一台地の東に長峯遺跡 (縄文時代中期~後期)、長峯遺跡からベッタ沢を見下ろした 微高地にベッタ沢遺跡 (縄文時代中期~後期) がある。ベッタ沢を挟み対峙する台地に北山菖蒲沢 A 遺跡と B 遺跡 (縄文時代前期~中期) などがあり、ベッタ沢を遡ると町道下遺跡 (縄文時代中期) がある。



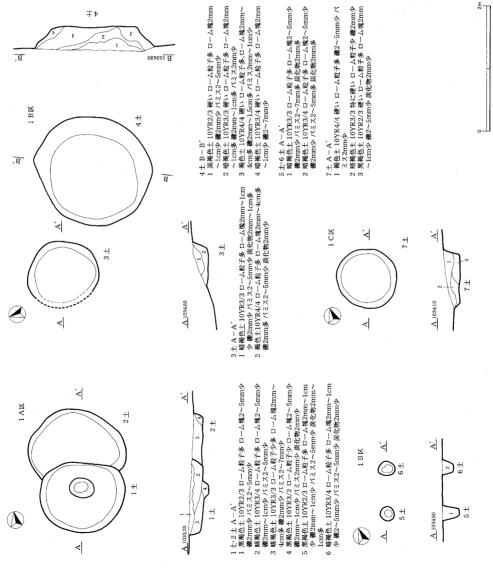
第11図 周辺の遺跡(1/7,500)

第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 1区の遺構と遺物

(1) 概要

3地点から縄文時代と考えられる土坑が7基検出された(第12図)。時代を特定した根拠は覆土の色調と締まり具合からである。1A区と1B区の土坑は、県埋蔵文化財センター調査区から西へ大きく外れる上に出土遺物もなく、時間的・空間的な位置づけが難しい。形態から1~4土は貯蔵穴と考えられ、5・6土はいわゆる「ピット」である。1C区の土坑も出土遺物がないため時期が特定できないが、位置からみて県埋蔵文化財センター調査区の遺構群に含まれるものである。



第12図 1区土坑 (1/60)

第2節 2区の遺構と遺物

(1) 概要

検出された遺構は住居址・方形柱穴列・土坑・焼土址である。住居址は6軒で5軒は縄文時代である。時期は縄文時代中期後半が4軒、後期前半が1軒、不明が1軒である。方形柱穴列は2基で、出土遺物からみて縄文時代と考えられる。土坑は107基検出されている。出土した土器が縄文土器に限られるため、土器を伴う土坑は縄文時代と判断される。また、出土遺物がない土坑も、覆土の色調と締まり具合などから縄文時代と考えてよいと思われる。形態・覆土・出土遺物などから、墓坑・貯蔵穴・落し穴といった用途を推測できるものがある。墓坑と考えられるものは18・79土など、貯蔵穴と考えられるものは13・65・71土など、落し穴と考えられるものは81・93・94土などである。焼土址は1基である(第21図)。現地で68土とされたものを改名した。平面形が不整で掘り込みが浅く、当初から火を焚く目的で掘り込んだと考えられることによる。

遺物は縄文時代中期後半から後期前半の土器と石器である。土器は図上復元を含め、復元可能なものが約10個体ある。石器は凹石・磨石・敲石・打製石斧・台石などがある。

(2) 縄文時代

①住居址

4号住居址 (第13図)

位 置: $x \sim y - 140 \sim 142$ グリッドに位置する。

重 複 関 係: P13が8土と重複する。 P13が新である。

検出状態:遺構検出面はローム層である。開田工事に伴う客土を除去し、若干掘り下げて柱穴を検出 した。

形態・規模:平面形態は柱穴配置からみて主軸が短い楕円形と考えられる。平面規模は柱穴の外縁間で、 主軸長約4m、副軸長約5mを測る。主軸方向はN-81°-Eである。

覆 土:住居址本体の覆土は不明である。

壁 :検出なし。

周 溝:検出なし。

床 面:検出なし。炉址の深さと柱穴覆土の色調からみて、黒色土層から黒褐色土層内にあったと 考えられる。

炉 址:埋甕炉であるが、本来炉石を伴っていた可能性がある。甕の胴部下半から底部が残存する。 土圧により潰れて出土した。焼土は残存していない。位置は主軸線から南へずれている。

柱 穴:13基にピット番号を付したが、同時存在した柱穴は7基と考えられる(1-P1・2、2-P3・4、3-P5、4-P6、5-P7、6-P9、7-P10・13)。したがって、P8・11・12は本址に伴わないピットの可能性が高い。出入口部の対ピットはP6とP7である。P1・2、P3・4、P10・13はそれぞれ柱の建て替えと考えられる。

付属施設:なし。

出土遺物:P4とP6から大形の土器片が出土している。

時期:柱穴から出土した土器からみて、堀之内I式併行と考えられる。

5号住居址 (第14図)

位 置: $Z\sim 1-127\sim 129$ グリッドに位置する。

重複関係:重複なし。

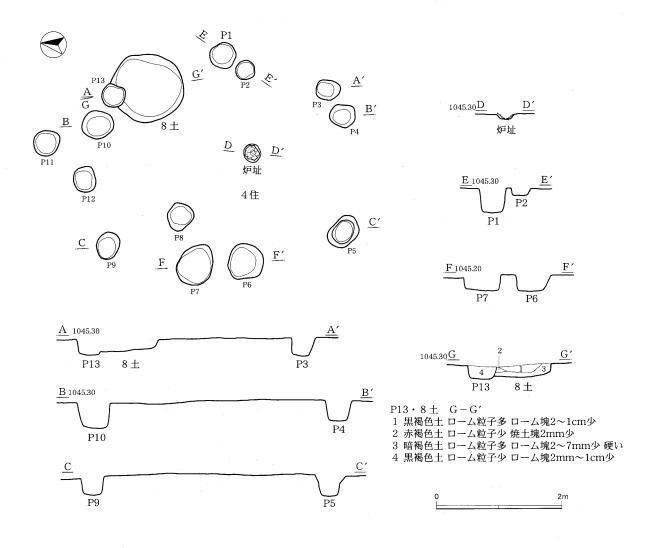
検 出 状態:遺構検出面はローム漸移層である。

形態・規模:平面形態は出入口部が張り出す隅丸五角形を呈す。平面規模は主軸長5.5m、副軸長4.4mを測る。主軸方向はN-1°-Eである。

覆 土:炉址・柱穴・埋甕を含め、10層に分層された(E-E')。暗褐色土が主体である。

壁 : 立ち上がりは南壁と北壁で不明瞭、他は比較的明瞭である。壁の残存高は床上10~20cm前後を測る。

周 溝:北壁で3本、東壁と西壁で部分的に2本、南壁で1本の周溝が検出された。北壁内側の2本は 貼床されている。



第13図 2区4号住居址、8号土坑(1/60)

床 面:北から南に緩傾斜する。主柱穴に囲まれた内側が特に硬い。出入口部付近が貼床される。

炉 址:石囲炉である。北壁と西壁の炉石が抜き取られている。火床の焼土は明瞭である。

柱 穴:8基の柱穴にピット番号を付しが、同時存在した柱穴は6基と考えられる(1-P1、2-P2、 $3-P3\cdot5$ 、4-P7、5-P8、 $6-P4\cdot6$)。P3とP5、P4とP6は同じ柱穴の掘り直しで、ともに内側の柱穴($P5\cdot6$)が貼床されていた。P7とP8は対ピットとみられる。深さは他の柱穴の半分以下である。

付属施設:3基の埋甕を伴う。埋甕1は出入口部、埋甕2は住居址中央のやや西、埋甕3は炉址の西脇にある。埋甕1は正位に埋設される。口縁部から胴部下半が残存し、底部が抜かれている。口唇部の内・外端が剥落しているが意図的な打ち欠きであるのか判断に迷う。埋甕2は逆位に埋設される。胴部上半と口縁部の一部が残存し、他は打ち欠かれている。埋甕3は逆位に埋設される。口縁部から胴部上半が残存し、他は打ち欠かれている。

出土遺物:覆土から約60点の土器片が出土している。

備 考:周溝が複数本あり内側の周溝が貼床されていたこと、柱穴に位置を変えた掘り直しがあり 内側が貼床されていたことなどから、最低1回の拡張があったと考えられる。

時期:3基の埋甕と覆土出土の土器からみて、曽利Ⅳ式併行と考えられる。

6号住居址 (第15図)

位 置:ア〜ウー124・125グリッドに位置する。

重 複 関 係:45・46・57・85土と重複する。45・46・57土に切られ、85土を貼床する。

検 出 状 態:遺構検出面はローム漸移層である。

形態・規模:平面形態は円形を基調とするが、北西の壁が張り出している。出入口部は炉址の位置と柱 穴配置からみて、P7・8・12付近と考えられる。平面規模は主軸長5.1m、副軸長が5.0m を測る。主軸方向はN-27°-Eである。

覆 土:柱穴を含め、7層に分層された(D-D')。 $1\cdot 2$ 層はレンズ状の堆積であり、自然堆積 と考えられる。

壁 : 立ち上がりは奥壁を除き明瞭である。壁の残存高は床上15~25cm前後を測る。

周 溝:ほぼ全周する。ピット番号は付していないが、出入口部とP2脇の周溝内に床面からの掘 削深度が30cmを超す小穴がある。

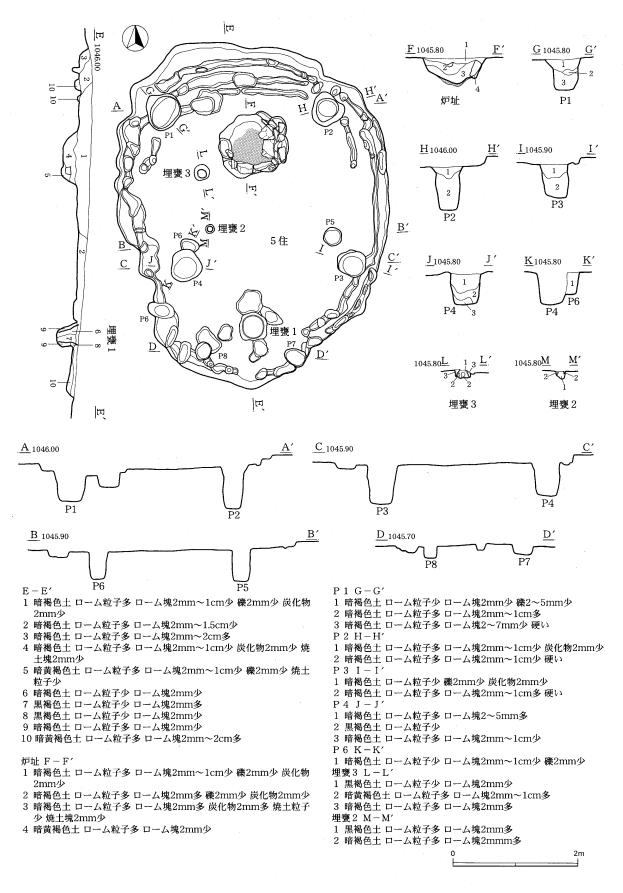
床 面:炉へ向かい緩傾斜する。主柱穴に囲まれた内側が特に硬い。出入口部付近が貼床される。

炉 址:板状の礫を4辺に立てた石囲炉である。東側の炉石が外側へ倒れている。掘方は石囲に対してひと回り大きく、火床の焼土が石囲から奥壁側にずれている。奥壁側から出入口部側への炉址のつくり替えと考えられる。

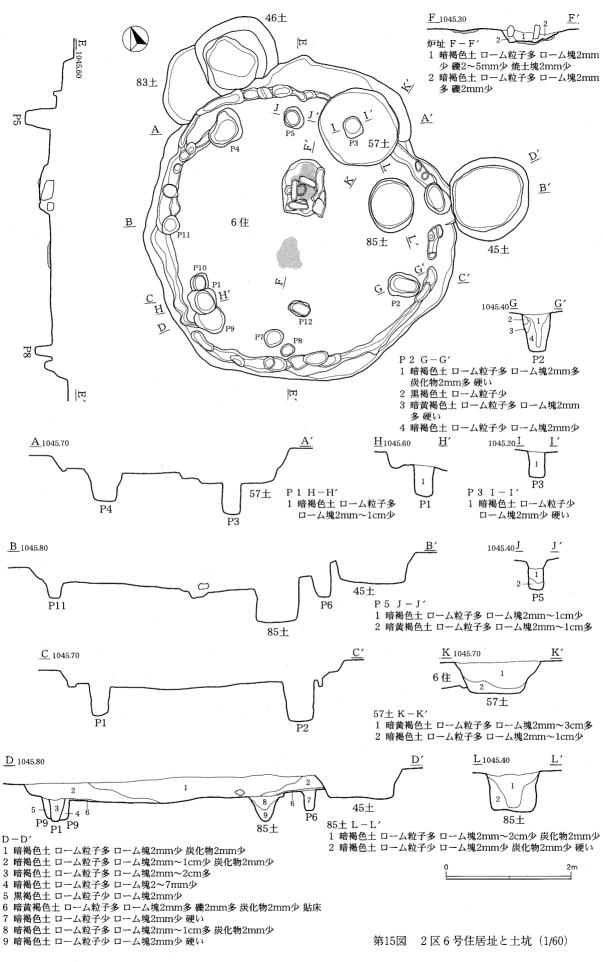
柱 穴:12基にピット番号を付したが、同時存在した柱穴は8基と考えられる(1-P1・9・10、2-P2、3-P3、4-P4、5-P5、6-P6、7-P7・8・12、8-P11)。P1・9・10および P7・8・12の新旧関係は不明であるが、柱の建て替えに伴う柱穴の掘り直しと考えられる。 P2で柱痕が確認されている。

付属施設:主軸線上に不整形の焼土址が検出された。掘方はない。

出土遺物:覆土から約200点の土器片が出土している。時期は曽利N式とV式で、V式が多い。



第14図 2区5号住居址(1/60)



備 考:床上20~25cm間に人頭大の礫が散在する。礫は窪地化(2層堆積後)した住居址内に投棄 されたものと考えられる。

時期:曽利IV式とV式の土器片が混在するが、V式併行と考えておきたい。

7号住居址 (第16図)

位 $\mathbb{E}: \mathbf{Z} \cdot \mathbf{r} - 120 \sim 122$ グリッドに位置する。

重複関係:重複なし。

検 出 状 態:遺構検出面はローム層である。台地の南側肩部に位置し、約1/2が流失している。

形態・規模:平面形態は不明である。出入口部は炉址と壁の位置関係からみて南側と考えられる。平面 規模は東西長4.8mを測る。主軸方向は N-10°-E 前後と考えられる。

覆 土:炉址を含め、3層に分層された(B-B')。

壁 : 立ち上がりは不明瞭である。壁の残存高は床上5㎝前後を測る。

周 溝:小穴が連続する周溝で総じて浅く不明瞭である。

床 面:南側に緩傾斜する。火砕流堆積物層の上面となり荒れている。

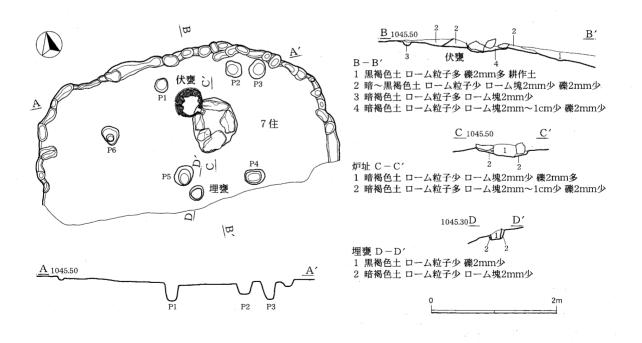
炉 址:板状の礫を4辺に据えた石囲炉である。出入口部側の礫は床面に対し平らに据えられる。

柱 穴:6基にピット番号を付したが、位置と深さからみて柱穴であるのか疑問が残る。

付属施設:伏甕と埋甕が各1基ある。伏甕は石囲炉の北西角に接して床面に置かれている。胴部中位から下半部が打ち欠かれている。埋甕は炉址の南にある。正位に埋設され、口縁部から胴部中位が残存する。

出土遺物:覆土から約20点の土器片が出土した。

時期:伏甕と埋甕の時期からみて、曽利V式併行と考えられる。



第16図 2区7号住居址 (1/60)

8号住居址 (第17図)

位 置:ク~コー120~122グリッドに位置する。

重 複 関 係:重複はなし。

検出状態:多量の土器片と焼土の検出から住居址であることが確認された。遺構検出面は他の住居址 より高く、暗褐色土層である。

形態・規模:平面形態は円形である。出入口部は炉址の位置と柱穴配置からみて、P7 と P16 および P 8 と P9 の間と考えられる。平面規模は主軸長4.8m、副軸長が5.2mを測る。主軸方向は N-15° -E である。

型 土:柱穴を含め、11層に分層された(G-G')。炉址の北側(奥壁側)を中心に、床上5~10 cmに焼土層が確認された。焼土の範囲からみて、住居址が窪地化した段階に火焚き行為があったと考えられる。

覆土から大小の礫と一括土器2個体が出土している。住居址内への遺物投棄と考えられる。

壁 : 立ち上がりは明瞭である。周溝と壁の間には、床面より一段高い幅10~40cm前後の面がある。壁の残存高は床上20~40cm前後を測る。

周 溝:2本ある。外側は全周するが、内側は北壁と西壁に設けられる。2本とも掘方は良好で、 深さは平均10cm前後を測る。内側では貼床が確認された。

床 面:炉の周囲と出入口部が皿状に窪み、他より特に硬い。各柱穴から周溝までは貼床される。

炉 址:石囲炉である。焚口部と考えられる南辺に小振りな礫を敷き、他の辺には板状の礫を立て ている。西辺の炉石の一部は抜き取られている。火床の焼土は明瞭に残る。

柱 穴:19基にピット番号を付したが、同時存在した柱穴は6基と考えられる(1-P1・2、2-P3・4、3-P7・8、4-P9・16、5-P10~12・17、6-P13~P15・19)。P7・8とP9・16は出入口部の対ピットとみられる。P2・3・10・19では貼床が確認され、P11も覆土からみて貼床されていた可能性がある。それぞれの柱は外側へ向かい建て替えられている可能性が高い。P4で柱痕が確認されている。

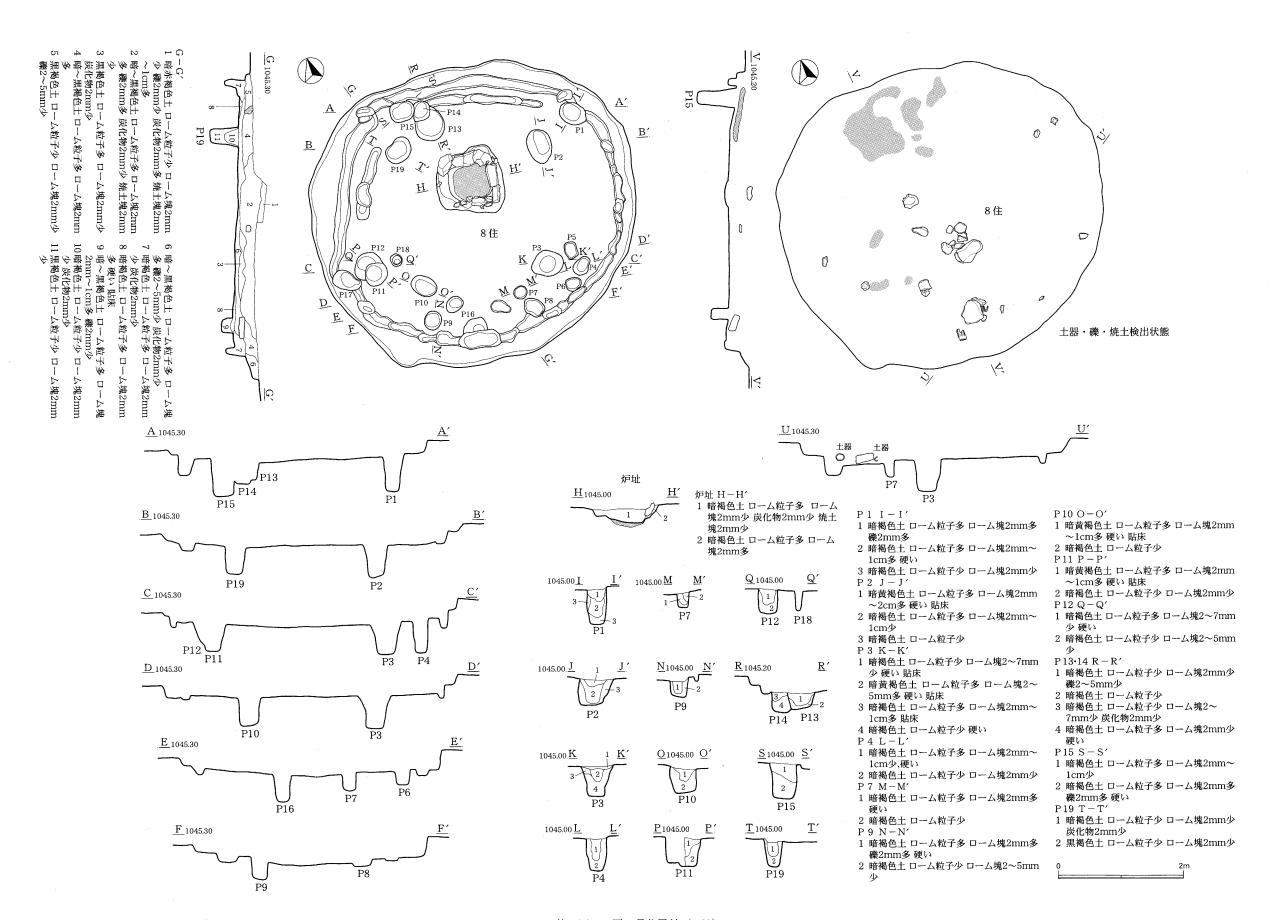
付属施設:なし。

出土遺物:覆土から一括土器2個体と、約200点の土器片が出土している。一括土器の1個体は胴部 下半から底部が残存し、もう1個体は底部が抜かれ胴部中位から下半が残存する。

備 考:周溝と柱穴が内側から外側へ掘り直されているため、拡張に伴う住居址の建て替えが考え られる。周溝の本数では1回であるが、柱穴の数では数回の建て替えとなる。

時 期:覆土から出土した一括土器および土器片からみて、曽利Ⅱ式併行と考えられる。

*



第17図 2区8号住居址 (1/60)

9号住居址 (第18図)

位 置:Y-129~131グリッドに位置する。

重複関係:重複なし。

検 出 状 態:遺構検出面はローム層である。台地の南側肩部に位置し、1/2以上が流失している。

形態・規模:平面形態は不明である。平面規模は東西長4.2mを測る。

覆 土:暗褐色土の単一層である。

壁 :立ち上がりは西側で明瞭、他では不明瞭である。壁の残存高は床上5~20cm前後を測る。

周 溝:小穴を伴う周溝である。壁と同様に西側で明瞭、他は不明瞭である。

床面:南側に傾斜する。火砕流堆積物層の上面となり荒れている。

炉 址:検出なし。

柱 穴:底面から4基の小穴が検出され図化したが、規模・位置などからみて柱穴とは考えられな

い。そのためにピット番号は付していない。

付属施設:なし。出土遺物:なし。

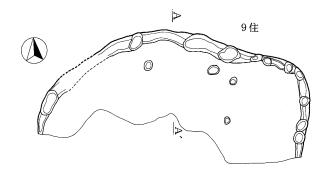
備 考: 炉址は失われたとしても、主柱穴となり得るピットが見当たらない。このような状態から 住居址としてよいものか疑問であるが、現場で住居址番号が付されたことを重視し、住居

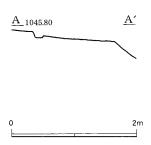
址として報告する。

時期:不明である。

②方形柱穴列

方形柱穴列の周囲に直径30~80cm前後の柱穴状の土坑が集中しているが、第 I 章第 4 節で記したとおり、6 基以上の組み合わせで長軸・短軸とも柱筋が通る 2 基に番号を付した。





第18図 2区9号住居址(1/60)

1号方形柱穴列(第19図)

位 置: $x\sim p-130\sim 132$ がリッドに位置する。

重 複 関 係:各柱穴に重複する土坑と、柱穴を結んだ範囲にかかる土坑に、17・18・26・25土がある。 19土と18土は、19土が切られている。20土は長軸線上に位置し、19土と22土を結ぶ線上に も位置するため、本址に伴う柱穴と考えておく。

検 出 状 態:遺構検出面はローム層である。

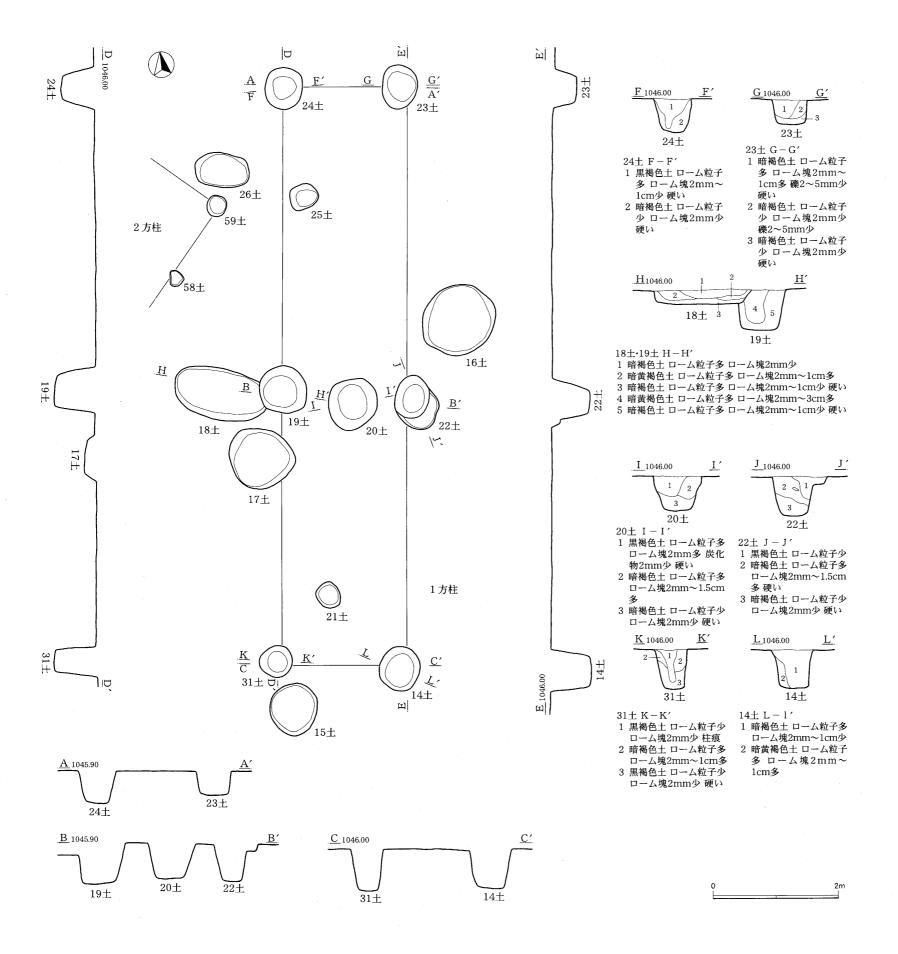
形態・規模:柱穴配置は長方形を呈す。柱間は長軸2間、短軸は2間と1間である。平面規模は長軸長9.3m、短軸長が2.0mを測る。長軸方向はN-6°-Eである。

柱 穴:7基で構成される。柱穴の規模は直径50~80cmほどである。22土の南側は段掘りとなる。 31土で柱痕が確認されている。

付属施設:なし。

出土遺物:20土から土器が1点出土している。矢羽状の条線文が確認される。

時期:20土の土器は曽利Ⅲ式以降と考えられる。また、19土を切る18土から出土した土器は堀之 内式併行の可能性がある。以上から曽利Ⅲ式以降と考えておく。



2号方形柱穴列(第20図)

位 置:カ~ケー128~130グリッドに位置する。

重 複 関 係:柱穴を結んだ範囲にある土坑に、27土と37土がある。

検 出 状 態:遺構検出面はローム層である。

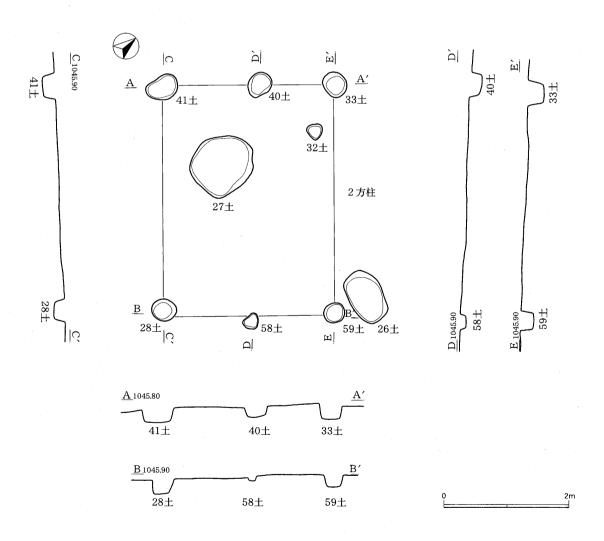
形態・規模:柱穴配置は長方形で、柱間は長軸1間、短軸2間である。長軸線上の40土と58土は「棟持柱」と考えられる。平面規模は長軸長3.6m、短軸長が2.8mを測る。長軸方向はN-49°-Wである。

覆 土:暗褐色土ベースである。

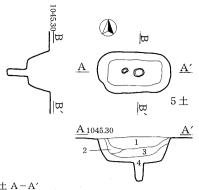
柱 穴:6基で構成される。柱穴の規模は直径25~50cmほどである。

付属施設:なし。出土遺物:なし。

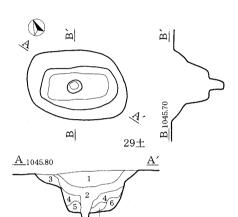
時期:出土遺物がないため時期は特定できないが、覆土からみて縄文時代と考えられる。



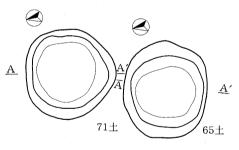
第20図 2区2号方形柱穴と周辺の土坑 (1/60)



- $5 \pm A A'$

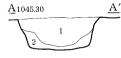


- 黒褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm少
- 2 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm多 礫2~5mm少
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多
- 4 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm少 硬い 5 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~3cm少多 6 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm少 硬い





- 71± A-A'
- 1 黒褐色土 ローム粒子多 ローム 塊2mm~1.5cm多 炭化物2mm少
- 2 暗褐色土 ローム粒子多 ローム 塊2mm~2cm多 炭化物2mm多
- 3 暗褐色土 ローム粒子多 ローム 塊2~5mm多 炭化物2mm少

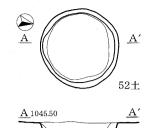


- 65± A-A'
- 1 黒褐色土 ローム粒子多 ローム 塊2mm~1cm少 礫2mm多
- 暗褐色土 ローム粒子多 ローム 塊2mm~1cm少 礫2~5mm少





- 78土 A-A'
 - 1 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊 2mm多 炭化物2mm多 2 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム
 - 塊2mm~2cm多
 - 3 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊 2mm多 炭化物2mm少
 - 4 暗褐色土 ローム粒子多 ローム 2mm~1cm少 礫2~5mm少



52+ A-A'

A'

13士

<u>A</u>

13土

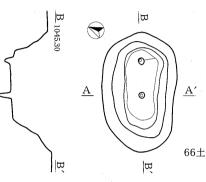
- 1 黒褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm少 礫2mm多
- 2 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多
- 3 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm少 礫2mm多

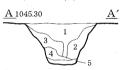


1

<u>A</u>1046.00

- ~1cm少 2 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm少 礫2mm~1cm少 炭化物 2mm~1cm少
- 暗黄褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm少
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子少





66+ A-A'

- 1 黒褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 炭化物2mm少
- 2 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少
- 3 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~3cm多 4 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm少

67土

5 暗~黒褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm少





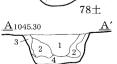
<u>A</u>1045.50 <u>A'</u>

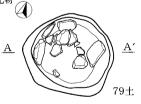
67土 A-A'

A

<u>A</u>1045.40

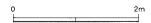
1 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多 礫2~5mm少



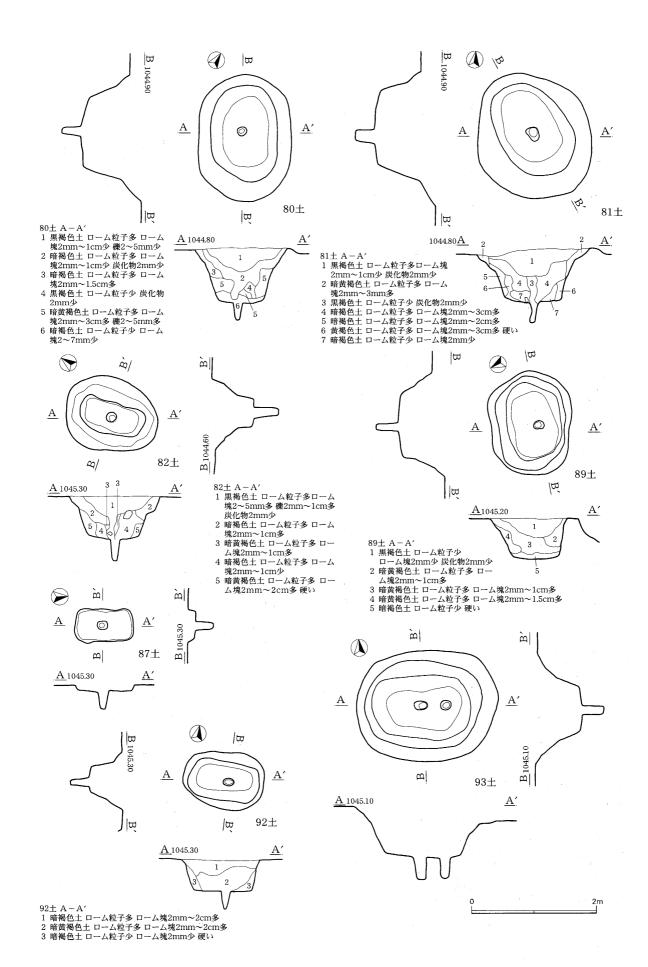


A1045.20 <u>A</u> 2

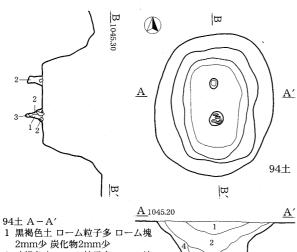
- 79土 A-A' 1 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム 塊2mm~1cm多 礫2mm少 炭化 物2mm少
 - 2 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊 2mm~1cm少 炭化物2mm少
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少 礫2mm ~5cm少

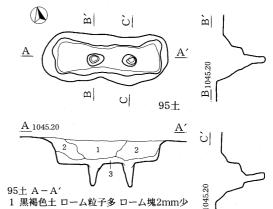


第21図 2区土坑(1)、1号焼土址(1/60)



第22図 2区土坑(2) (1/60)





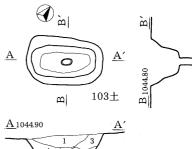
- 2 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊 2mm~1cm多 礫2mm少 3 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム
- 塊2mm~2cm多 4 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊
- 2mm~1cm少 硬い 5 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊
- 2mm~1cm少 炭化物2mm少 6 暗黄褐色土 ローム粒子多 ロー ム塊2mm~1cm多 硬い

-8

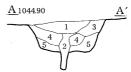
- B B'

B

- 1 黒褐色土 ローム粒子多2 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊 2~5mm少 礫2mm少
- 3 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊 2mm少 礫2mm少 特に硬い



0

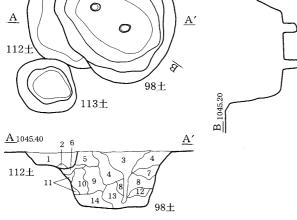


2 黒褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm多 3 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm少

103生 A-A'

礫2mm少

- 1 黒褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm少 礫2mm 多 炭化物2mm少
- 2 黒褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm少 3 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多
- 5 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm少 炭化物 2mm少 硬い





- 1 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm少
- 2 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm少
- 3 黒褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm少 炭化物2mm少
- 4 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少
- 5 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~4cm多
- 7 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多 8 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多
- 9 暗褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多 礫2~5mm少
- 10 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多
- 11 黒褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm少
- 12 黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~5cm多
- 13 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm~1.5cm少
- 14 暗黄褐色土 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多





114土 A-A'

- 1 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm少
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm多 3 暗褐色土 ローム粒子少 ローム塊2~7mm少

2m

第3節 3区の遺構と遺物

(1) 概 要

3区の原地形は開田工事や道路建設により大きく改変されている。残存する旧地形に遺構の位置と検出レベルを重ねて旧地形を推測すると、台地はベッタ沢に面して湾曲し、斜面はベッタ沢へ向かい緩やかに傾斜する地形となる。ベッタ沢から聖石遺跡の台地平坦面に上がるルートを推測するならば、3区が最も適していると言えよう。

3区の報告では調査区内を「斜面」と「低地」で呼び分けたい。その境界は、6配石の長軸線を基軸とし、 東は21住、西は開田工事で弓なりに削平された法尻を結ぶ線付近とする。推測される旧斜面は、傾斜の急な 斜面と平坦面に近い斜面からなり、その変換点は「斜面」と「低地」の境界付近にあると考えられる。また、 急な斜面に住居址と配石・列石、平坦面に近い斜面に方形柱穴列や土坑などが構築され、境界を境に構築さ れる遺構の種類に違いがみられる。地形の変換点を空間利用の境界に利用している可能性があり、この線を 重要視したいためである。

3区では3つの時代の遺構と遺物が検出されている。時代ごとに概要を記すが、縄文時代は中期と後期にわけて記す。なお、3区の遺物整理は作業の途上にあり、出土遺物を報告することができない。

(2) 旧石器時代

斜面、12住付近からナイフ形石器が1点出土している。覆土に混入したものである。

(3) 縄文時代

中期

掘方を伴う遺構は検出されていないが、該期の土器が調査区西側の斜面と低地から出土している。

斜面は3・12住などの敷石住居址が繰り返し建て替えられた地点に出土が集中する。出土層位は敷石住居址床面下の自然堆積層で、中期後半が主体である。復元に至った土器は7個体で、時期は曽利 I ~ N式併行である。土器縁辺に著しい摩減痕はなく、台地平坦面からの流れ込み、または投棄と考えられる。

低地は5本の試掘トレンチから出土している。総重量は約19kgを測る。土器の出土量は、谷へ向かい数を増す。斜面直下は開田工事で遺物包含層が削平され、谷へ向かうほど遺物包含層の残りが良いためである。1トレンチの南端では約1.6m²の範囲から炭化材とともに土器が集中出土した(2 土器集中)。点数は174点、重量3.1kg を測るが、復元に至るものはない。時期は曽利 I 式からV式併行にほぼ限定され、後期とみられる土器は僅かに9点である。

各トレンチで出土した土器は縁辺に若干の摩滅があるものの、上流から流れてきたと言えるほど摩滅していない。試掘トレンチ以東の調査地点で、該期の土器の集中出土はなく、上流(東側)から流れてきた土器ではないと考えられる。台地平坦面に居住していた人々による土器の廃棄と考えられる。3区西側の斜面から低地は土器廃棄場であったと考えられる。

後期

3区の特徴は、遺構の時期が縄文時代後期に限定されることである。後期に入ると生活領域を斜面から 低地に広げ、様々な遺構を構築することはすでに各地の後期遺跡で示されているが、八ヶ岳西山麓でその 姿が明らかにされたのは初めてのことである。

遺構は敷石住居址、方形柱穴列、土坑、配石・列石、埋設土器、焼土址、黒曜石集積、土器集中があり、

該期にみられる遺構が出揃ったような状態である。また、土器を多量に包含する流路跡や、一括土器を含む包含層(当時の地表面?)が低地で確認されている。

個々の遺構では注目すべき点が多い。斜面を数回に亘って整地しながら配石・列石を伴う敷石住居址を構築する様は、該期の大がかりな土木工事の跡を示す好例である。また、低地には敷石住居址、方形柱穴列、根固めを伴う柱穴群、土器集中などの様々な遺構を構築し、その空間に凹石・磨石・石皿・台石(第43図)などの石器が残されている。低地における空間利用のあり方を解明する糸口になるものと考える。

(4) 平安時代

住居址1軒である。出土した遺物は土師器坏・黒色土器坏、灰釉陶器瓶、土師器、小型坏、長胴甕である。 敷石住居址について

敷石住居址の各部位の呼称は次のとおりとする。

主 体 部: 炉を中心に壁で区画された空間。柄鏡形住居址は柄部を除いた空間。

柄 部:主体部から突出した柄鏡形の柄の部分(例:2・10住)。

連 結 部:主体部と柄部が接する部分。

対ピット: 柄部に接する2本の対となる柱穴(例:2-P1・3ほか)。

掘 方:主体部の外側をめぐる床面より一段高い掘り込み(例:2・12住など)。

敷 石:床面に敷かれた平石や板状の礫(例:13・15住など)。

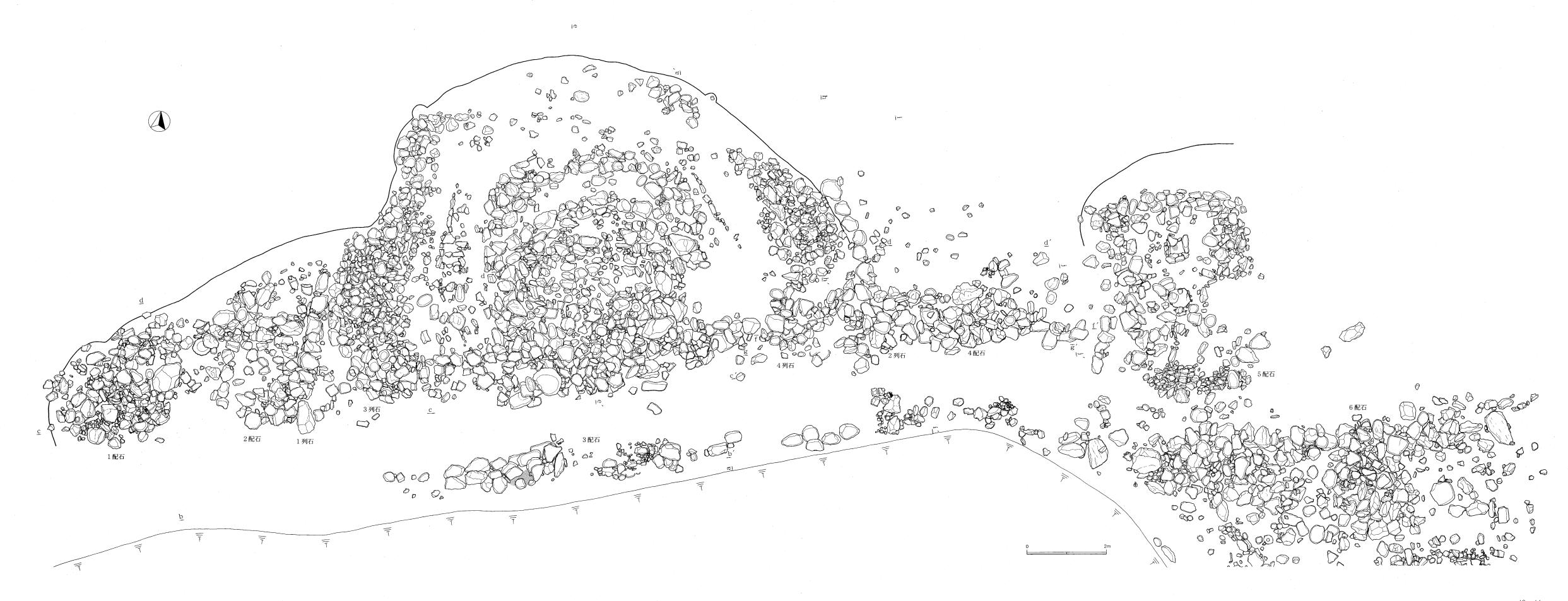
縁 石:壁下または柱穴間に横長の礫を並べ区画した礫(例:12·19住など)。

礎 石:柱穴の底面に置かれた平石や板状の礫(例:12-P1・2ほか)。

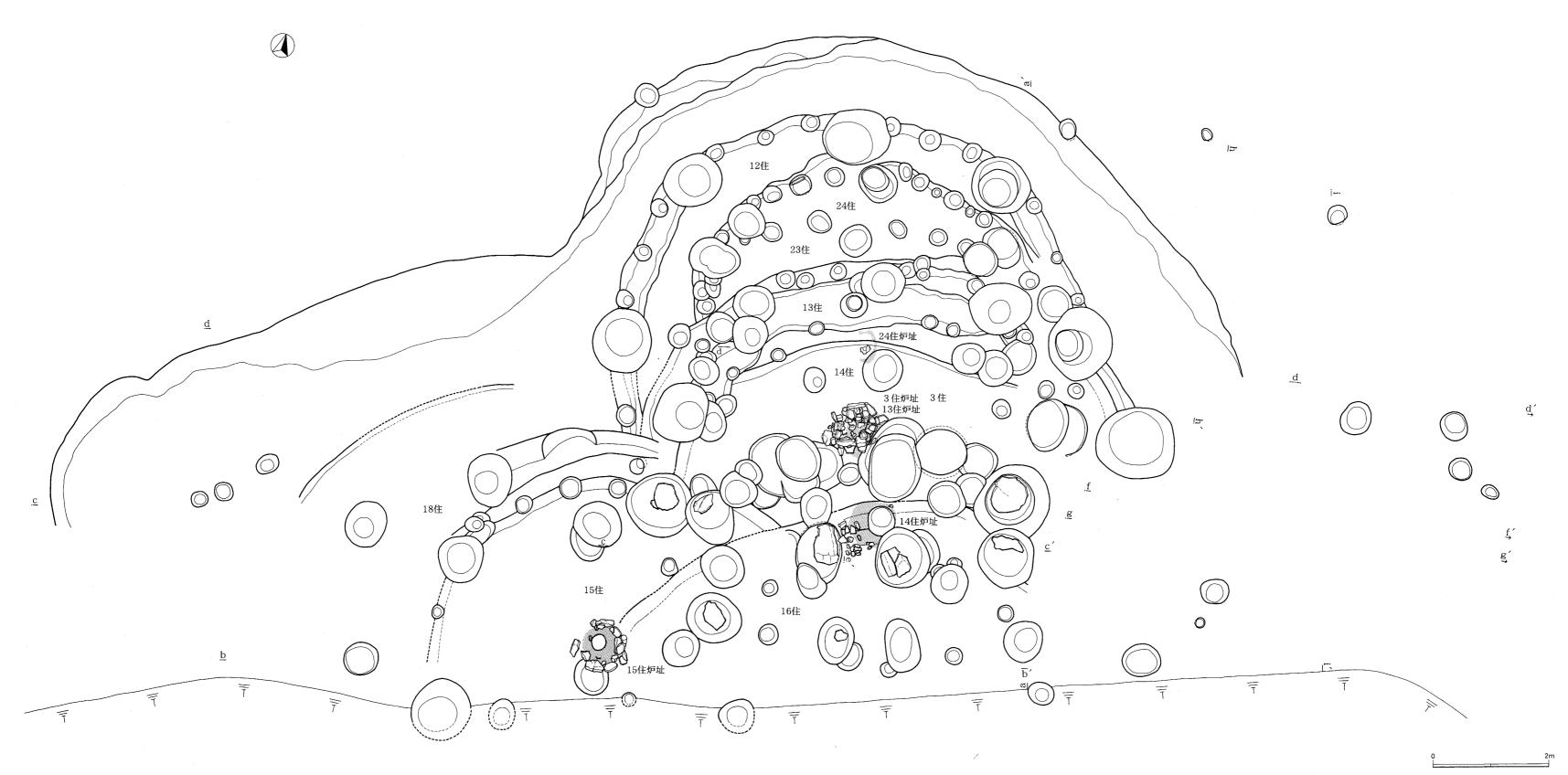
敷石住居址は保存状態の良いものが多く、壁体に関わる痕跡を確認できたものがある。2・3・12・23・24 住の柱穴周囲の調査で得られた所見を以下にまとめてみる。

- ①各柱穴の内縁を結ぶ線付近から外側へ、土石混合の硬く締まった土を盛上げるものがある(3・23・24 住)。礫の大きさは数cmから10cm前後を測る。
- ②各柱穴の内縁を結ぶ線付近から外側へ、長さ20cm以上の礫を立てる、また積み上げるものがある (2・3・23・24住)。
- ③①の上に②をのせ(3・23・24住)、その上に盛土するものがある(3住)。
- ④掘方に土石混合(所によりローム塊を多量に含む)の硬く締まった土を埋め戻すものがある (2・12住)。 また、その土の上に長さ20cm以上の多量の礫を積み上げるものがある (12住)。
- ⑤掘方に続く平坦面に長さ20cm以上の礫を積み上げ、その上に土石混合の硬く締まった土を盛上げるものがある(12住)。

以上から考えられることは、礫と土で築いた高まりと、柱を組み合わせた壁体の存在である。そこで、柱を結ぶ線に沿い、住居の内と外から礫と土で築いた高まりを**礫堤・土堤**と呼称し、壁体と捉える。ただし、②は壁体下部の土留めであるのかもしれない。



 $-43 \cdot 44 -$



第26図 3区斜面の敷石住居址群 (1/60)

①住居址

2号住居址 (第27図)

位 置:斜面、 $J \sim M - 100 \sim 102$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:17・26住と重複する。石囲炉が完存し、礫堤が全周すること、また17住の炉址は本址の床 面下で検出されたことから、本址が新と考えられる。ただし、重複する2軒の住居址は、 本址の主軸線と大きく違わず、僅かに位置をずらして構築されるため、同一住居址による 建て替えと考えられる。

検 出 状 態:礫堤が主体部中央に向かい崩れた状態で検出された。東側は開田工事で削平されている。

形態・規模:礫堤を伴う柄鏡形の敷石住居址である。主体部の平面形態は主軸が短い隅丸長方形と考えられる。主体部の平面規模は、主軸長約3.2m、副軸長4m前後と推測される。礫堤に囲まれた主体部の平面規模は、主軸長約2.3m、副軸長約3mを測る。柄部の長さは約1.5m、幅は60~70cmを測る。主軸方向はN-15°-Wである。

柱穴に沿って礫堤がめぐる。主軸線の西側は崩落するが、東側は残りが良い。主体部の壁の外側に、床面より一段高い掘り込みがあり、柱穴の覆土に酷似する土で埋め戻されている。本址に伴う土堤と考えられるが、古い住居址の土堤を踏襲し利用している可能性がある。

柄部は連結部に敷かれた五角形の敷石から屈曲しながら南へ延びる。柄部を形作る礫は 二列に配された柱状の礫と考えられる。

型 土:礫堤に囲まれた主体部の覆土は4層に分層された。上層の1・2層は黒みの強い黒色土である。ともにローム粒子・塊をほとんど含まないが、2層に地山に入る軽石が多く含まれる。礫は2mm~1cm大である。下層の3・4層は黒褐色土および暗褐色土で、上層との色調差は明瞭である。小石を多量に含み、硬く締まる。礫堤とともに崩れた土堤の可能性がある。

壁 :主体部の壁高は、床面から掘方底面まで20~25cmを測る。掘方の壁の残存高は20~30cmを 測る。礫堤の残存幅は40cm、残存高は床上60cmまで確認される。土堤を含めた奥壁部の壁 体の幅は約130cmを測る。

周 溝:検出なし。

床面:石囲炉周辺が硬い。

敷 石:連結部に五角形に整形された平石が敷かれている。

炉 址:石囲炉である。炉石は完存とみられるが、奥壁側の炉石が炉内に倒れ込んでいる。火床の 焼土は明瞭である。

柱 穴:本址と17・26住の推測範囲から64基の穴が検出された。長軸1m以上の2基(208・209土) と、推測される柱穴の組み合わせから外れた6基(211・214~218土)を除く53基を柱穴 と考えピット番号を付した(2-P1~16、17-P1~23、26-P1~14)。

> 住居址各部位との位置関係から、本址の柱穴と判断できるものがある($2-P1\sim16$)。 連結部の敷石を挟む $P1\cdot 3$ は対ピットで、 $P2\cdot 4$ は柄部に関わる柱穴と考えられる。 主体部の壁に接する $P5\sim12$ は本址の柱穴と判断される。これより東側は $17\cdot 26$ 住の柱穴 と重複するため判然としないが、礫堤との位置関係からみて $P13\sim16$ などとの組み合わ

せが推測される。覆土は褐色土、にぶい黄褐色土をベースとし、小礫を多量に含んでいる。 これは17・26住の柱穴にも共通する。

付属施設: 柄部の先端(南)に、地面を10~15cm掘り下げた一段低い面があり、5配石が構築される。 主体部・柄部との位置関係からみて、本址に伴う配石と考えられる。柄部の延長線上に10 ~40cm大の礫を90cm角に敷き詰め、そこから東西方向へ弓なりに小礫を敷き詰める。

備 考:柱穴間を結ぶ形で炭化材が検出された。多くは礫堤の下にあり、床面に接している。狭い 範囲であるが、P16・17上の床面レベルに焼土が検出された。炭化材の形成に関わる焼土 の可能性がある。

時期:堀之内Ⅱ式から加曽利BⅠ式併行と考えられる。

3号住居址 (第28·29図)

位 置:斜面、 $I \sim K - 93 \sim 95$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:1 (平安住居址)・12~16・23・24住と重複する。1住より古く、12~16・23・24住より新 しい。

検出状態: 礫堤の内側に大小の礫が隙間なく詰め込まれたような状態で検出された。同心円状に配されているようにも見える。中央部から礫を取り除き、炉址と出入口部の敷石が検出され住居址と判断した。

形態・規模:出入口部が僅かに張り出す柄鏡形の敷石住居址で、礫堤と土堤を伴っている。主体部の平面形態は主軸より副軸が長い楕円形を呈す。礫堤の平面規模は、主軸長3.5m前後、副軸長4.5m前後を測るが、礫堤の外側に続く土堤を含めると、最低1m は規模が大きくなる (付図 d 断面)。また、礫堤に囲まれた主体部の平面規模は、主軸長3 m前後、副軸長3.7 mを測る。柄部の長さは約1m、幅は約1.3mを測るが、柄部の先端は削平されている。主軸方向は N-18°-Wである。

覆 土:主体部を埋める多量の礫間に、締まりの弱い黒色土が入る。

壁 : 壁体は礫堤と土堤からなる。壁体の残存幅は約150cm、残存高は床上70cmまで確認される。 礫堤は長さ20~60cmの礫を数段積み上げ築かれている。残存幅は70cm、残存高は50cmまで 確認される(付図 d 断面ほか)。

土層断面によると、壁体の構築工程は次のように考えられる。①土堤を柱穴内縁から斜め外側に盛る。②土堤内側の裾から外側へ礫を積み上げる(床上10~15cmからが多い)。 ③礫堤を土堤で覆う。なお、②と平行して、土石混合土を礫間に充填している。礫の間に数cm大の小礫を多量に含む暗褐色土と褐色土が確認されている。

周 溝:検出なし。

床 面:全体が硬く締る (付図 d 断面)。黒色土を5~10cmの厚さで貼床している。

敷 石:連結部に平石を敷いている。

炉 址:石囲埋甕炉である。炉石は完存とみられる。炉体土器は深鉢の胴部下半から底部である。 焼土は広範囲に及ぶが不明瞭である。

柱 穴:本址に伴う柱穴は7基である($3-P1\sim7$)。 $3-P5\cdot6$ で柱痕が確認された(付図 $a\cdot e$ 断面)。

備 考:本址の礫堤と土堤は23・24住の礫堤と土堤と重複している。検出当初は同一住居址の構造物とも考えたが、礫堤の構築面に高低差があり、礫堤の外縁に柱穴、礫堤の内側から2基の炉址が検出されたため、3軒の敷石住居址の重複と判断した。新旧関係は本址の主体部に礫が集中していたこと、炉址が完存すること、礫堤が出入口部の敷石につながり全周することなどから、本址を最も新しい住居址と判断した。

 $3 \cdot 23 \cdot 24$ 住の壁体が、礫堤と土堤により築かれたことは、3軒の住居址より古い12住の構造と深い関わりがある。構築順番は12住 \rightarrow 24住 \rightarrow 23住 \rightarrow 3住となり、ほぼ同じ主軸線上で規模が縮小している。12住より新しい3軒の住居址の床面は、直前に構築された古い住居址の床面を $40\sim50$ cmの切り盛りの中で設けている。つまり、古い床面を深く掘り込まず、逆に盛土して床面をつくる住居址もあるため、礫や土を盛り上げて壁体を築く必要があったと考えられる。

時期:堀之内II式から加曽利BI式併行と考えられる。

10号住居址 (第30図)

位 置:低地、 $F \sim I - 105 \sim 107$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:4 方柱と重複する。礫堤が4 方柱の126土に切られるため、本址が古い遺構と考えられる。 住居址にかかる土坑は5基ある。対ピットに重複する199土は、礫の残り方から本址より新 しい土坑と考えられる。他の土坑との新旧関係は不明である。また、北壁は6配石に近接 し、上屋の構造によっては配石との同時存在が難しいと考えられる。

検出状態:黒色土層から黒褐色土層において、特定の範囲から礫が集中出土した。この時点で礫堤が 確認されている。併せて、礫の少ない空間が住居址の周囲に確認されている。

規 模:礫堤を伴う柄鏡形の敷石住居址である。主体部の平面形態は主軸より副軸が長い楕円形を 呈す。平面規模は柱穴の外縁間で、主軸長4.6m、副軸長5.3mを測る。礫堤の平面規模は 主軸長4.4m、副軸長5.1mを測る。礫堤に囲まれた主体部の平面規模は、主軸長3m前後、 副軸長4m前後を測る。柄部の長さは1.8m、幅は1.3mを測る。主軸方向はN-4°-Wで ある。

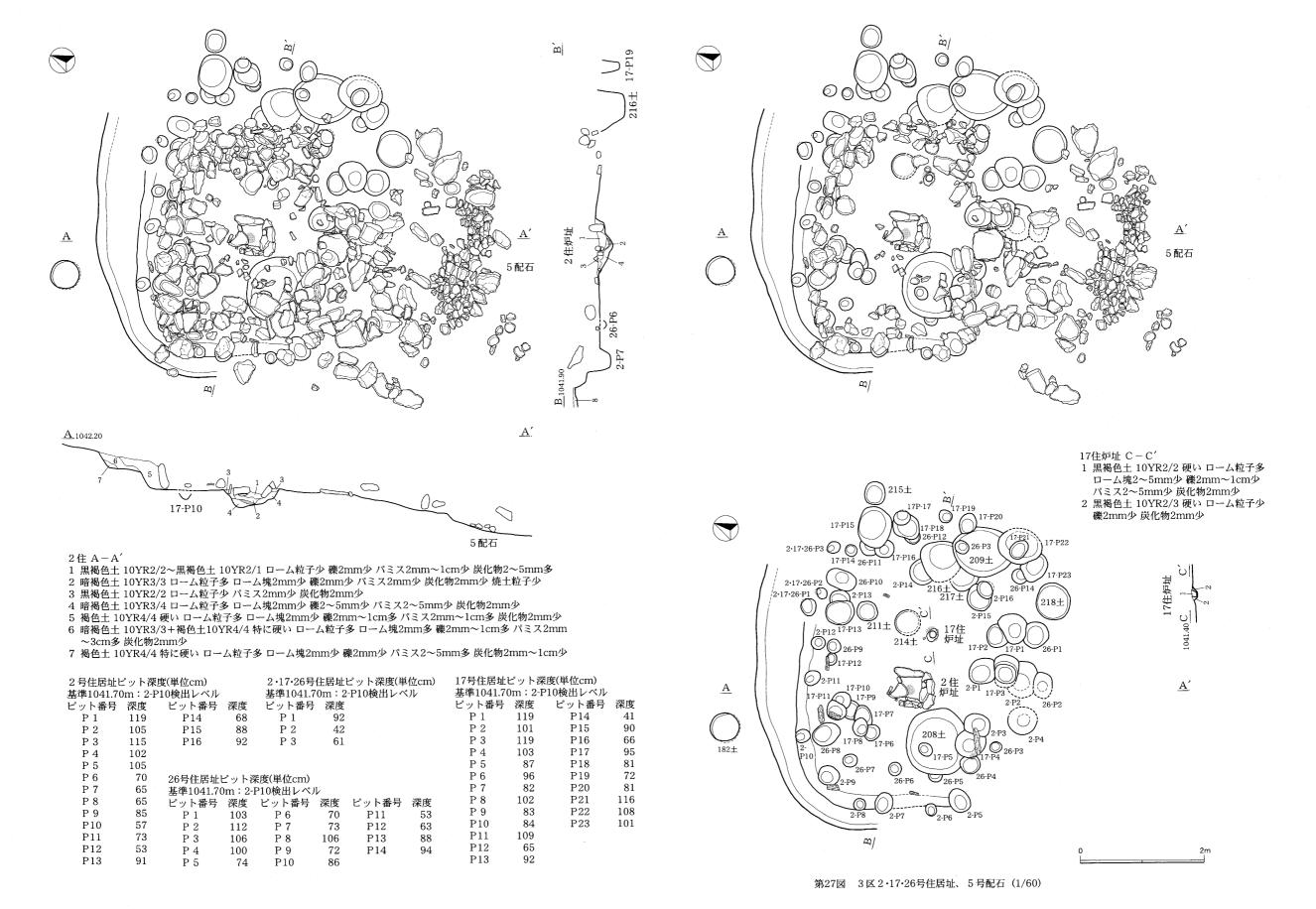
覆 土:黒色土から黒褐色土である。堆積状態は不明である。

壁 : 検出段階の礫の平面分布と周囲の礫の検出面からみて、主体部は浅いながらも地山を掘り 込んでいると考えられる。奥壁の一部に床面上5~10cmの立ち上がりを検出したが、黒褐 色土層中での検出であり、主体部の壁を正確に検出できたとは言い難い。

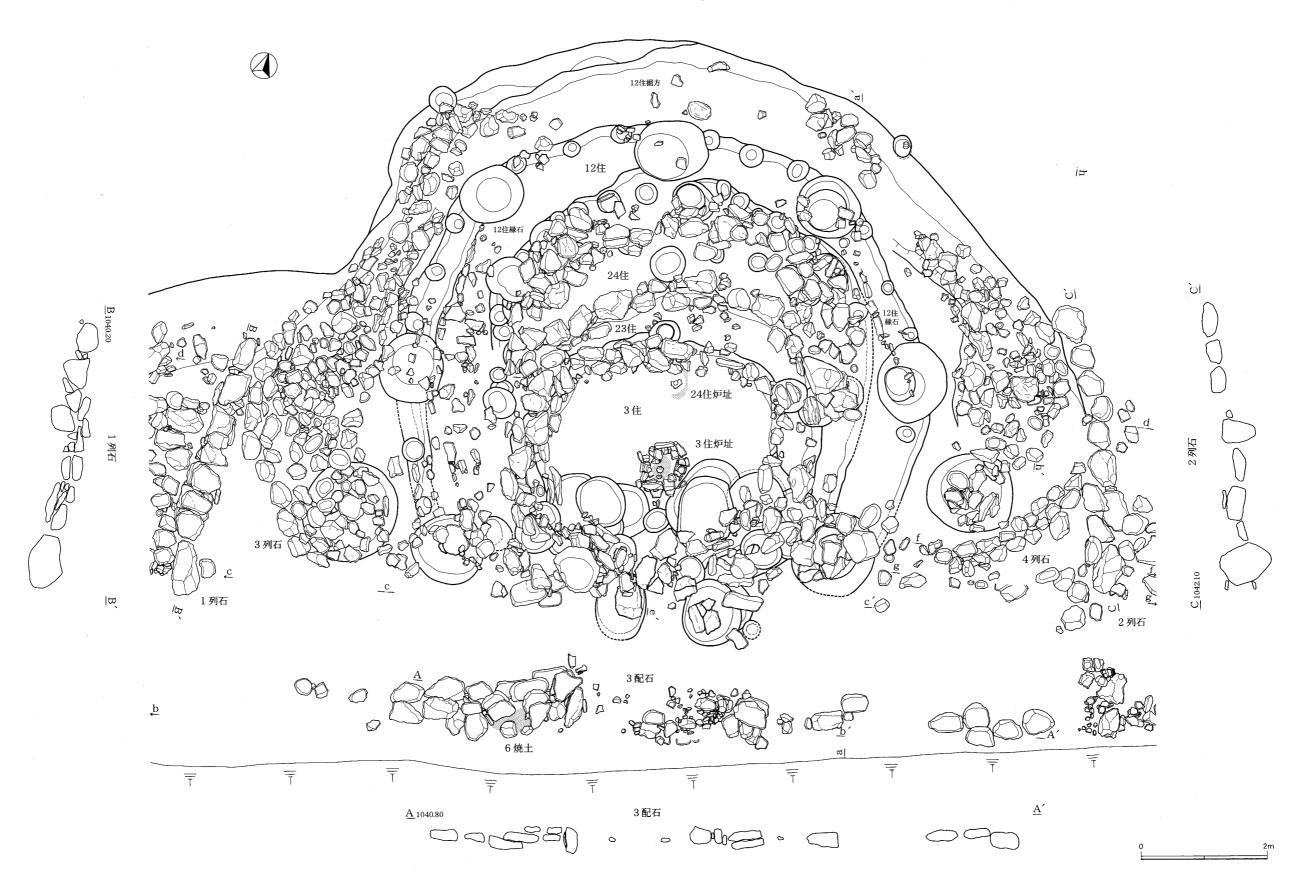
柱穴の内縁を結ぶ線上に長さ5~30cmの礫が集中する。礫の大きさと配置に規則性がないことから、この礫群は礫堤と考えられる。礫堤の幅は30cm、残存高は床上20cmまで確認される。礫堤の下端は床面下10cmほどの位置で確認されている。床面を一旦掘り下げて構築しているのか、柱穴内に沈み込んだものなのか判断に迷う。

周 溝:検出なし。

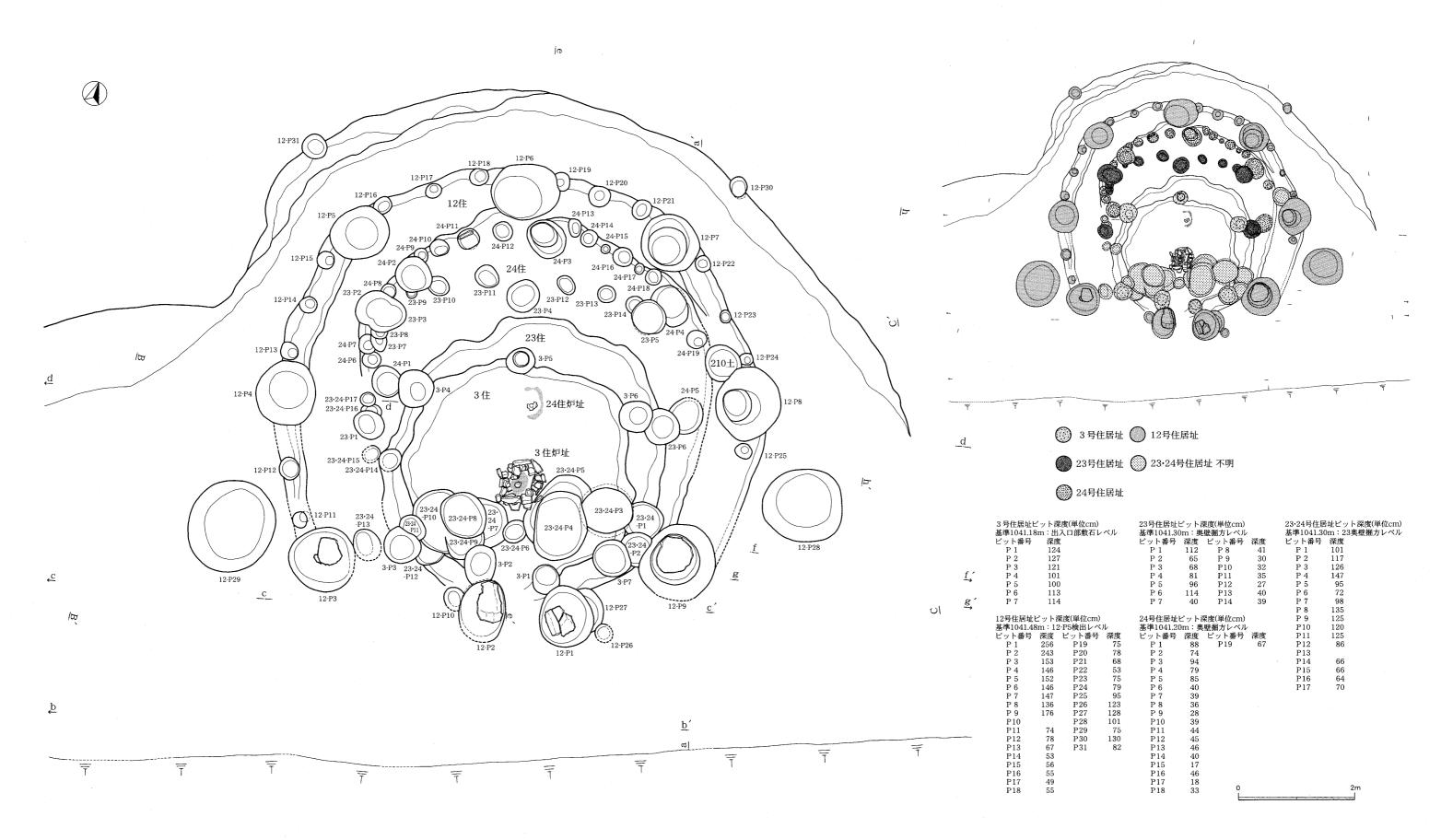
床 面: 炉址検出面 (黒褐色土層) の精査で、炉址の南脇からローム塊が集中する貼床状の硬化面が検出された。また、炉址の南側でも南北に張り出す硬化面 (柄部) が検出された。その 状態から床面と考えられた。

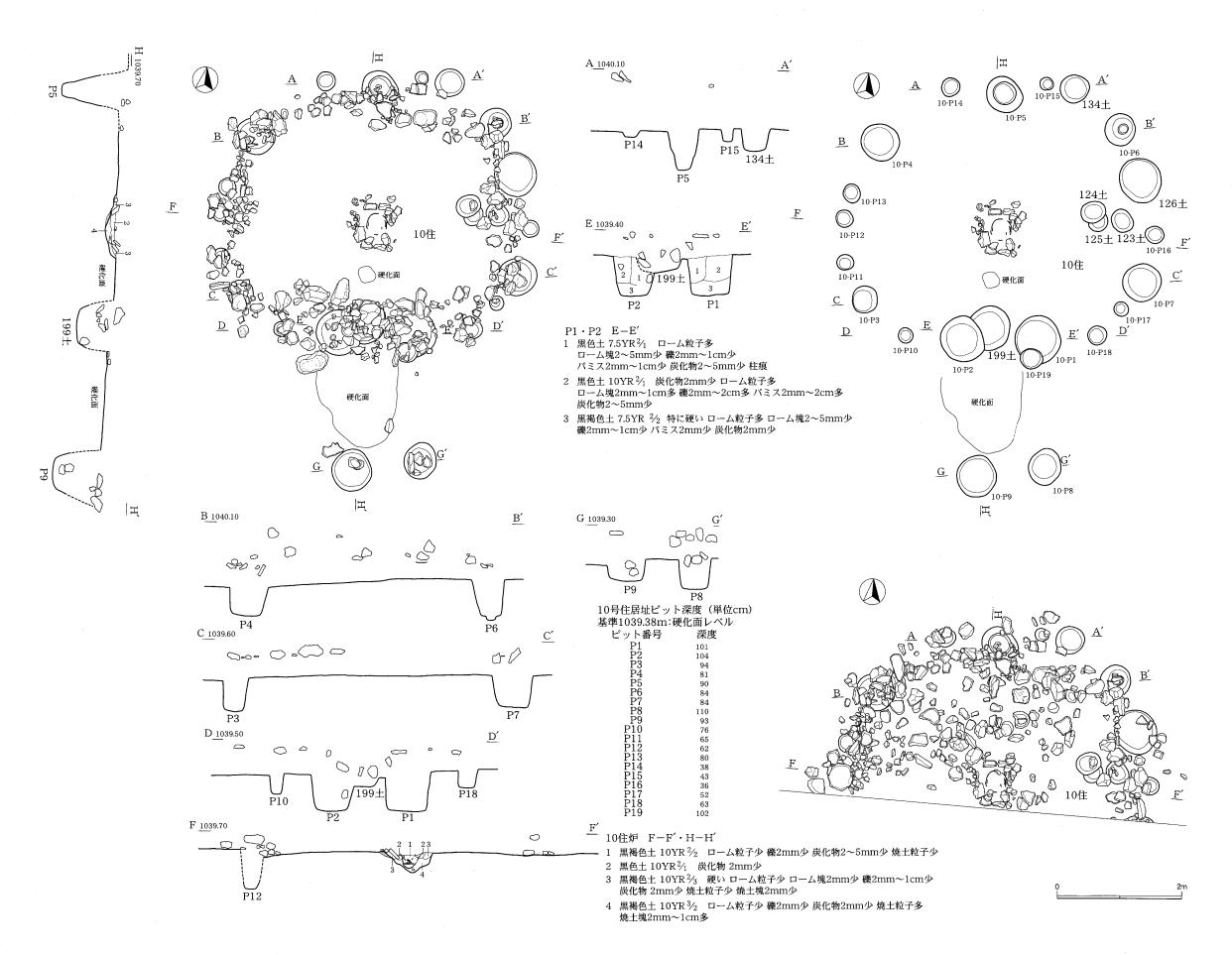


第27図 3区2・17・26号住居址、5号配石(1/60)



第28図 3区3・12・23・24号住居址 (1/60)





敷 石:連結部に板状の礫が数枚あり、敷石の可能性がある。

炉 址:石囲埋甕炉である。炉石は方形に配される。東西辺に隙間がみられるが、完存と考えている。炉体土器は2個体あり、ともに深鉢の胴部下半から底部である。埋設状態は正位で上下に重ねている。上側の土器下に平石が水平に置かれていた。火床の焼土は掘方の北側で明瞭である。炉石の下から検出された焼土があり、炉はつくり替えられた可能性がある。

柱 穴:本址に伴う柱穴は19基である($10-P1\sim19$)。主柱穴はP1からP7で、主柱穴間に $1\sim3$ 本の支柱穴が入る。 $P1\cdot2$ の南にあるP8とP9は、柄部(硬化面)との位置関係から本址に伴う柱穴と判断した。

備 考:礫堤とした大小の礫は、礫の残し方次第で縁石となる可能性がある。本址の場合、礫は面をなして規則的に配されたと考えられない状態であった。また、礫間の土が硬く締まること、大きな礫の下に小礫の集中する傾向があること、礫間から多くの土器片が出土したことなどから、壁体に関わる構造物の一部と考えている。

時期:堀之内 I 式併行と考えられる。

11号住居址 (第31図)

位 置:斜面、 $K \cdot L - 104 \sim 106$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:25住・6配石・111土と重複する。敷石と炉址の残存状態からみて、25住より新しく、6 配石・111土より古いと考えられる。

検出状態:6配石の北側で土器が出土し、面的に掘り下げたところ縁石と敷石が検出された。

形態・規模:北側は床面近くまで試掘トレンチで掘削され、南側は6配石の掘方が及ぶ。土層断面で壁 とみられる立ち上がりが確認されたが、面的な検出はできていない。土層断面で確認され た壁、および縁石と敷石の平面分布から、主体部の平面形態は円形または楕円形と考えら れる。平面規模は直径4m前後と推測される。

程 土:南北方向の土層断面図を作成しているが、図化していない。覆土は4層に分層され、壁から住居址中央へ向かう堆積状態を示す。1層は褐色土、2層は暗褐色土で、ともにローム塊・礫・パミスを多く含み、硬く締まる。3層は縁石と敷石を直に覆う層である。黒褐色土で炭化物(材)と焼土塊を多量に含む。炭化材は床面に集中するが、10cmほど浮いたものもある。4層は暗褐色土で硬く締まる。

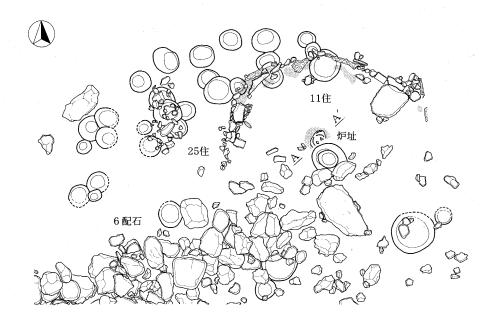
壁 : 土層断面図に主体部の壁とみられる立ち上がりが記録されている。床面からの高さは約40 cmで立ち上がりは急である。

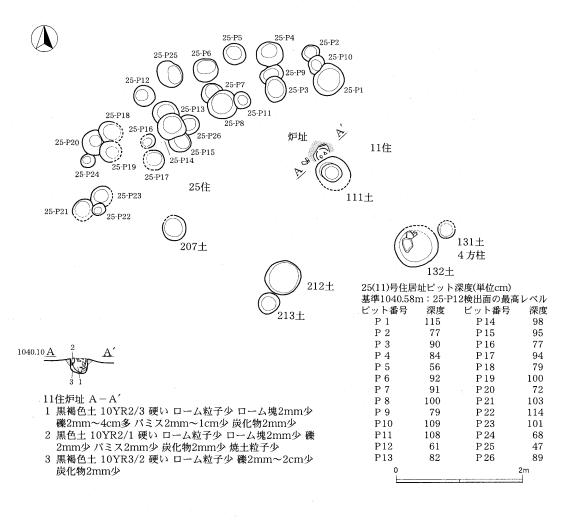
周 溝:検出なし。

床 面:縁石と敷石の周囲が硬い。縁石と敷石に沿って炭化材と焼土が遺存する。

敷 石:縁石と敷石は五角形または六角形に敷かれていたと考えられる。平石・角礫・円礫などに 凹石や石棒を組み込んで整然と敷かれている。西側の縁石・敷石は表面が火を受け煤けた もの、赤く変色しているものが目立つ。

炉 址:埋甕炉である。断ち割りで炉石の抜き取り痕は確認されていない。縁石と敷石のレベルからみても、当初から埋甕炉であったと考えられる。炉体土器は1個体で、深鉢の胴部上半から底部を正位に埋設している。検出面と土器内部から火を受けて破砕したとみられ小礫





第31図 3区11・25号住居址と周辺の土坑 (1/60)

が出土した。

柱 穴:炉址の北側から西側に、柱穴とみられる穴が26基検出された($25-P1\sim26$)。大半は25住 に伴う柱穴と考えられる。 $P1\cdot2\cdot8\cdot10\cdot11$ などは本址に伴う可能性もある。本来、南 側にも柱穴が存在したであろうが、6配石の掘方と、遺構検出段階の掘り下により削平されたと思われる。

備 考:縁石と敷石に沿う炭化材は厚さが3~7cmあり、最長で約60cmを測る。縁石と敷石のない箇 所に遺存するため、礫とともに木材が敷設されていたと考えられる。

図面の西側にある小礫の集中は、25住のピットに伴う可能性がある。その西にある大きな礫は本址より新しい時期のものと考えられる。

時 期:堀之内Ⅱ式併行と考えられる。

12号住居址 (第28·29図)

位 置:斜面、H~M-92~97グリッドに位置する。

重 複 関 係:1・3・13~16・23・24住と重複する。1・3・23・24住より古く、13~16住より新しい。

検出状態: P7とP8を結ぶ縁石の検出により、本址の存在が確認された。

形態・規模: 柄鏡形の敷石住居址と考えられる。対ピットとなるP1・2の南側が道路建設時の削平を受け、柄部は検出されていない。しかし、本址は13住のP1・2と3配石を踏襲し利用することから、13住と同様に短い柄部をもつ住居址と考えられる。主体部の平面形態は主軸より副軸が長い楕円形を呈す。主体部の平面規模は柱穴の外縁間で、主軸長8.3m、副軸長9mを測る。掘方の規模は、北壁から対ピットの外縁間で、主軸長9.5mを測る。主軸方向はN-21°-Wである。

本址は大規模な礫堤と土堤を伴う。主柱穴・支柱穴の内縁から外側に築かれているが、 北側は掘方の壁、西側は掘方の壁と3列石を結ぶ線、東側は掘方の壁と4列石を結ぶ線ま での間に築かれていたと考えられる。礫堤と土堤を含めた住居址の平面規模は、主軸長約 9m、副軸長13.2mを測る。また、礫堤と土堤に囲まれた主体部の平面規模は、主軸長6.8 m、副軸長6.9mを測る。

覆 土:付図a・c断面。

主主体部の壁高(主柱穴・支柱穴の外縁からの立ち上がり)は、掘方底面まで10~20cmを測る。立ち上がりは明瞭である。掘方の壁の残存高は北壁で70cmを測る。西側へは括れ部を経て、高さを減じながら弧をなし続いていく。東側は2列石の内縁にかかる付近から高さを減じ中ほどで不明瞭となる。

壁体(礫堤と土堤)の幅は、北壁約2.3m、西壁と東壁で約3mを測る(付図 d · e 断面)。 残存高は床面からの計測で、北壁100cm、西壁80cm、東壁60cmまで確認される(付図 d · e 断面)。

主体部の内周は土堤で築かれている。ローム塊・小礫・軽石を多量に含む土石混合土を外側へ盛り上げている。一方、主体部の外周は礫堤と土堤を併用し築かれているが、12-P4とP8付近を境に、礫堤と土堤の上下関係が逆転している。具体的に言うと、3列石と4列石を境界とする礫堤を12-P4とP8付近まで築き、その上に土堤を築いている。

ここから北側は礫堤と土堤が逆転し、土堤は厚みを増していく。北側の土堤は検出面まで土石混合土で埋め戻し、その上に礫堤を築いていたとみられる。なお、3列石と4列石を境界とする外周の礫堤は、長さ20~40cmほどの礫を積み上げて築かれる。3列石側では4段積みが確認されている(付図 d 断面)。

周 溝:P3 & P5間、P7 & P8間に断続して検出された。幅は $40 \sim 60 cm$ 、床面からの深さは5 cm前後を測る。掘方の底面に高さを合わせて埋め戻されていることが確認された(付図 a 断面)。

床 面:23住により埋められた箇所で床面が確認されている。硬く締まりがある。

敷 石:主柱穴間に縁石が敷かれている。P3からP5、およびP7からP8間で検出された。

炉 址:検出なし。

柱 穴:推測を含めて31基に及ぶが(12-P1~31)、上屋に関わる柱穴は27基と考えられる。主柱 穴はP1からP9である。9基すべてに柱痕が確認され、P1・3・8では人頭大の根固 めの礫が確認された。また、P1・2・3・9では柱穴の底面に礎石が据えられている。 底面が軟弱な自然堆積層(黒~黒褐色土層)にあるためであろう。支柱穴はP10からP26 の17基が確認されたが、南側に存在したとみられる5、6基は検出できていない。主柱穴の P1・2は13住のP1・2を踏襲し利用したものと考えられる。

付属施設: P28とP29、P30とP31は、規模が酷似し、主軸に対して左右対称となるため、本址に伴う柱穴と考えられる。P28とP29は礫堤に組み込まれる柱穴である。それぞれ根固めの礫と柱痕が確認されている。P29では底面に礎石が据えられている。P30とP31は掘方(土堤)の壁にかかる柱穴である。P30には石棒が逆位に埋置されていた。

1列石と2列石は主体部を挟み、主軸に対して左右対称(「ハ」の字)に構築される。 礫堤と土堤との位置関係、12住に伴う整地面との関係などからみて、本址に伴う列石と考 えられる。検出された長さは1列石が4.2m、2列石が4.6mを測る。どちらも石積みされ、 1列石は4段積みされている。

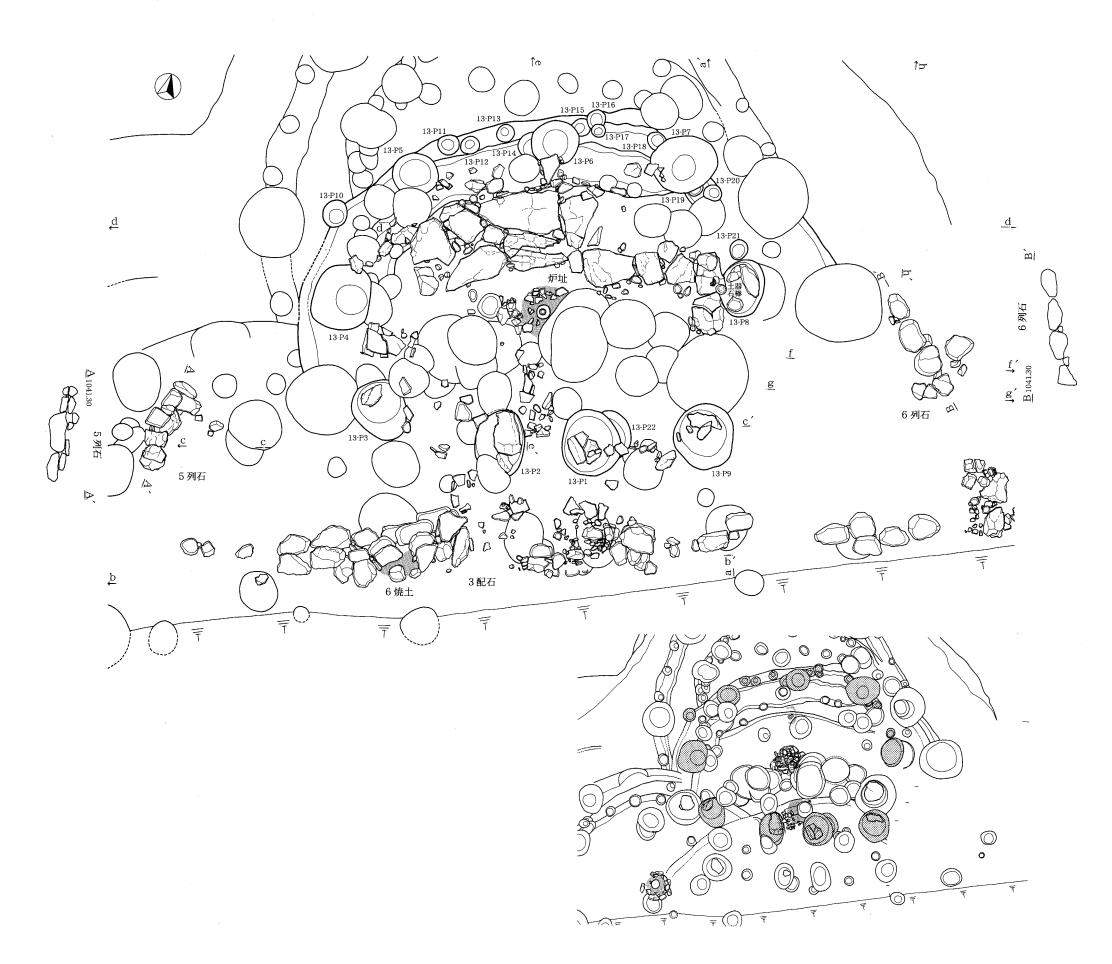
備 考:3列石と4列石は弧状を呈する列石である。3列石は1列で、4列石は2列に礫が配される。4列石の西端に柱状の礫が立てられている。

時 期:堀之内Ⅱ式併行と考えられる。

13号住居址 (第32図)

位 置:斜面、 $I \sim L - 93 \sim 96$ グリッドに位置する。

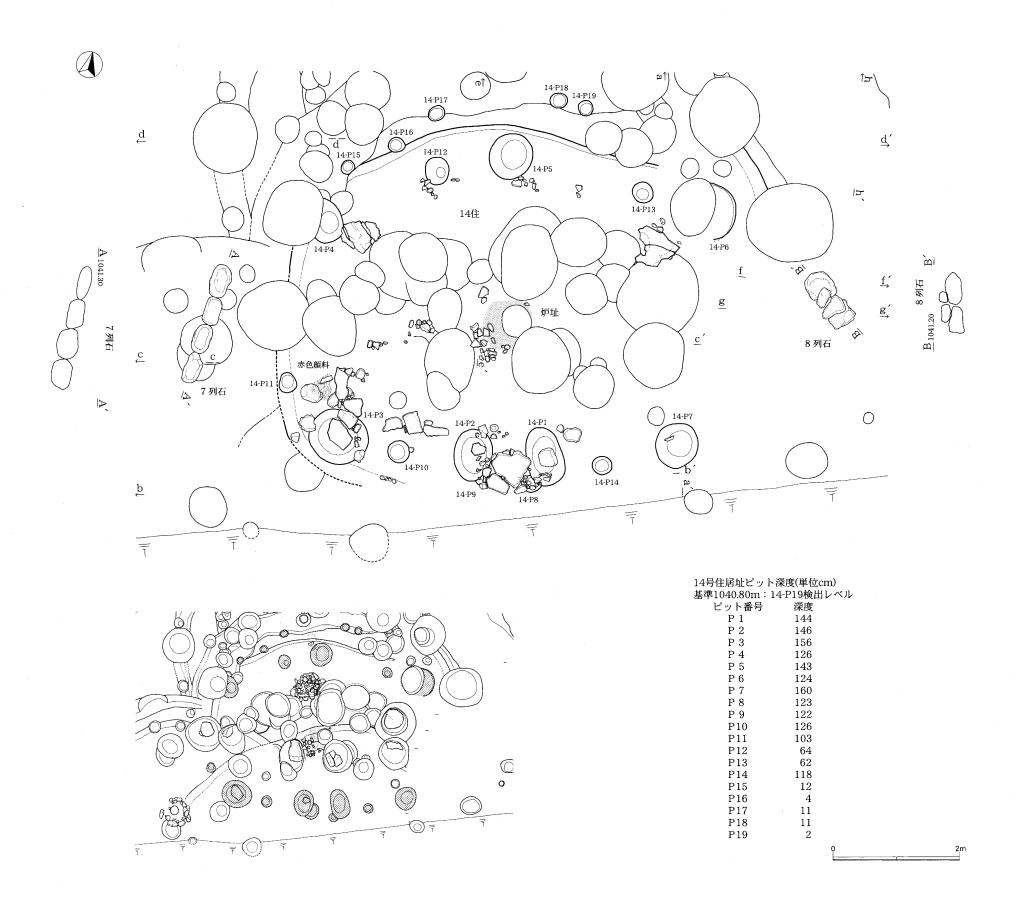
重 複 関 係:1・3・12・14~16・23・24住と重複する。1・3・12・23・24住より古く、14~16住より新 しい。





13号住居址ピット深度(単位cm) 基準1040.64m:13-P6南の敷石上レベル				
	ピット番号		ピット番号	深度
	P 1	202	P12	12
	P 2	189	P13	11
	P 3	189	P14	13
	P 4	157	P15	4
	P 5	103	P16	9
	P 6	92	P17	42
	P 7	130	P18	33
	P 8.	184	P19	28
	P 9	211	P20	51
	P10	26	P21	73
	P11	2	P22	74

2m



- 検出状態:1·3·12·23·24住の床面下から検出された。本址を直に覆う住居址は12住である。12住 床面との比高差は約60㎝を測る(付図 a 断面)。
- 形態・規模:敷石と焼土の平面分布からみて、短い柄部をもつ柄鏡形の敷石住居址と考えられる。主体部の平面形態は主軸より副軸が長い楕円形を呈す。規模は柱穴の外縁間で、主軸長5.7m、副軸長7.3mを測る。また、検出された壁によると、副軸長は8.5m以上と推測される。主軸方向は $N-15^{\circ}-W$ である。
- 覆 土:付図a·c断面。
 - 壁 :主体部の壁は、北壁と東・西壁の一部が検出された。北壁は床面から約20cmを測るが、西側の土層断面では約40cmの立ち上がりが確認された(付図c断面)。P7の東にある約20cmの立ち上がりは、掘方の壁の可能性がある。

土堤とみられる盛土は、土層断面で確認されている。北側では周溝から北壁に築かれた 土堤があり、残存高は床上約15cmまで確認される。

- 周 溝:北壁直下に周溝がめぐる。幅60~80cmで、床面からの深さは約10cmを測る。覆土は褐色土 と暗褐色土の混合土で、ローム塊・礫・パミスを多量に含み、硬く締まりがある。その状 態から埋め戻しと判断される。土堤の土と色調・含有物が酷似している。
- 床 面:火を受けているためか、全体的に硬い。主柱穴を結ぶ形で炭化材がめぐり、炭化材に沿って内側が50~150cmの幅で焼けている。
- 敷 石:平石を多用し、その間を円礫や角礫で詰石する。最も大きい平石は奥壁部の主軸線上に敷 かれているようで、長さ約120cm、幅約60cmを測る。
- 炉 址:石囲埋甕炉である。23・24住に伴うピットが南東部を壊し、炉石の残りは不良である。火を受けて剥離した石片が土器を囲み散在する。残存する炉石と焼土範囲からみて、1m角以上の大きな炉址であったと考えられる。炉体土器は大小2個体あり、ともに深鉢の胴部下半から底部である。埋設状態は正位で、小さな土器を入れ子する。火床の焼土は明瞭で、土器の周囲が広く焼けている。
- 柱 穴:推測を含め22基が検出された($13-P1\sim22$)。主柱穴はP1からP9で、 $P1\cdot2$ は12住の対ピットに利用されている。主柱穴間に $1\sim4$ 本の支柱穴を設けるが、南側の主柱穴は検出できていない。 $P1\cdot2\cdot4\cdot7\cdot8$ で柱痕が確認され、P11では柱とみられる炭化材が立ったまま検出された。P8は根固めの礫、 $P1\cdot2\cdot1$ 1は礎石を伴う。
- 付属施設:5列石と6列石は主体部を挟み、主軸に対して左右対称(「ハ」の字)に構築される。ともに構築面が13住に伴う整地面と考えられたため、本址に伴う列石と判断した。検出された長さは5列石が1.5m、6列石が1.8mである。どちらも石積みされ、5列石は3段積みされている。

12住で記したとおり、3配石の構築は13住の構築時であると考えられる。

備 考:先に記したとおり、主柱穴を結ぶ線の内側が火を受けている。敷石に煤けたもの、赤く変 色したものがあるため、火を受けたのは住居の廃絶後と考えられる。焼土の厚さは10cmに 及ぶ箇所があり、中途半端な焼け方ではないと思われる。

P8上の敷石には石棒が立てられ、その脇に小型の深鉢が伏せられていた。石棒は無頭で、深鉢は口縁部から底部の約1/2を欠損する。また、深鉢から少し離れて人頭大の自然

礫が置かれている。土器・石棒・自然礫は火を受け、表面が煤けたり赤く変色している。 P8の断面によると、石棒は柱に接して置かれていたと考えられる(付図 a 断面)。

時 期:堀之内Ⅱ式併行と考えられる。

14号住居址 (第33図)

位置:斜面、H~K-93~96グリッドに位置する。

重 複 関 係:1・3・12・13・15・16・23・24住、6焼土と重複する。1・3・12・13・23・24住より古く、 15・16住と6焼土より新しい。

検出状態:1・3・12・13・23・24住の床面下から検出された。本址を直に覆う住居址は13住である。 13住床面との比高差は10~20cmを測る(付図a・c断面)。新しい住居址の柱穴が多数掘り込まれるが、その割に保存状態は良い。

形態・規模:主体部の平面形態は主軸より副軸が長い楕円形を呈す。平面規模は柱穴の外縁間で、主軸長5.6m、副軸長6.9mを測る。また、検出された掘方の壁によると、主軸長6.1m、副軸長は8m以上と推測される。主軸方向は N-16°-Wである。

覆 土:付図a·b·c断面。

壁 :主体部の壁は、北壁と西・南壁の一部が検出された。北壁は床面から約5~10cmを測るが、 西側と南側の土層断面で20~40cmの立ち上がりが確認されている(付図 b・c 断面)。南 壁は6焼土を切っている。P5の東に掘方の壁とみられる約30cmの立ち上がりが検出された。

周 溝:検出なし。

床 面:北側の床面は的確に検出できている。硬い面は確認されていない。南側では敷石のレベル と土層断面を手がかりに床面を検出している。

敷 石:北側は数枚の敷石と小礫が残存する程度で、取り除かれた可能性がある。一方、南側は多くの敷石が残存し、特にP1・2と P3の間では良好である。 P1とP2間(出入口部)には厚みのある板状の礫が敷かれ、その脇に小礫を詰めている。 P2とP3間は柱穴の内縁を結ぶ形で平石と板状の礫が敷かれている。

炉 址:3-P1、12·13-P1などに切られ、残りは不良である。炉石の残骸ともみられる礫と焼 土が残存する。石囲炉であるならば、1m角程度の大きな炉址であったと考えられる。

柱 穴:推測を含め19基が検出された(14-P1~19)。主柱穴はP1からP7である。P3とP4間およびP6とP7間に主柱穴が存在した可能性もある。主柱穴間に支柱穴が設けられるが、検出できないものがあったと考える。主体部の壁の北側にあるP15からP19は、13住の敷石下から検出された。規模が類似し、主体部の壁に沿ってめぐるため、本址に伴う柱穴と考えられる。P1・2・4は柱痕が確認され、P2・3は礎石を伴う。

付属施設:7列石と8列石は主体部を挟み、主軸に対して左右対称(「ハ」の字)に構築される。ともに構築面が14住に伴う整地面と考えられたため、本址に伴う列石と判断した。検出された長さは7列石が1.9m、8列石が1mである。8列石は2段積みされている。

備 考: P3の北に赤色顔料の集中が確認された。

時 期:堀之内Ⅱ式併行と考えられる。

15号住居址 (第34·35図)

位 置:斜面、 $F \sim I - 91 \sim 94$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:3・12~14・16・18住と重複する。3・12~14住より古く、16・18住より新しい。

検出状態:開田工事で生じた法面にかかる住居址で、約1/2が残存する。3・12~14住の床面下から検出された。本址を直に覆う住居址は14住である。14住床面との比高差は15~20cmを測る (付図 b · c 断面)。多くの住居址と切り合わないため、保存状態は良好である。

形態・規模:主体部の平面形態は円形、または主軸より副軸が長い楕円形と考えられる。平面規模は柱穴の外縁間で、副軸長6mを測る。主体部の北側に床面より一段高い面が検出された。本址の掘方で、この面は東側の立ち上がりへ続くものと考えている。掘方の平面規模は副軸長7.5m以上と推測される。主軸方向はN-19°-Wと考えられる。

覆 土:付図b·c断面。

壁 : 主体部の壁は北壁が検出された。立ち上がりは明瞭で床面から30~45cmを測る。また、主体部の壁は土層断面の西端で確認されている(付図 b 断面)。掘方の壁は北壁と東壁が検出された。北壁の立ち上がりは明瞭で25~45cm、東側は約15cmを測る。

周 溝:検出なし。

床 面:全体的に硬く締まりがある。

敷 石:新しい住居址と重複しない北・西側で、敷石の残りが良い。主柱穴間の内縁を結ぶ形で敷 かれている。

炉 址:石囲埋甕炉である。西辺の炉石が欠落する。炉内に落ち込む板状の礫が炉石の一つと考えられるが、これを戻しても空間は埋まらず、抜き取られた炉石があると考えられる。炉体 土器は2個体あり、ともに深鉢の胴部下半から底部である。ともに正位に埋設され、上下に重なり合って出土している。2個体の土器が同時に埋められた可能性もあるが、下側の 土器全体が焼土に覆われること、焼土の厚みが約10cmあることなどから、炉のつくり替えと考えておきたい。

柱 穴:12基が検出された(15-P1~12)。主柱穴はP1からP5である。P1は18住のP2と重複する。主柱穴間に支柱穴が設けられるが、検出できなかったものが多い。P5の底面にローム混じりの黒色土の埋土が確認された。厚さは4cmを測る。

備 考:本址では床面(敷石)、および床上5~25cm間から礫が多量に出土した。30~40cm大までの大きなものが目立つ。礫堤の崩落かもしれないが、礫の多くは本址を埋める目的で動かされたものと考えられる。その上に小礫(砂利)を多量に含む整地された層があり、その面から6・7焼土が検出された。

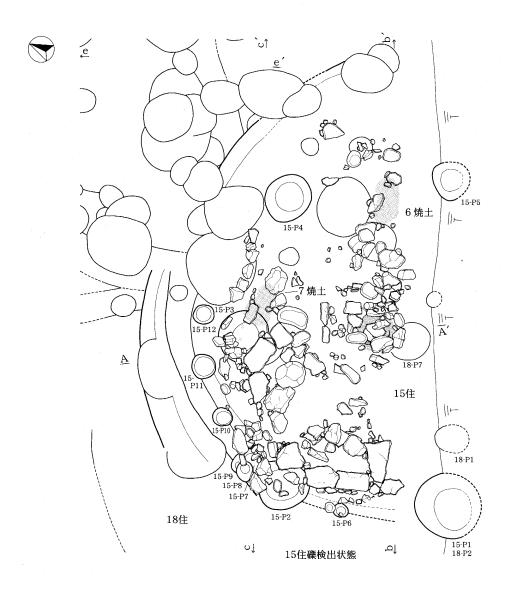
時 期:堀之内 I ~ Ⅱ式併行と考えられる。

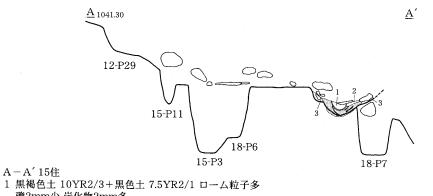
16号住居址 (第36図)

位 置:斜面、 $G \sim I - 93 \sim 97$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:3・12~15・18・23・24住と重複する。3・12~15・23・24住より古く、18住との新旧関係は不明である。

検 出 状 態:開田工事で生じた法面にかかる住居址で、1/4程度が残存する。3・12~15・23・24住の床

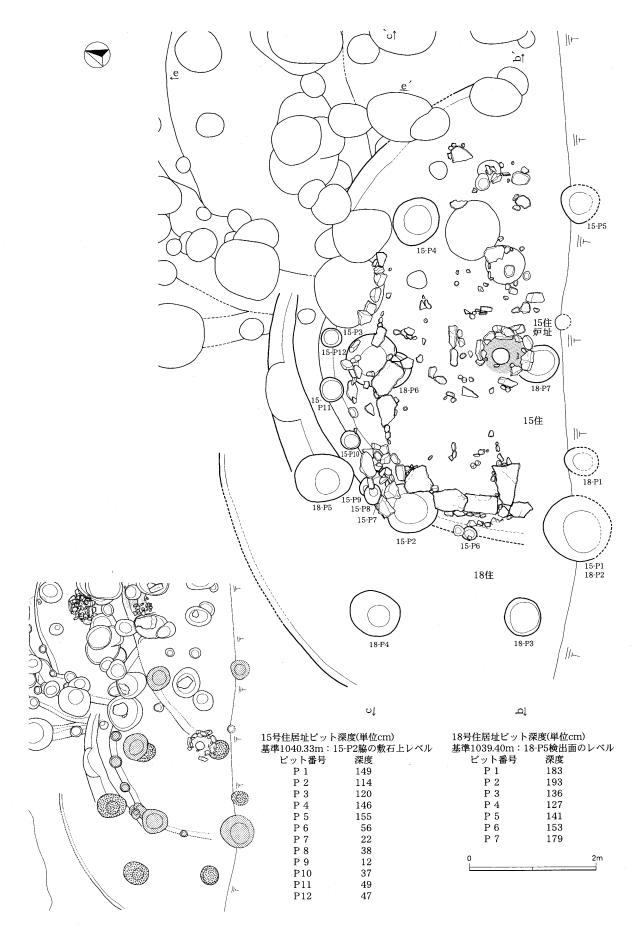




- 礫2mm少 炭化物2mm多 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 礫2mm少 炭化物2~ 5mm多 焼土粒子多 3 暗褐色土 10YR3/3 硬い ローム粒子多 ローム塊2mm
- 少 礫2mm少 炭化物2mm少

2m

第34図 3区15号住居址、6 · 7号焼土址 (1/60)



第35図 3区15・18号住居址(1/60)

面下から検出された。本址を直に覆う住居址は14住と15住である。14住床面との比高差は $20\sim30$ cm(付図 a · b · c 断面)、15住床面との比高差は $15\sim20$ cmを測る(付図 b · c 断面)。

形態・規模:主体部の平面形態は円形、または主軸より副軸が長い楕円形と推測される。規模は主柱穴 の本数が少なく推測できない。主体部の壁の北側に床面より一段高い面が検出された。本 址の掘方と考えられる。

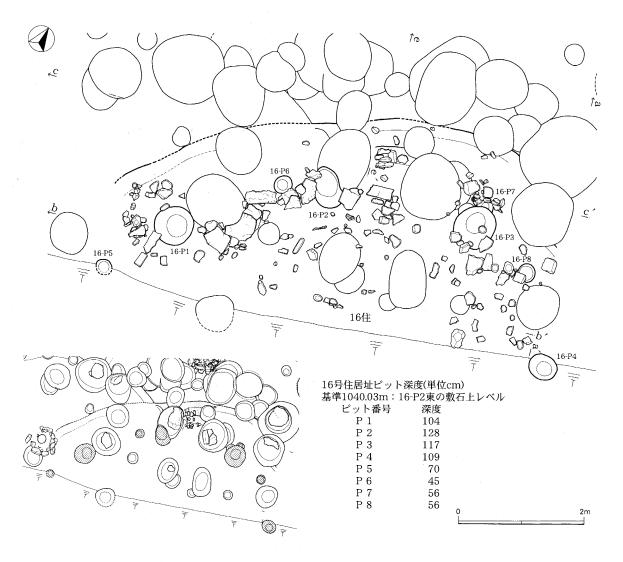
覆 土:付図a·b·c断面。

壁 : 主体部の壁と掘方の壁が部分的に検出された。ともに立ち上がりは不明瞭である。主体部の壁の残存高は床面から15~20cm、掘方の壁の残存高は約20cmを測る(付図 a 断面)。主体部の壁際に5~30cm大の礫が集中する箇所があり、土堤の可能性がある。

周 溝:検出なし。

床 面:全体的に硬く締まりがある。

敷 石:新しい住居址の柱穴が数多く重複するわりに、敷石の残りは良好である。主柱穴を結ぶ形 に敷かれている。



第36図 3区16号住居址 (1/60)

炉 址:検出なし。

柱 穴:推測を含め8基が検出された(16-P1~8)。主柱穴はP1からP3である。P6・8は本址の 支柱穴と考えられるが、他は検討の余地がある。

時期:堀之内 I 式併行と考えられる。

17号住居址 (第27図)

位 置:斜面、L・M-101~103グリッドに位置する。

重複関係:2・26住と重複する。2住より古く、26住との新旧関係は不明である。

検 出 状 態: 2 住の床面を掘り下げ、炉址が検出されたことで存在が確認された。

形態・規模:推測される柱穴の配置から、主体部の平面形態は主軸より副軸が長い隅丸長方形または楕円形と考えられる。平面規模は柱穴の外縁間で、主軸長3.2m、副軸長4mを測る。主軸方向は N-9°-Wである。

覆 土:観察なし。

壁 :検出なし。

周 溝:検出なし。

床 面:検出なし。

敷 石:検出なし。

炉 址:埋甕炉であるが、炉石を伴っていた可能性がある。土器は深鉢の胴部下半から底部で、正 位に埋設される。土器に接して焼土が残存する。

柱 穴:本址に伴う柱穴は、炉址との位置関係から、23基が推測されている(17-P23)。他に数 基の柱穴を伴う可能性もある。主柱穴は7本または9本と考えられる。対ピットはP1・2 とP3と考えられる。

時期:堀之内Ⅱ式から加曽利BⅠ式併行と考えられる。

18号住居址 (第35図)

位 置:斜面、 $F \sim I - 90 \sim 93$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:12~16住と重複する。12~15住より古く、16住との新旧関係は不明である。

検出状態:開田工事で生じた法面にかかる住居址で、南側の一部が削平されている。15住の炉址の調査で、炉址に重複する古い柱穴の存在が確認されていた。炉址の西側法面にかかる2基の柱穴との関連が示唆され周辺を調査した。その結果、整然と配置する7基の柱穴が検出され、住居址の存在が明らかとなった。

形態・規模:僅かに検出された壁からみて、主体部の平面形態は円形と推測される。平面規模は柱穴の 外縁間で、主軸長5m、副軸長4.6mを測る。主軸方向はN-16°-Wである。

覆 土:観察なし。

壁 : 北壁と西壁の一部が検出された。立ち上がりは明瞭で、残存高は床面から5~10cmを測る。

周 溝:検出なし。

床 面:一部が北側で検出された。硬く締まりがある。

敷石:検出なし。

炉 址:検出なし。

柱 穴:7基検出され、すべて主柱穴である($18-P1\sim P7$)。P2は15住-P1と同一地点で重複する。P2で柱痕が確認されている。またP5からP7の底面にローム混じりの黒色土の埋土が確認されている。厚さはP5で約10cm、P6で約20cm、P7で約10cmを測る。

時期:堀之内 I 式併行と考えられる。

19号住居址 (第37図)

位 置:斜面、P~R-111~114グリッドに位置する。

重複関係:20住と重複する。礫の切り合いからみると、本址が新と思われる。

検 出 状 態:開田工事で生じた法面にかかる住居址で、約1/2が残存する。開田工事の客土に覆われ、 保存状態は良好である。

形態・規模:主体部の平面形態は敷石の平面分布からみて、円形または主軸が副軸より短い楕円形と推 測される。平面規模は柱穴の外縁間で、直径5.5mと推測される。

覆 土:検出なし

壁 :検出なし。

周 溝:検出なし。

床 面:特に硬い面はない。

敷 石:柱穴の内縁を結ぶように敷かれている。北側は平石が整然と敷かれ、他は5~10cm大の円 礫や角礫などが敷かれる。P3の南は小さな礫が弧状に敷かれるが、本来、ここには平石 が敷かれていたと考えられる。

炉 址:検出なし。

柱 穴:7基検出された(19-P1~7)。規模にほとんど差がなく、すべて主柱穴と考えられる。P 1の底面にある板状の礫は、台地平坦面から自然供給されたものと考えられる。

備 考:敷石より10~30cm高い位置から、大小の礫が多量に出土している。壁際のものは礫堤の崩落かもしれないが、住居址中ほどの礫は投棄されたものと考えられる。一方、北側の敷石上に20~30cm大の礫10数個が遺存していた。礫の中には石棒が含まれている。これらの礫は投棄されたものではなく、意図して置かれたものと考えられる。

時期: 称名寺式併行と堀之内式併行の土器が混在している。時期決定は保留したい。

20号住居址 (第37図)

位 置:斜面、P-110~112グリッドに位置する。

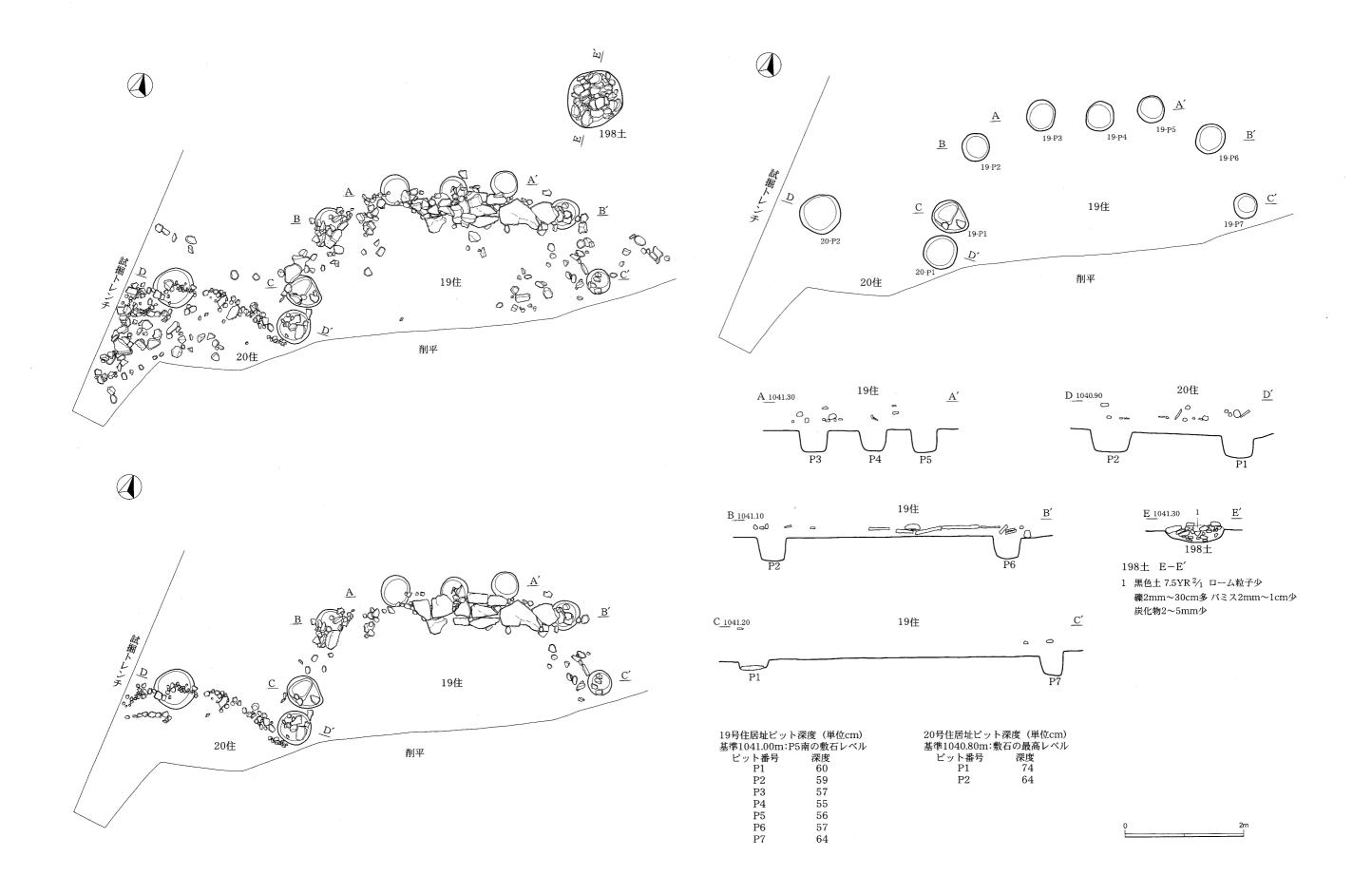
重 複 関 係:19住と重複する。

検出状態:住居址の南側は開田工事で生じた法面にかかり、西側を試掘トレンチで失っている。残存 範囲は1/5ほどと思われる。残存部は開田時の客土に覆われ、保存状態は良好である。

形態・規模:平面形態は礫の平面分布からみて、円形と推測される。

覆 土:観察なし。

壁 :礫堤(土堤)と考えられる礫集中が柱穴間に確認された。礫の大きさは $2\sim10$ cm大で、残存高は $20\sim30$ cmを測る。



周 溝:検出なし。

床 面:確認できていない。

敷 石:柱穴間に列状に残存する小礫を、縁石とみるか判断に迷う。一部に縁石とみられる礫がある。しかし、数cm大の礫を多く含み、すべての礫が敷かれていたとは思われないため、縁石とともに礫堤(土堤)が構築されていたと考えておく。

炉 址:検出なし。

柱 穴:2基検出された(20-P1・2)。主柱穴と考えられる。

備 考:残存範囲から大小の礫が多量に出土した。大きな礫は中ほどに多く、小さな礫は壁際に多い。

時 期: 称名寺式併行と堀之内式併行の土器が混在している。時期決定は保留したい。

21号住居址 (第38図)

位 置:斜面、Q~S-117~120グリッドに位置する。

重複関係:重複なし。

検 出 状 態:開田工事の客土に覆われ、保存状態は良好である。

形態・規模:平面形は主軸が副軸より短い楕円形を呈す。規模は柱穴の外縁間で、主軸長5.2m、副軸長4.7mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。

覆 土:観察なし。

壁:検出なし。

周 溝:検出なし。

床 面:特に硬い面はない。

敷 石:柱穴間を結ぶように縁石と敷石が敷かれている。

炉 址:石囲埋甕炉である。炉石の残りは不良で、多くは抜き取られている。炉体土器は深鉢の底 部で、正位に埋設される。火床の焼土は不明瞭である。

柱 穴: 7基検出された (21-P1~7)。すべて主柱穴である。

備 考: P5と P6間に骨片の散布が確認された。幅は柱穴幅よりやや広い。

時 期:堀之内 I 式併行と考えられる

22号住居址 (第39·40図)

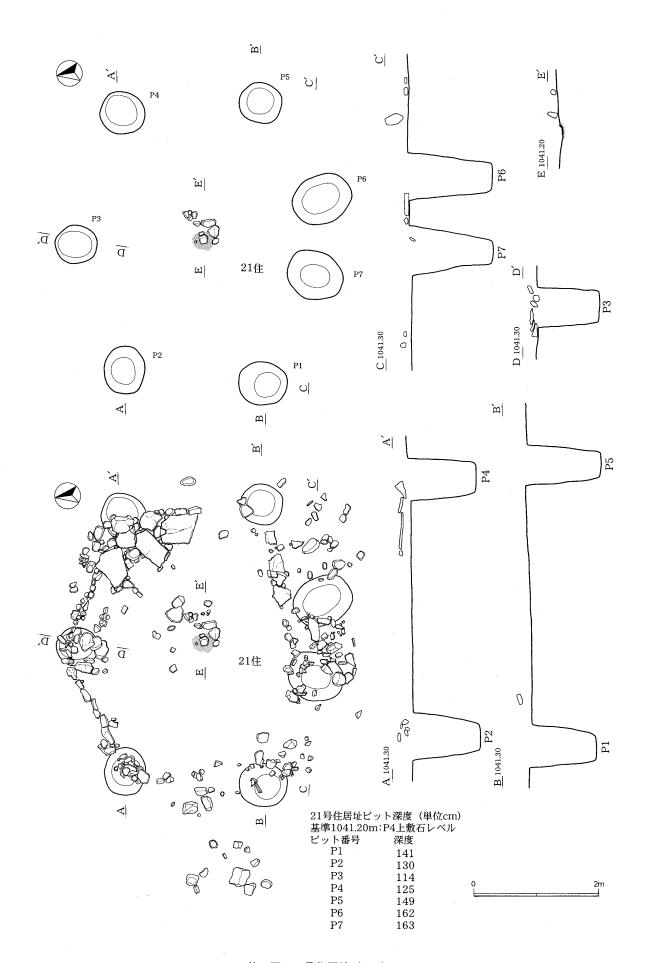
位 置:低地、 $G \sim I - 102 \sim 104$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:3配石と僅かに重複する。本址の柱穴(P3・4・6)を3配石の礫が覆うため、本址が古と 考えられる。

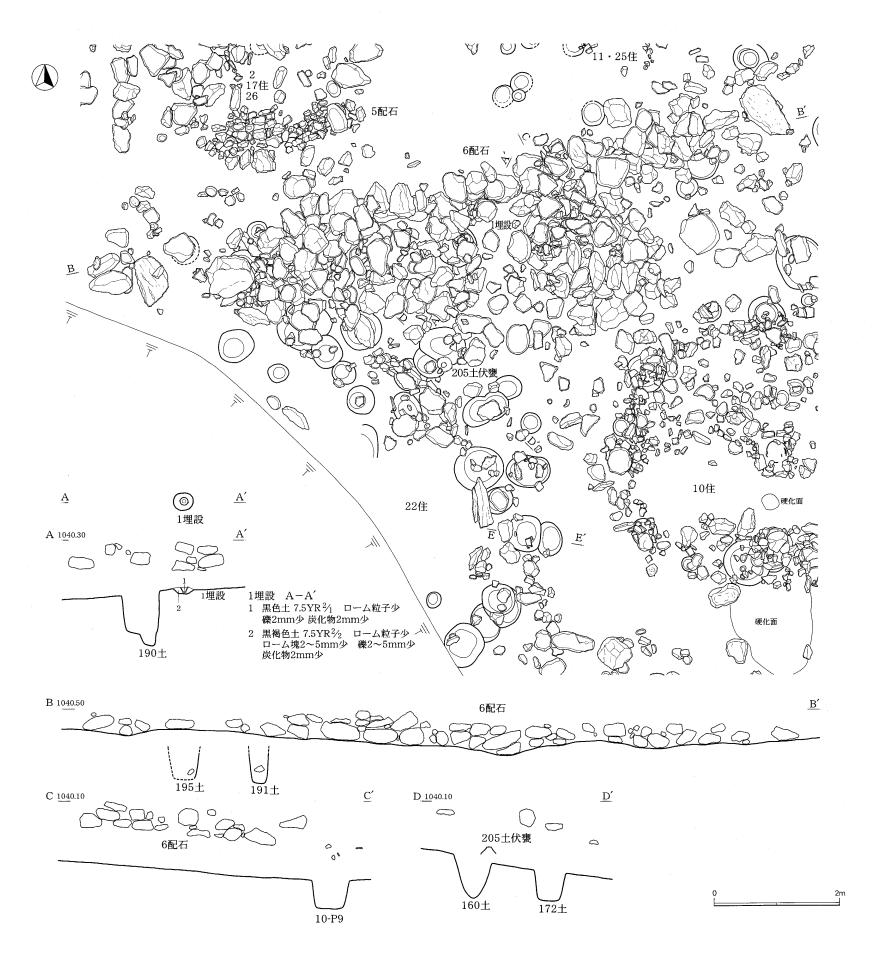
検出状態:開田工事で生じた法面にかかり、1/2以上は削平されている。遺構検出当初、法面にかかる大小の礫が多数検出された。礫を覆う土に締まりがなく、工事の際に動かされた礫と判断し取り除いている。本来、住居址内に多くの礫が存在したと考えられる。

形態・規模:柱穴の配置からみて、平面形態は円形または主軸が副軸より短い楕円形と推測される。平面規模は柱穴の外縁間で、直径7m前後と推測される。

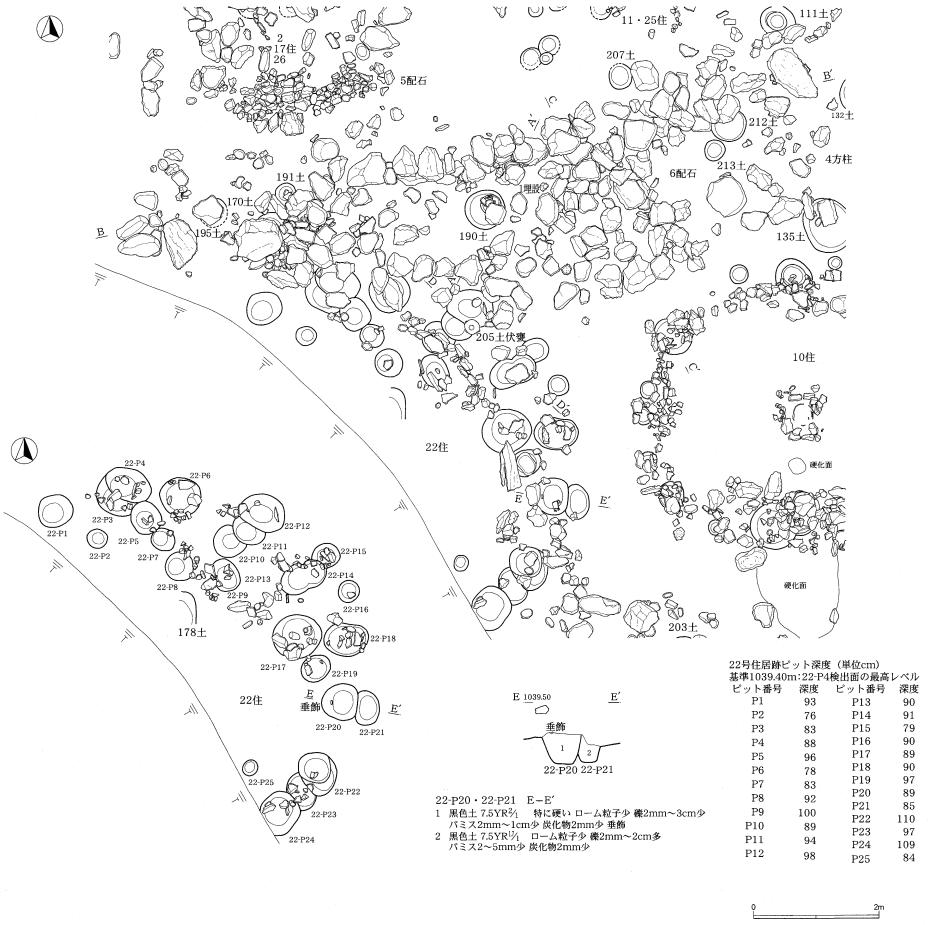
覆 土:観察なし。



第38図 21号住居址 (1/60)



第39図 3区22号住居址、土坑、5・6号配石、1号埋設土器(1/60)



壁 :検出された礫の中に、柱穴に沿う列状の礫群がある。礫は南西方向に傾斜し、板状の礫は 立てられているように見える。本址の礫堤と考えられる一方、205土とした伏甕に伴う石 囲の一部とも考えられる。

周 溝:検出なし。

床 面:検出なし。

敷 石:明らかに敷石といえる礫は見当たらない。

炉 址:検出なし。

柱 穴:25基に番号を付している (22-P1~25)。2重または3重に配列するように見えるが、数が 多く、失われた柱穴もあるために、組み合わせを特定することは難しい。

備 考: P20内から垂飾りが出土している。形状は石鹸形で最大長6.5cm、最大幅4cm、最大厚2.4cm、 重さ103.2gを測る。穿孔は長軸方向(縦方向)である。P20の上に構築された別の浅い 穴に伴う遺物の可能性もあるが、それを積極的に裏付ける根拠がないため、本址の柱穴に 伴う遺物と捉えておく。

時期:堀之内 I 式併行と考えられる。

23号住居址 (第28·29図)

位 置:斜面、J~L-93~95グリッドに位置する。

重 複 関 係:1・3・12~16・24住と重複する。1・3住より古く、12~16・24住より新しい。

検出状態:1住(平安住居址)により礫堤の上部が削平されている可能性がある。検出当初から礫堤のプランが確認できている。

敷石は検出されていないが、廃絶後に抜き取られた可能性が高いことから、敷石住居址 と考える。しかし柄鏡形であるのかは判然としない。

主体部の平面形態は主軸より副軸が長い楕円形を呈す。礫堤の平面規模は、主軸長4.8 m前後、副軸長5.5m前後を測る。礫堤に囲まれた主体部の平面規模は、主軸長4.2m前後、副軸長4.5mを測る。主軸方向は N-19°-Wである。

覆 土:暗褐色土や褐色土で硬く締まりがある。

壁 : 壁体は礫堤と土堤で築かれている。壁体の残存高は床上約80cmまで確認されている。残存幅は土層断面の解釈によって、最大150cmほどとなる可能性がある。礫堤は長さ20~70cmの礫で築かれているが、本来は数段の石積みであったと考えられる。残存幅は70cm、残存高は40cmまで確認される(付図 d 断面ほか)。

土層断面によると、壁体の構築工程は3住と同様であると考えられる。

周 溝:検出なし。

床 面:暗褐色土で硬く締まる。

敷 石:検出なし。

炉 址:検出なし。本址の廃絶後に構築された3住により削平されたと考えられる。

柱 穴:北側では主柱穴と支柱穴が特定されている (23-P1~14)。主柱穴はP1からP6、支柱穴はP7からP14である。一方、南側ではプランが推測され、出入口部が特定されたにも関わらず、他柱穴と激しく切り合うために特定できていない。対ピットの候補は23・24-P

3~5とP7~10などである。P4・6で柱痕が確認されている (付図d・e断面)。

備 考:本址と3・24住は、ほぼ同じ地点で連続して構築された住居址である。土堤の上に礫堤を 築き壁体とする構造からも、同じ仕様で構築された住居址と考えられる。柱穴と礫堤の位 置に着目すると、柱穴は礫堤の外側に設置されるという共通点が見出せる。本址の場合、 柱穴が礫堤の外縁に接するものと、やや外側に間隔をもつものがあり、3・24住のように 礫堤の輪郭線と柱穴間を結ぶ線は同心円とならない。柱穴を設置したい位置に古い住居址 (24住)の礫堤があり、位置をずらした結果であるのか、それともより強固な壁体を構築 するために礫堤から距離をおいたものなのか、また、他に理由があるのかもしれない。

時 期:堀之内Ⅱ式から加曽利BⅠ式併行と考えられる。

24号住居址 (第28·29図)

位 置:斜面、 $J \sim L - 93 \sim 95$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:1・3・12~16・23住と重複する。1・3・23住より古く、12~16住より新しい。

検 出 状態:3・23住の礫(礫堤)を検出した段階では、本址の礫堤は確認できていない。

形態・規模:敷石は検出されていないが、構築後に抜き取られた可能性が高いことから、敷石住居址と 考える。しかし柄鏡形であるのかは判然としない。礫堤および柱穴配置は3・23住に類似 し、規模は最大である。

主体部の平面形態は円形を呈す。礫堤の平面規模は、主軸長5.6m前後、副軸長6m前後を測る。礫堤に囲まれた主体部の平面規模は、主軸長5m前後、副軸長5.2m前後を測る。主軸方向はN-15°-Wである。

覆 土:付図a断面。

壁 :壁体は礫堤と土堤で築かれている。壁体の残存高は床上70cmまで確認される。残存幅は土層断面の解釈によって、最大200cmほどとなる可能性がある。礫堤は長さ20~50cmの礫を積み上げて築かれる。残存幅は100cm、残存高は50cmまで確認される(付図 d 断面ほか)。 礫の多くは水平か内側に傾いた状態で検出されたが、外側へ傾くものも散見される。積まれた礫が多く、北西コーナーでは4段積みが確認されている。

土層断面によると、壁体の構築工程は3・23住と同様であると考えられる。土堤に使われる土は炭化材と焼土塊を多量に含んでいる。

周 溝:検出なし。

床 面:炭化物・焼土塊を多量に含む黒褐色土の貼床面と考えられるが、的確に検出したとは言い 難い。

敷 石:検出なし。

炉 址:13住の敷石上数cmで検出された。埋甕炉であるが、炉石を伴っていた可能性がある。深鉢の胴部下半から底部が正位に埋設される。火床の焼土は明瞭で広範囲に分布する。なお、本址の炉址は、12住の炉址としても良い位置と検出レベルにある。12住の炉址は13・14住と同様に1m角以上の大きさと推測されるが、検出された焼土範囲からみて1m角以上の炉址であるとは言い難い。根拠に乏しいが本址の炉址と考えておく。

柱 一一穴:23住と同様に、他柱穴との切り合いが少ない北側で柱穴が特定され、他柱穴と激しく切り

合う南側は特定できていない。特定された柱穴は14基である(24 - $P1 \sim P14$)。主柱穴は P1から P5、支柱穴は P6から P14である。対ピットの候補は23住と同様である。 $P1 \cdot 3$ で P6で P6 で P7 で P7

付属施設:検出なし。

時期:堀之内Ⅱ式(~加曽利BⅠ式?)併行と考えられる。

25号住居址 (第31図)

位 置:斜面、K・L-104~106グリッドに位置する。

重 複 関 係:11住・6配石と111・207土と重複する。11住・6配石・111土より古く、207土より新しいと 考えられる。

検出状態:11住の柱穴検出作業において、本址の柱穴が検出された。

形態・規模:25住とした柱穴の配置は南東に面して弧をなし、最低2列に配列するように見える。それ ぞれに住居址番号を付すべきかもしれないが、炉の位置はそのままで拡張または縮小(同 心円状の拡張または縮小)した住居址の可能性もあり、ここでは1軒として考えたい。平 面形態は円形と推測される。

覆 土:観察なし。

壁 :検出なし。

周 溝:検出なし。

床 面:検出なし。

敷 石:検出なし。

炉址:検出なし。

柱 穴:26基(25-P1~26)の大半は本址の柱穴と考えられる。本来、南側にも柱穴が存在したであろうが、6配石の構築と遺構検出段階の掘り下げで削平されたと思われる。

付属施設:なし。

備 考:柱穴の検出面が11住の床面より高いため、本址の床面は11住の床面より上層となる。

時期: 称名寺式併行から堀之内 I 式併行の可能性があるが、時期決定は保留したい。

26号住居址 (第24図)

位 置:斜面、 $K \sim M - 101 \sim 103$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:2・17住と重複する。2住より古く、17住との新旧関係は不明である。

検出状態:2住の床面を掘り下げ検出された。

形態・規模:推測される柱穴の配置から、主体部の平面形態は主軸より副軸が長い隅丸長方形か楕円形と考えられる。平面規模は柱穴の外縁間で、主軸長3.5m前後、副軸長4mを測る。主軸方向はN-21°-Wである。

覆 土:観察なし。

壁 :検出なし。

周 溝:検出なし。

床面:検出なし。

敷石:検出なし。

炉 址:検出なし。

柱 穴:14基が推測された (26-P1~14)。他に数基の柱穴を伴う可能性もある。対ピットはP1・ 2と考えられる。

時期:堀之内Ⅱ式(~加曽利BⅠ式?)併行と考えられる。

②方形柱穴列

3号方形柱穴列(第41図)

位 置:低地、I~M-111~114グリッドに位置する。

重 複 関 係:3方柱の柱穴に重複する土坑、および柱穴を結んだ範囲内にある土坑は20基ほどある。また、長軸線上に5焼土がある。

検出状態:本址に伴う大小の礫は、黒色土層から黒褐色土層で検出され、柱穴は明黄褐色土層 (2次 堆積ローム層)で検出された。調査時に方形柱穴列としての認識はなく、整理においてそ の存在が確認された。

形態・規模:柱穴配置は長方形を呈し、柱間は長軸・短軸とも2間である。長軸線上にある12土と58土は「棟持柱」と考えられる。平面規模は長軸長5.8m、短軸長4.1mを測る。長軸方向はN-18°-Wである。

柱 穴:8基で構成される。平面規模は四隅の柱穴で直径80~110cm、中間の柱穴で直径50~60cmを 測る。 $21\cdot42\cdot63\cdot67$ 土では掘方の壁に沿って礫が積まれている。これらの礫は柱の根固 めと考えられる。覆土の断ち割りで柱痕が確認されたものは、 $12\cdot21\cdot42$ 土である。

付属施設:5焼土は位置からみて、本址に伴うものと考えられる。平面規模は長軸100cm、短軸70cmを 測る。検出面は黒褐色土層である。

備 考:黒色土層から黒褐色土層で検出された大小の礫に、柱穴を囲み分布するものがある。21・42・67土は明瞭で、礫の平面分布と柱穴の位置からみると、下位の礫は柱の根固めと考えられる。しかし、67土を囲む上位の礫は柱穴の範囲から大きく外れるものが多い。柱穴と礫の検出面の差約20cmを考慮しても、掘方に収まらないと思われる多くの礫がある。柱穴を囲むすべての礫が掘方に収まっていたかは疑問で、礫は柱穴の掘り込み面に置かれた、または積まれたものと考えられる。さらに、礫の平面分布と柱穴の配列が一致する箇所があることから、礫は遺構の内と外を区画する構造物である可能性がある。

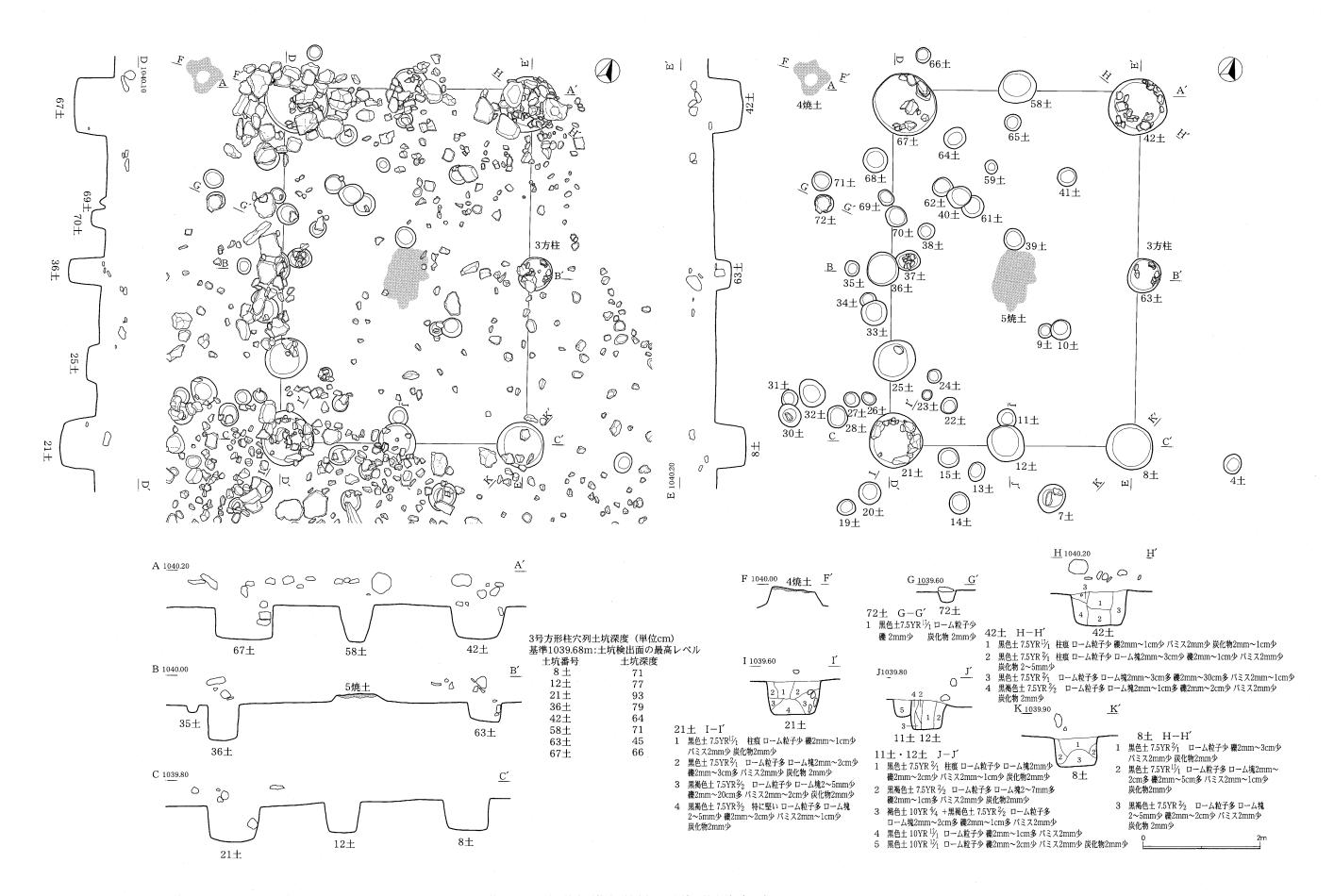
時期:堀之内 I 式以降と考えられる。

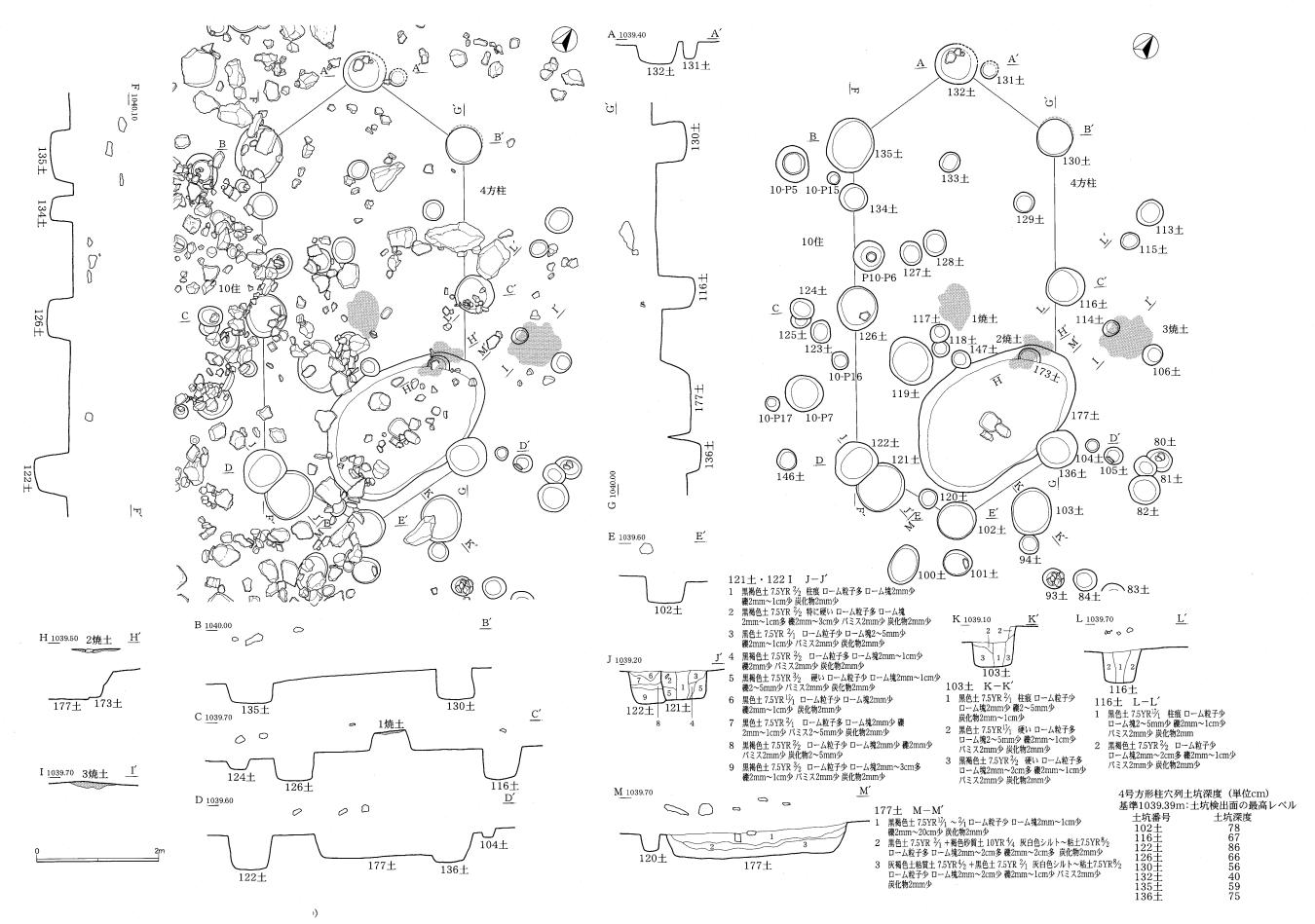
4号方形柱穴列(第42図)

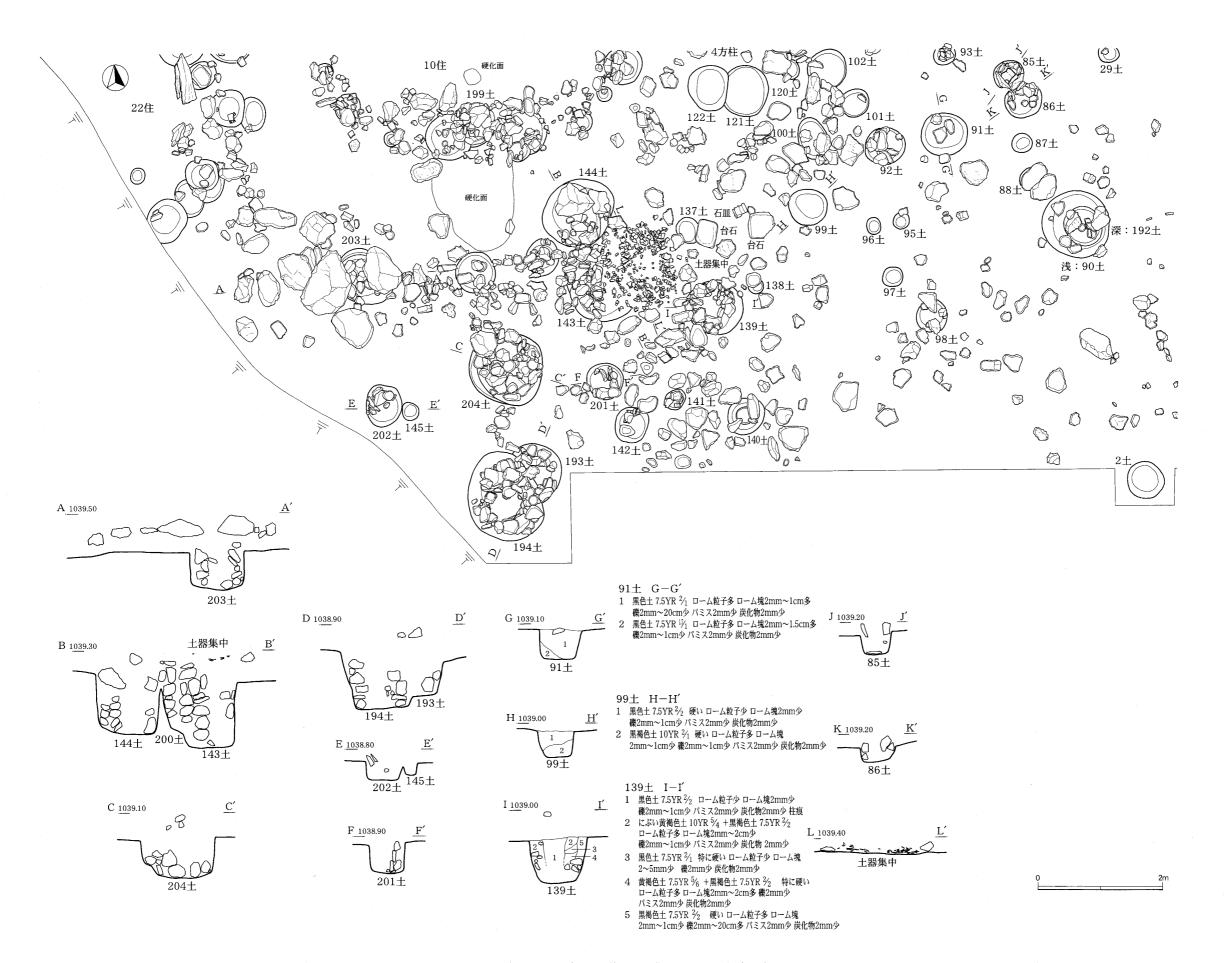
位 置:低地、 $G \sim K - 106 \sim 109$ グリッドに位置する。

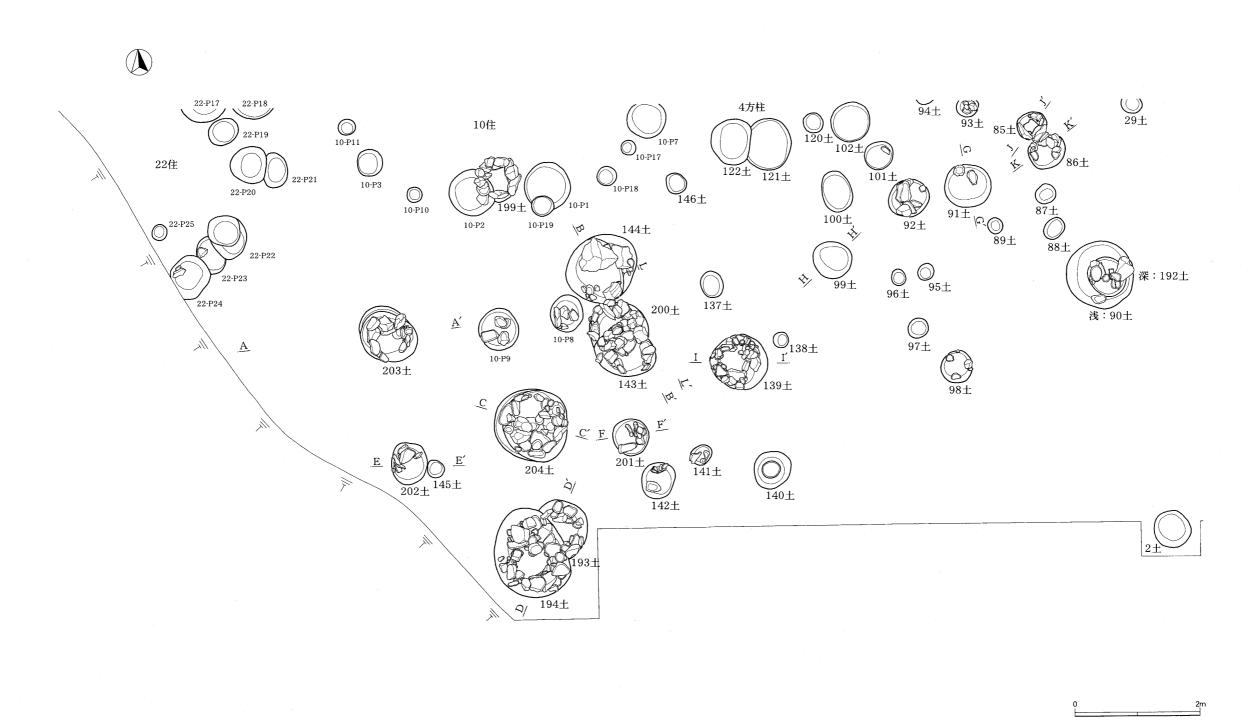
重 複 関 係:10住と重複する。126土が10住の礫堤を切るため、本址が新と考えられる。4方柱の柱穴に 重複する土坑、および柱穴を結んだ範囲内にある土坑は15基ほどで、焼土址が2基ある。 122土と121土は122土が古である。

検出状態:柱穴検出面より高い位置にある礫は黒色土層から黒褐色土層で検出された。また、柱穴は 暗褐色土層で検出された。調査時に方形柱穴列の認識はなく、整理においてその存在が確









第44図 3区低地の土坑(根固めを伴う柱穴群)(1/60)

認された。

形態・規模:柱穴配置は南北に長い六角形(亀甲形)を呈す。柱間は長軸2間、短軸1間である。平面規模は長軸長5.2m、短軸長3.4mを測る。長軸線上にある102±と132±は「棟持柱」と考えられ、その間隔は7.5mを測る。長軸方向はN-39°-Wである。

柱 穴:8基で構成される。平面規模は直径60~90cmを測る。3方柱のような柱の根固めは不明瞭である。覆土の断ち割りで柱痕が確認されたものは116土のみである。

付属施設:1焼土は本址のほぼ中央に位置する。平面規模は長軸80cm、短軸50cmを測る。約1m東に2焼土 (80×40cm)、約2m北東に3焼土 (90×70cm) があり、これらと関連するものならば本址に伴わない焼土址となる。長軸方向が3方柱に同じであることを重視し、本址に伴う焼土址と考えたい。検出面は黒色土層である。

時期:堀之内I式以降と考えられる。

③ 配石・列石

1配石 (第24・25図)

位 置:斜面、G~I-88・89グリッドに位置する。

重 複 関 係:187・188土と重複し、本址が新と考えられる。また、県埋蔵文化財センター調査の住居址 と重複し、本址が新である。

検 出 状 態:表土直下の黒色土層で存在が明らかとなった。保存状態は良好である。

形態・規模:北東から南西に長い楕円形を呈す。長軸約3.8m、短軸約2.5mを測る。礫の密集度により 北東と南西の配石に区分することも可能である。その場合、配石北側の掘方の括れと対応 することとなり、切り合い関係をもつ配石となる可能性もある。角の丸い礫が主体を占め るが、傾斜に面して立てられた数枚の平石は注意される。

時 期:堀之内Ⅱ式(~加曽利BⅠ式)併行と考えられる。

2配石 (第24·25図)

位 置:斜面、H~J-89~91グリッドに位置する。

重 複 関 係:18住と重複する。本址が新である。1列石に接するが、新旧関係があるのか判然としない。

検 出 状 態:表土直下の黒色土層で存在が明らかとなった。保存状態は良好である。

形態・規模:南北に長い不整形を呈す。長軸約4m、短軸約2.5mを測る。空間を囲む北と南の配石に区分することも可能である。角の丸い礫が主体である。

備 考:2つの空間から土器が出土し、北側では一括土器が出土している。1配石との境界と、北側掘方の下端の括れが対応する可能性もある。1配石と同様に、掘方が単位または時間差を示すのかもしれない。

時期:堀之内Ⅱ式(~加曽利BⅠ式)併行と考えられる。

3配石(第24·25·28·32図)

位 置:斜面、 $G \sim I - 92 \sim 98$ グリッドに位置する。

重 複 関 係:12・13住参照。6焼土と重複する。礫が焼土に食い込むため、本址が新である。

検 出 状 態: 道路建設と開田工事の法面にかかり、多くの礫が抜き取られていると考えられる。

形態・規模:東西に延びる配石で、12・13住に伴う配石と考えられる。5配石につながる可能性もある。 12・13住の出入口部の南には、柱状の礫が立てられている。

備 考:配石は13住の床面から続く面を切り、構築されたと考えられる。

時 期:堀之内Ⅱ式併行と考えられる。

4配石(第24·25図)

位 置:斜面、J・K-98~100グリッドに位置する。

重 複 関 係:2列石に接するが、新旧関係があるのか判然としない。

検出状態:配石の南側は削平され、一段低い面となっている。その際に多量の礫が抜き取られたものと思われる。また、配石から約2m 南が開田工事で生じた法面となるが、表工を除去する際に、法面にかかり南側へ傾斜する多量の礫が確認されている。配石が残存部の南へ延びていたことは明白である。残存部では保存状態が良い。

形態・規模:残存する長さは約5m、幅は約1.8mを測る。積み重ねられた礫が多く、据わりの良い礫を 囲み板状の礫を立てるものもみられる。

時 期:堀之内Ⅱ式(~加曽利BⅠ式)併行と考えられる。

5配石 (第24·25·27図)

2 住参照

6配石 (第24·25·39·40図)

位 置:斜面、 $I \sim K - 100 \sim 106$ がリッドに位置する。

重 複 関 係:11・22・25住と重複し、配石が新と考えられる。また、111・190・191・207・212土は、 配石に沿って位置するため、配石と関係する土坑と考えられる。土坑は形状からみて、柱 穴と判断される。

検出状態:開田工事の客土に覆われ保存状態は非常に良い。ただし、西端は開田工事で生じた法面に かかり礫が失われていると考えられる。

形態・規模:第Ⅲ章の冒頭で記したとおり、「斜面」と「低地」を画す配石である。

東西に長く、残存する長さは9m、最大幅は3mを測る。礫の大きさは30~80cmで、平均40~50cmである。配石は台地側の地山(整地面)を60cmほど掘り下げて構築されている。 その法尻に板状の礫が石積みされる。3段積みまで確認できる。

石積みされた礫の西側に2住の出入口部へ通じる礫の「階段」がある。また石積みされた礫に接し、2箇所の礫集中がある。1箇所は10住へ向かって U 字状に張り出す。南北2.5 m、東西2mを測る。もう1箇所は「階段」の南で、配石中最大級の礫の周囲を大小の礫で囲むものである。

時 期:堀之内Ⅱ式(~加曽利BⅠ式)併行と考えられる。

4)埋設土器

1号埋設土器 (第39図)

位 置:斜面と低地の境、J-104グリッドに位置する。

重 複 関 係:6配石と重複する。礫下から検出されたため本址が古と考えられる。

検出状態:6配石の礫を取り除いたところ、土器が確認された。

形態・規模: 土器周囲の精査により掘方が確認されたため埋設土器とした。土器は正位に埋設される。 底部に高台がつくとみられ、この部分が欠落している。口縁部には対をなす突起がある。 口縁部の形は円形で、底部は四角形となる。内外面ともに良く磨かれている。突起までの

残存高は約10.5cm、口径は約11.5cm、底部は約7.5cm角を測る。

時 期:堀之内Ⅱ式併行と考えられる。

⑤ 土器集中

1号土器集中(第43図)

位 置:低地、F・G-107グリッドに位置する。

重 複 関 係:143・200土と重複する。本址が新である。

検出状態:手掘りのトレンチ調査で確認された。

形態・規模:約1.4m四方に土器片が集中する。その周囲に20~40cm大の角礫や亜角礫があり、土器片を囲み据えられたように見えるが、位置関係以外に本址に伴う礫とする根拠は見出せない。それよりも、1箇所に土器がまとまり過ぎていることが注目される。まるで仕切板でも存在したかのようである。土器は最大15cmのレベル差をもち、その間に折り重なっている。総量は約25.5kgを測る。その中で図上復元できるものは僅かに4個体である。接合するものが少ないほかに、風化の進んだ土器が多いという特徴がある。地下水位の高い地点に位置することが影響しているのであろうか。

備 考:本址の東50~150cmの地点から、台石2点と石皿1点が出土した。台石は正位、石皿は逆位である。ともに原位置を保つ遺物と考えられる。また、重複する143・200土を含め、本址の南から西にかけて根固めの礫を伴う柱穴が群をなして検出された。現場では方形柱穴列と考えていたが、規則性をもち配列する柱穴が見当たらないため、単独の土坑と考えている。本址とともに、低地の空間利用を考えるための良好な資料である。

時 期:堀之内Ⅱ式併行と考えられる。

(4) 平安時代

①住居址

1号住居址 (第45・46図)

位 置: $J \sim L - 93 \cdot 94$ グリッドに位置する。

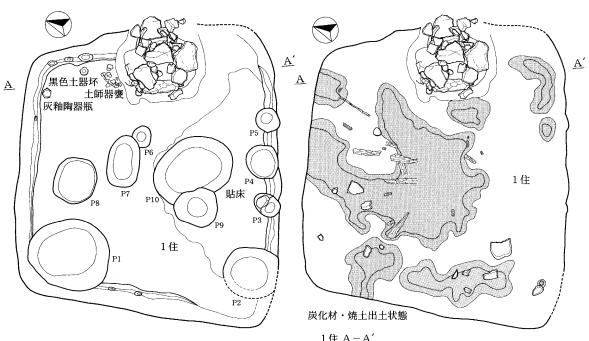
重 複 関 係:3・12・23・24住を切っている。

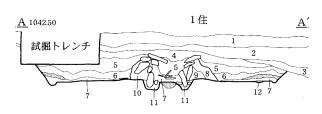
検出状態:遺構の存在は平成8年度の試掘で確認されていたが、時代不明の落ち込みと報告されている。敷石住居址に伴う礫が露出し始めた面で、黒みの強い黒色土の落ち込みが検出された。 覆土から平安時代の土器が出土し、帰属する時代が明らかとなった。遺構検出面は縄文時 代後期前半の敷石住居址の覆土で、北側は暗褐色~褐色土層、他は黒色~黒褐色土層であ る。東壁と南壁の一部をトレンチで削平している。

形態・規模:平面形態は隅丸方形を呈す。平面規模は南北長4.7m、東西長が4.7mを測る。カマドがあ る壁に直交する方向はN-75°-Eである。

覆 土:カマドを含め、12層に分層された $(A-A^{\prime})$ 。住居のほぼ全域に焼土層が確認された。 床面との間に厚さ10cm前後の黒色土層があり、焼土層はその上にのっている。焼土層内に は炭化材が残存し、平面分布は放射状である。

辟 :北壁と東壁の立ち上がりは明瞭であるが、南壁と西壁は黒色土層への掘り込みであり不明 瞭である。壁の残存高は床上5~45cmを測る。





1号住居址ピット深度(単位cm) 基準1041.57m: 床面レベル

	ピット番号	深度
0 2m	P 1	27
O Zm	P 2	22
	P 3	23
	P 4	12
	P 5	9
	P 6	20
	P 7	19
	P 8	20
	P 9	29
	P10	24

- 1住 A-A'
- 1 黒褐色土 10YR3/1 耕作土
- 2 黒褐色土 10YR2/3 耕作土
- 3 黒褐色土 10YR3/2 耕作土?
- 4 黒褐色土 10YR2/2 礫2mm~1.5cm少 炭化物2mm少 5 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少 礫2mm~2cm少 炭 化物2mm~1cm少 燒土粒子少 燒土塊2mm少
- 6 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2~5mm 少 礫2mm~1cm少 炭化物2mm~3cm多 焼土粒子多 焼土塊2mm~2cm多
- 7 黒色土 10YR2/1 ローム粒子多 ローム塊2mm少 礫 2~5mm少 炭化物2mm~1cm少
- 8 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm多 礫 2mm~1cm少 硬い
- 9 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒子多 ローム塊2~5mm多 礫2mm~1cm少 パミス2mm~1cm少 炭化物2mm少 硬い
- 10 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~ 1cm多 礫2mm~1cm少 パミス2mm~1cm少 焼土粒 子多 焼土塊2~5mm多 硬い
- 11 暗褐色土 10YR3/3+黒色土10YR1.5/1~2/1 ローム 粒子多 ローム塊2mm多 礫2mm~1cm少 硬い
- 12 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~ 2cm多 礫2mm~1cm少 パミス2mm少 炭化物2mm 少 貼床 硬い

第45図 3区1号住居址(1/60)

周 溝:東壁と西壁の一部を除き、周溝が検出された。深さもあり掘方は良好である。

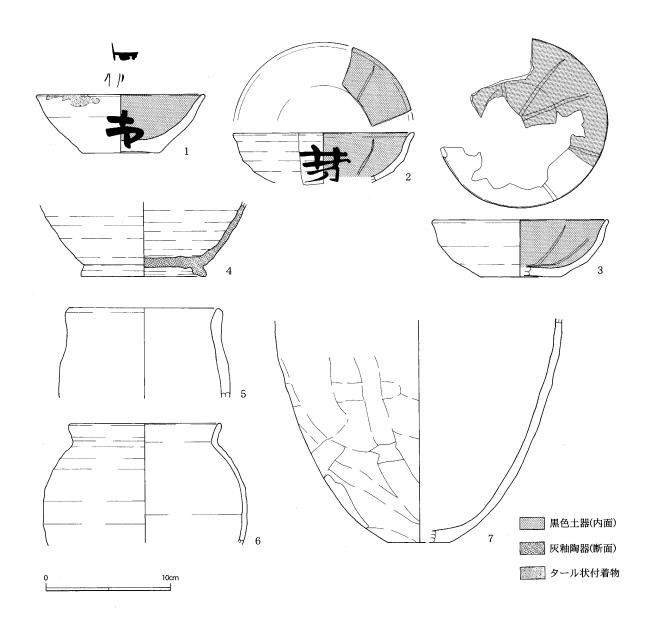
床 面:北側半分はローム漸移層からローム層につくられ、南側半分は黒色土層から黒褐色土層に ローム塊を多量に含む黒褐色土を貼床してつくられている。ほぼ平らで、全面硬い。

カ マ ド:石組みで、ローム塊を多量に含む黒褐色土で覆われている。天井にのせられた礫の一部が 崩落しているが、袖の石は構築状態のまま残存している。火床は床面と同レベルで、焼土 の残りは明瞭である。

柱 穴:いわゆる「床下土坑」を含め、10基にピット番号を付した。P6からP10では貼床が確認された。柱穴は位置と規模からみてP3からP6と考えられる。

付属施設:ピット番号を付したP1・2などは貯蔵穴であろうか(小池)。

出土遺物:平安時代の遺物の出土量は非常に少ない。供膳具は土師器坏が2個体・黒色土器坏3個体分、 貯蔵具は灰釉陶器瓶1個体、煮沸具は土師器小型坏3個体、長胴甕4個体分が出土している。 そのうち6点を図示した。1~3は黒色土器坏である。うち、1・2は墨書土器であり、2・



第46図 3区1号住居址出土土器(1/3)

3に暗文が施されている。1は内面を放射状に研磨しており滑らかである。口縁部にタール状の付着物が見られる。墨書は外面の2ヶ所に、対面に書かれている。両面とも字の半分が消えているため、字は不明である。底部には糸切り痕があり、成形はなされていない。2は内面がよく磨かれており、放射状に暗文が施されている。外面に墨書があり、「井刀」とも読めそうだ。3は放射状に暗文が施されている。破片の一部が焼成を受けているようで、黒色が飛んでいる。底部に糸切りが残っている。4は灰釉陶器瓶で、胎土は須恵器に酷似している。高台は付高台で、底部はロクロで成形がなされている。体部にナデ痕がある。5・6は小型甕で、5は上部が割れたため、研磨して平にして再利用している。6はロクロ引きで作られている。7は長胴甕で、体部から底部まで木口削りで成形している。甕上部は横ナデ成形をしており、体部の削りはされていない。

本遺構の出土遺物の特徴は、出土量が少なく、供膳具の主体が黒色土器坏であることである。これらの黒色土器は墨書と暗文がなされている (柳川)。

備 考:本址は火災住居址であると考えられるが、床面と同様に壁面にも焼けた痕跡は見られない。

時期:出土した土器からみて、9世紀中葉であると考えられる。

第4節 4区の遺構と遺物

(1) 概要

遺構は住居址と土坑がある。住居址は1軒で縄文時代と考えられる。土坑は46基検出されている(第47~5 1図)。出土した土器は縄文土器に限定されるため、土器を伴う土坑は縄文時代と判断される。また、覆土の色調と締まり具合などから、他の土坑も縄文時代と考えられる。焼土址は1基ある(第48図)。土坑の一部を埋め戻し、2面で火が焚かれている。形態・覆土などからみて、貯蔵穴(1・6・20・22土など)・落し穴(2土)といった用途を推測できるものがある。4区では貯蔵穴とみられる土坑の数が突出している。

一括土器や土器片を出土したものがあり、帰属時期を特定または推測できている。 1 土は曽利 \mathbb{N} 式併行、6 ・ 22 ・ 46 土は曽利 \mathbb{N} 式併行、20 土は称名寺式併行と考えられ、4 ・ 7 ・ 8 ・ 10 ~ 12 ・ 23 ・ 28 ・ 32 ・ 40 土は曽利 \mathbb{N} 式 ~ \mathbb{N} \mathbb{N} で \mathbb{N} の \mathbb{N} で \mathbb{N} で \mathbb{N} の \mathbb{N} で \mathbb{N} で \mathbb{N} で \mathbb{N} の \mathbb{N} で \mathbb{N} の \mathbb{N} で \mathbb{N} の \mathbb{N} で \mathbb{N} の $\mathbb{$

(2) 縄文時代

①住居址

27号住居址 (第47図)

位 置: $K \cdot L - 177 \cdot 178$ グリッドに位置する。

重複関係:46土と重複し、本址を切ることが確認されている。

検 出 状態:遺構検出面はローム層である。台地の南側肩部に位置し、約1/2が失われている。

形態・規模:形態は円形を呈し、規模は直径5m前後と推測される。出入口部が特定できず、主軸方向

は不明である。

覆 土:褐色に近い暗褐色土の単一層である(A-A')。

壁 :立ち上がりは不明瞭で、壁の残存高は床上5㎝前後を測る。

周 溝:深さがあり明瞭である。周構内に小穴が連続している。

床 面:南側に緩傾斜する。残存部全面が硬い。

炉 址:地床炉である。火床は床面より若干低い。焼土は明瞭である。

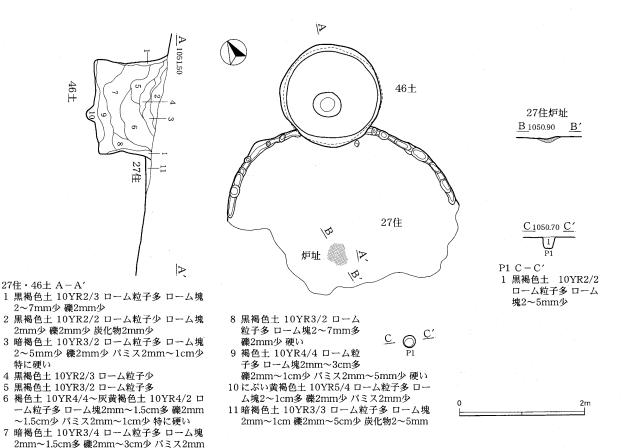
柱 穴:床面が残存しない部分から小穴が検出された。位置と規模からみて本址の柱穴であると考えられる(27-P1)。

付属施設:なし。

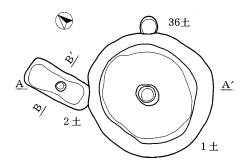
~1.5cm少 炭化物2~5mm少 硬い

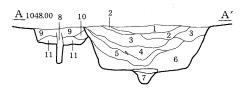
出土遺物:周溝から土器が1点出土している。

時期:出土した土器は称名寺式併行とみられるが、本址を切る46土は曽利V式併行と考えられる。 46土との切り合いを重視し、曽利V式併行以前と考えておく。

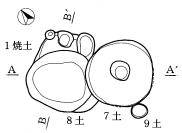


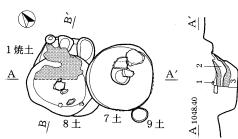
第47図 4区27号住居址、46号土坑(1/60)

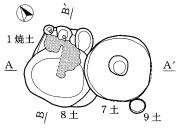


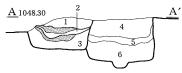


3・5層に一括土器









- 8 土・7 土・1 焼土 A A′ 1 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子少 ロー ム塊2~5mm少 礫2mm少 炭化物2mm 少 焼土塊2~5mm少 硬い
- 労廃工場と-5mm分便い黒褐色土10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多 礫2mm少 炭化物 2mm少 焼土塊2~5mm少 特に硬い3 黒褐色土10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 礫2mm~1cm少 株塊2mm~1cm少 株塊2mm~1cm少
- 焼土塊2~7mm少 特に硬い
- 4 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ロー ム塊2mm~2cm多 礫2~7mm少 パミス2mm~1cm少 特に硬い
- 5 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 ロー
- | 現2mm~1cm少硬い 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少ロー ム塊2mm~1.2cm少 礫2~5mm少 硬い



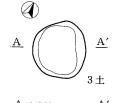
 $1 + \cdot 2 + A - A$

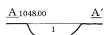
- 1 黒色土 10YR2/1 ローム粒子多 ローム塊 2mm~2cm多 礫2mm~1cm少 炭化物
- 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム 塊2mm~3cm多 礫2mm~1cm少 炭化物 2mm少 硬い
- 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 ローム 塊2mm~1cm少 礫2mm~30cm少 炭化 物2~5cm少 硬い
- 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム 塊2mm~1.2cm少 礫2mm~1cm少 炭化
- 物2~5cm少 特に硬い 5 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム 塊2mm~1cm少 礫2mm~2cm少 炭化物 2~5mm少硬い



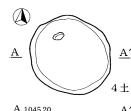
'nΙ

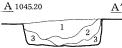
- 8 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少 礫2mm
- ~3cm少 硬い 9 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子少 ローム塊 2mm~1cm少 硬い 10 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 硬い
- 11 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒子多 ローム塊 2mm~1.5cm多 礫2mm~1.5cm少 硬い



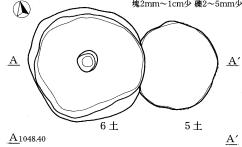


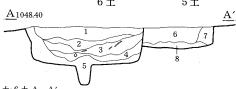
3 ± A - A′ 1 黒褐色± 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.2cm少 礫2mm ~1cm少 炭化物2mm~1cm少 硬





- 4 L A A 1 黒褐色土 10YR2/2(黒色土10YR2/1) ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 礫2mm 少 硬い
- 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多、ローム塊 2mm~2cm多 礫2mm少 炭化物2~5mm 少 硬い
- 3 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子少 ローム 塊2mm~1cm少 礫2~5mm少

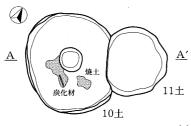




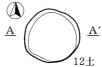
 $5 + \cdot 6 + A - A$

- 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ロー ム塊2~5mm少 礫2mm~1cm少 炭化
- 物2~5mm少 特に硬い 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ロー △塊2mm~2cm多 礫2mm~2cm少 パミス2mm少 硬い
- 3 黒色土 10YR2/1 ローム粒子少 ローム 塊2mm~1cm少 礫2mm~2cm少 炭化 物2mm~1cm多
- 物2mm~1cm多 4 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 硬い
- 5 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多 礫2~5mm少 硬い6 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 硬い
- 7 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多 礫2mm少
- 8 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多 礫2mm少 硬い

2m





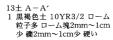




- 12土 A A′ 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム 粒子少 硬い
- 2 黒褐色土 10YR2/2 ローム
- 3 黒褐色十 10YR3/2 ローム









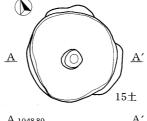


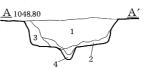
17 ± A - A

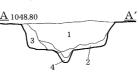
- | 黒褐色土 10YR2/2 ローム | 粒子少 ローム塊2~5mm | 少 礫2mm~1cm少 硬い
- 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム 粒子多 ローム塊2mm~ 2cm少 礫2~7mm少 特に 硬い



- 10±·11± A A′ 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2~5mm少 礫2~5mm少 炭化物 2~5mm少 硬い
- 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm多 礫2mm~1cm少
- 2 無梅巴エ 1UTR2/3 ローム粒ナタ ローム塊2mm~1cm多 様2mm~1cm多 焼土塊2mm少 特に硬い 3 黒褐色土 10YR3/2~暗褐色土10YR3/3 ローム粒子少 ローム塊2~7mm少 磯2mm少 硬い 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子タ ローム塊2mm~5cm多 礫2~5mm少 焼
- 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~5cm多 礫2~5mm少 焼土塊2mm~1cm少 硬い 5 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 礫2mm~1cm少 炭化物2~7mm多 焼土塊2mm~1cm少 特に硬い 6 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.5cm少 礫2mm~1cm 少 炭化物2mm少硬い 7 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.5cm多 礫2mm~1.5cm 少 硬い 7 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.5cm多 礫2mm~1.5cm 少 硬い か 硬い









 $(\!\! \mathbb{A}\!\!)$

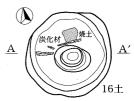
9 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子少

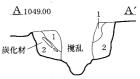
ーム塊2mm~1cm少 硬い

<u>A</u>′

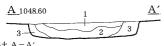
14土

- 15± A-A'
 1 黒褐色± 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 嚢2mm~2cm少 炭化物2mm~1cm少 焼±塊2~5mm少
- 2 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 ローム塊2~5mm 礫
- 2 無徳巴工 107 K2/2 ローム地子シローム塊2~5mm 検 2mm少 炭化物2mm~1cm多 特に硬い 3 黒褐色土 107 K3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 磯2mm~1cm少 炭化物2mm少 焼土魂2~5mm少 硬い 4 黒褐色土 107 K2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 磯2mm少 炭化物2mm少 硬い





- 16± A-A' 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm少 礫2mm~ 1cm少 炭化物2mm~1cm少 硬い
- 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多 礫2mm~ 1cm少 パミス2mm少 炭化物2mm ~5cm多(炭化材) 特に硬い



14+ A-A

<u>A</u>

- 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 炭化物2mm~2cm多硬い 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.5cm
- 2 無例色工 10 k8/2 ローム根子 9 ローム塊2mm~1.5cm 多礫2mm~2cm少 硬い 3 暗褐色土 10 k8/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm多 礫2~5mm少 硬い

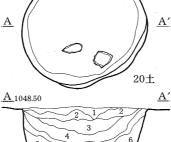


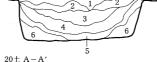


Α

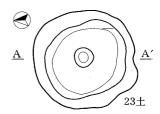
- 18± A-A' 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子少 ローム塊2~5mm少 礫2mm少
- 2 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm 少硬い

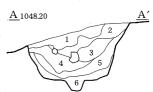
A





- 20土 A A'
 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 特に硬い
 2 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子少 ローム塊
 2mm~1cm少 礫2mm~1cm少 特に硬い
 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊
 2mm~1.5cm少 礫2mm~1cm少 特に硬い
 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム境
 2mm~2cm多 礫2mm~2cm少 特に硬い
 5 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊
 2mm~1cm少 礫2mm少 特に硬い
 6 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊
 2mm~2cm多 礫2mm少 特に硬い





- 23± A A′
 1 暗褐色± 10YR3/4 ローム粒子多 ローム塊2mm~3mm 多 線2mm~1cm少 パミス2mm~5cm多 特に硬い 黒褐色± 10YR3/2 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm少 線2mm~2cm少 パミス2mm~1cm少 炭化物2mm少 等に硬い パミス2mm~5cm多 炭化物2mm少 特に硬い 4 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm少 機2mm~1cm多 硬い 5 黒褐色± 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~2cm少 機2mm~1cm少 パミス2mm~1cm少 炭化物2mm~1cm多 硬い 5 黒褐色± 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~3cm 多 礫2mm~2cm少 パミス2mm~1cm少 炭化物2mm少 待に硬い 6 暗褐色± 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm少 6 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm

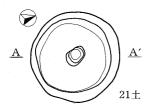
- 特に硬い 6 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm 多 礫2mm~1cm少 パミス2~5mm少 特に硬い

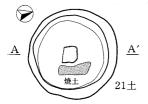


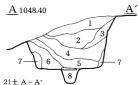


19+ A-A

- 191 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm 少 磯2mm~1cm少 2 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1cm
- 多 礫2mm~1cm少 パミス2mm~1cm少



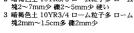


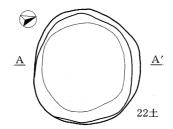


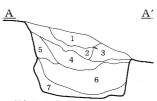




- 25± A-A'
 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子少 ローム 塊2~7mm少 礫2cm少 硬い 2 暗褐色± 10YR3/3 ローム粒子多 ローム





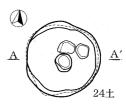


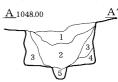
- 22± A-A' 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子少 礫2~5mm少 飲かい 2 暗褐色± 10YR3/2 ローム粒子少 礫2~5mm少
- 2 暗荷色上 101Rs/2 ローム粒子学 蝶2~5mm/9 パミス2mm~1cm少 3 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm ~1cm少 機2mm~1cm多 パミス2mm~3cm多 特に硬い 4 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm ~1cm少 礫2mm~1cm少 パミス2mm~1cm少 株に強い
- 特に硬い
- 特に硬い 5 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm ~1cm多 礫2mm少 6 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm ~3cm多 礫2mm~1.5cm多 バミス2mm~1cm 多 炭化物2~5mm少 特に硬い 7 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒子多 ローム塊2mm ~5cm多 礫2mm~1cm多 バミス2mm~1cm少 特に硬い

A

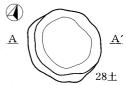
<u>A</u>'

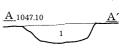
26土



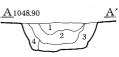


- 24± A A′ 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子少 ローム塊2~7mm 少 礫2mm~10cm少 バミス2mm~1cm少 炭化物
- 義型mm~10cm少 バミス2mm~1cm少 仮化物 2mm少
 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.5cm少 線2mm~1cm少 バミス2mm~2cm多 俊 化物2mm少 特に硬い
 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子タ ローム塊2mm~2cm多 楽型mm~1cm少 バミス2~5mm少 硬い
 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少 ローム塊2mm~1cm少 楽型mm~1cm少 赤に変い
 5 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子タ ローム塊2mm~1cm少 線2mm少 バミス2mm~1cm少 特に硬い

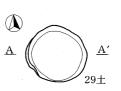


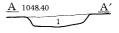


28土 A-A' 1 黒色土、10YR2/1〜黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 礫 2mm〜2cm少



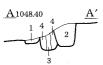
- 27± A-A'
 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 嚢2mm~1cm少 硬い 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.2cm少 榛2mm ~2cm少 炭化物2mm~1.5cm多
- 受い3 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.5cm 礫2mm~ 1.5cm少 特に硬い4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少
- ローム塊2~5mm少 礫2~5mm 少 炭化物2mm少





29± A - A′ 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム 粒子多 ローム塊2mm~2cm 多 礫2~5mm少 バミス2mm ~2cm多 炭化物2~5mm少





- 3 3 3 3 3 3 3 3 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒 子少 ローム塊2~5mm少 襲 2 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒 子少 ローム塊2~5mm少 能 2 加m~1cm少 3 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒 子少 ローム塊2mm少 硬い 柱痕? 4 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒 子多 ローム塊2mm~1.5cm

- 子多 ローム塊2mm~1.5cm 多 礫2mm少 硬い

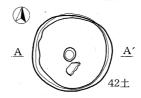


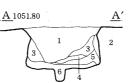
<u>A</u> 1048.80

26± A-A'
1 黒褐色± 10YR3/2 ローム 粒子多 ローム塊2mm~1cm 少 礫2mm~2cm少 炭化物2 ~5mm少



34土 A - A' 1 黒褐色土 10YR2/3 ローム 粒子少 柱痕? 2 黒褐色土 10YR2/2 ローム 粒子多 ローム塊2mm~ 1cm多 ္ののでは、



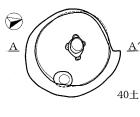


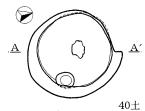
<u>A</u>

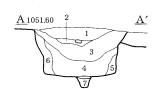
27土

- 42± A A′
 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~ 1cm少 礫2mm~2cm少 パミス2~7mm少 炭化物 2mm少 硬い
 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~ 1cm少 礫2mm少 硬い
 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~ 2cm多 磯2mm~1cm少 硬い
 4 黒色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊2~ 5mm少 特に硬い
 5 時褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~ 3cm多 磯2mm~1cm多 パミス2~5mm少 特に硬い
 6 時褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊2mm~ 1cm少 礫2mm~1cm少 特に硬い

2m







- 40± A-A' 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊 2mm~1cm少 礫2mm~1cm少 炭化物 2mm少 硬い
- 2mm少 硬い 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊 2mm~2cm多 礫2mm~10cm多 パミス 2~7mm多 炭化物2~5mm少 特に硬い 3 黒色土 10YR2/1 ローム粒子多 ローム塊 2mm~1cm少 礫2mm~1cm少 炭化物2~ 5mm少 特に硬い 4 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊
- 2mm~1.5cm多 礫2mm~1cm少 パミス 2~7mm少 炭化物2~5mm少 硬い
- 5 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子少 ローム塊 2〜5mm少 硬い 6 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子少 ローム塊 2mm~1cm多 硬い
- 7 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊 2~7mm多 礫2mm~1cm少 炭化物2~ 5mm少 硬い



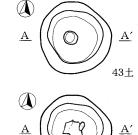


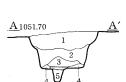
- 41土 A A'
 1 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子 多 ローム塊2~7mm多 礫2mm 少 炭化物2mm少 2 黒色土 10YR2/1 ローム粒子少 ローム塊2mm少 炭化物2mm少 3 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子 タ ローム塊2mm少 礫2mm少





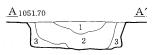
- 44± A A′3 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子少ローム塊2~7mm少 礫2mm~ 2cm少 炭化物2~5mm少 硬い 2 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子多
- 無格巴工 10YK2/2 ローム和子多 ローム塊2mm~1.2cm多 礫2mm ~1cm少 炭化物2mm少 硬い
 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子少 ローム塊2mm~1.5cm少 礫2~ 5mm少 特に硬い





43土

<u>A</u>′ <u>A</u> 45土



- 45± A-A' 1 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子少 ローム塊2~7mm少 礫2mm~2cm少 硬い 2 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子多 ローム塊2mm~1.2cm多 礫2mm~2cm少
- パミス2~5mm少 硬い 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ロー ム塊2mm~2cm多 礫2mm~1cm少 炭化物2~5mm少 硬い

- 43± A-A' 4 4 1 黒褐色± 10YR2/2 ローム粒子少 ローム塊
- 2mm~1cm少 炭化物2mm少 焼土塊2mm少 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊
- 2 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊 2mm~1.2cm少 礫2~5mm少 炭化物2mm 少 焼土塊2mm少 3 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子多 ローム塊 2mm~1.5cm多 礫2mm少 炭化物2mm~ 1cm少 焼土塊2~5mm少 硬い 4 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子多 ローム塊 2~5mm少 礫2mm少 炭化物2mm少 焼土塊
- 2 Smm y 株式mm y 仮心が smm y が上端 2mm少 特に硬い 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子多 ローム塊 1.5cm多 礫2~5mm少 炭化物2mm少 焼土 塊2~5mm少 硬い

2m

4 区土坑(4) (1/60)

表 1 土坑計測表(1)

衣1 コ	C.仉.計例衣 ⊤	.(1)			Γ			
地区	遺構	/- m	□径	(cm)	底径	(cm)	深さ	
地点	番号	位置	1				(cm)	備考
		-			長軸			
1A⊠	1土	$\nu - (-50)$	137		112			
	2土	$\nu - (-50)$	141	134	120			
1B区	3土	ルー(-46)	116	108	97	90		
	4土	ルー(-46)	192	175	137	136		
	5土	リー(42)	23	22	12	10		
	6土	17-(42)	28	23	18			
1C区	7土	7-(-8)	99		91	77		
2区	1土	1−114	173	144	160	136	1	
	2土	オ・カー145	73	71	63	61	11	
	3土	1-139	82	76	79	74	8	
	4土	‡ -143	88	78	81	70		
	5土	1-137 ⋅ 138	118	65	87	40		
	6土	* -140	102	96	92		16	The state of the s
	7土	<i>⊅</i> −139	120		110		36	
	8土	<i>ħ</i> −141	115	110	103	88		
	9土	ウー139・140	133		108		37	
<u> </u>	10土	$X \cdot Y - 135 \cdot 136$	102	81	97	77	36	
	11土	Y-134·135	89	78	76			
	12土	Z·7-131	119	110	105	101	27	
	13土	7-130	101	85	75	60		
	14土	1-131	72	67	52	47		1方柱の柱穴
	15土	ウー130	84	77	73			The state of the s
	16土	カ・キー132	119	112	104	100		
	17土	₹-131	105	97	90	80	18	
	18土	<i>ħ</i> − 130	154	83	146	66		
	19土	<i>ħ</i> −130·131	79	76	51	50		1方柱の柱穴
	20土	<i>1</i> − 130	80	79	57	45		1方柱の柱穴
	21土	I-131	41	37	33	29		
	22土	$h-131\cdot 132$	70	53	45	33		1方柱の柱穴
	23土	7-132	70	57	43	43		1方柱の柱穴
-	24土	7-131	67	60	38	37		1方柱の柱穴
	25土	<i>‡.</i> 7−131	46	40	35	27	20	
	26士	7-130	85	56	74	50	18	
	27生	キ・ケー129	102	93	94	73	18	
	28土	$ \frac{\pi - 129}{\pi - 127 \cdot 128} $	39	36	28	26		2方柱の柱穴
	30土	カー127・128 ウー128	158 111	113	90	42	66	
	31土	1-130	52	110	88 34	88	26	1方柱の柱穴
	32土	7-129	26	51 23	19	31 18		1万住の住人
	33土	7-129 7-129	41	36	29	28	23	2方柱の柱穴
	34土	J-128·129	61	57	29	17	25	2万性の性人
	35土	#-129	101	87	87	76		
	36土	J-128	39	35	32	23	25	
	37土	#-128	76	52	57	23	$\frac{25}{16}$	
	38土	#-128	41	38	29	24	18	
	39土	J-129	79	37	55	30	18	
	40土	7-128	43	35	34	28		2方柱の柱穴
	41土	キ・ケー128	53	40	45	31		2万柱の柱穴 2方柱の柱穴
-	42土	<i>1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</i>	38	35	27	24	20	4/1/11×/11/
	43土	Z-131	82	54	73	35	4	
	44土	Z-130	39	37	32	29	15	
	45土	7-126	134	127	106	90	49	
	45土	ウー124·125	124	141	67	60	52	
	47土	□ 124·125 □ 127	54	41	33	23	24	
	48土	□-127 □-126	95	94	77	66	31	The state of the s
	49土	r-126	49	48	41	38	18	
	50土	7-120 7-127	50	38	33	24	19	Na A
	50上	$\frac{9-127}{9-125}$	55	53	36	35	20	De-
	52土	#-124	126	125	98	95	51	
	53土	7-124	120	125	98	90		ケ米
-	54土		- 1					欠番 欠番
	55土				+			
	56土							欠番
	56土	7. 105	120	100	104	110		欠番
	O/ 土	<u> </u>	130	126	124	110	25	

表 2 土坑計測表(2)

表2	工机計測表	(4)						
	58土	* -130	26	22	23	17	8	2方柱の柱穴
					26			
	59土	+-130	35	32		26		2方柱の柱穴
	60土	シー126	32	24	18	12	22	
	61土	サ −124	41	36	32	28	22	
	62士.	サ −126	41	33	-28	23	14	
	63土	ŷ−125	38	26	30	18	17	WATER CONTRACTOR OF THE CONTRA
	64土	クー124	42	41	31	23	26	
	65土	n-119·120	156	145	116	116	55	
	66土	オ・カー119	191	146	152	97	67	- Marie Mari
	67土	ı−121	88	84	66	66	39	AND
	68土	√−119						欠番、2区1焼土に改名
	69土	Y-113	125	124	80	73	46	
	70土	*-115	99	75	85	65		
								All Services
	71土	n−119	154	145	96	93		
	72土	₹-112	147	130	133	113	16	
	73土	#-127	36	36	31	27	10	
		.) 121	- 50		- 01		10	ケモ
	74土							欠番
	75土	Z-131	35	30	24	21	20	
	76土	7-130	31	22	17	10	23	
	77土	7-130	20	17	14	11	14	A BOOK AND
							52	
	78土	⊥ −117	108	104	66	62		
	79土	≯ −117	145	129	97	91	53	
	80土	ケー116・117	205	146	110	72	96	
	81土	ク・ケー115	213	188	120	80	95	
-								
	82土	シー118	150	120	87	42	68	
	83土	ウー124	127	117			22	
	84土							欠番
	85土	7 / 105	00	72	70	64		深度基準:6住床面
		ア・イー125	- 88					休及荃毕,0住休田
	86土	 ‡−115	55	49	46	30	23	48000
	87土	ı−114	93	52	88	46	13	
	88土.							欠番
		¥ 110	1.00	107	104	co		Д
	89土	* -110	168	127	104	68	76	
	90土	₹-108	178	162	164	152	18	
	91土	ተ-107	150	143	143	129	10	
	92土	<i>⊅</i> 109	130	92	90	63	55	
	93土	7—109	228	178	121	63	83	Market and the second s
	94土	ク ー 107	227	190	132	80	96	
	95土	‡ —112	203	70	163	30	41	
	96土	#-128	43	41	31	29	13	The state of the s
	97土	Z-116	84	74	61	35	29	ALL THE STATE OF T
	98土	ク―105	200	160	127	77	93	
	99土	ク―114	90	88	71	71	47	
	100土	⊥ —139·140	101	100		84	20	
-			24	22	18			12.1
	101土	<i>シ</i> ─127				14		
	102土	# 129·130	40	36	29	28		
	103土	₺—121	123	75	80	33	53	
	104土	Y-106	48	47	38	28		
							10	
	105土	Y-105	41	40	34	31		
	106土	Y-105	37	37	29	27	10	
1	107土	X-105	50	45	35	32	35	
	108土	X-105	45	40	33	30		
	109土	Y-106	32	27	25	23		
	110土	√—119	49	38	25	21	34	
	111土							欠番
	112土	ク―105					26	
			- 00		F0			
	113土	キ・ク―104・105	90	88	52	45		
	114土	ᡮ─104	121	68	101	58		
	115土	 √—117	88	71	57	53	30	
	116土	7—113	70	64	61	50		
05								
3区	1土	E-113	54	47	44	42	27	
	2土	D · E—111	60	58	45	38	28	
	3土	I—115	23	23	16	15		
			35	30	20	19		
	4土	J—115						
	5土.	H-113	30	29	23	21	27	
	6土	н—113	40	37	28	27	43	
	7土	I—113	51	45		32		
						66		3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
	8土	J—114	76	75	00	00	/1	U//エツ江八、休久坐午1005.00III・0/ 上沢山 レベル

表 3 土坑計測表(3)

					[1		
	9土	J · K—113	25	25	17	16	6	
	10土	J·K—113	35	35	25	24	48	
	11土	J —113	32	31	20	20	31	
	12土	I · J—113	63	61	52	46	77	3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
	13土	I—113	34	29	23	19	25	
	14土	I—113	38	35	26	26	24	
	15土	I—112	37	35	27	25	13	
-								
	16土	G-112	37	31	22	22	21	19.00
	17土	G·H—112	33	32	25	21	30	
	18土	H-112	27	26	18	17	19	
	19土	I—112	33	28	21	19	23	
	20土	I—112	40	38	28	23	48	
	21土	I112	94	92	73	72		3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
	22土	J-112	30	28	22	20	12	
	23土	J—112	19	.17	14	13	13	
	24土	J—112	25	24	17	16	25	
	25土	J—112	73	70	55	. 52	21	
	26土	I—112	28	20	20	15	10	
	27土	I—111	28	27	22	21	12	
	28土	I—111	39	35	29	25	18	
		H—111	35	29	22	20	23	
	29土							
	30土	I-111	40	36	23	21	34	
	31土	I—111	30	28	19	19	12	
	32土	I111	48	41	32	27	16	
	33土	J—111	45	43	30	28	27	·
	34土	J—111	28	24	29	17	7	
	35土	J-111	26	24	17	17	15	
	+	J · K—111	57	52			*****	
	36土				50	46	79	3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
	37土	K-111·112	40	35	33	24		
	38土	K ─112	29	27	18	17	11	
	39土	K ─112	38	35	25	25	30	
	40土	K —112	38	38	32	26	29	
	41土	L—113	33	32	23	23	26	
	42土	L · M—113	98	96	78	76		3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
	+		_					
	43土	N—114	55	51	39	39	10	
	44土	N114	40	38	27	24	12	
	45土	P-115	40	39	27	24	15	
	46土	P —114	30	28	. 22	19	11	
	47土	P-114	37	34	26	23	18	
	48土.	P-113	31	29	22	20	6	
-	49±		29				20	
		M-112		28	20	20		
	50土	O—111	. 39	37	27	25	31	
	51土	N—110	26	24	18	16	22	
	52土	N-110	34	26	26	18	17	
	53土	Q-114	34	33	23	20	11	
	54土.	M-110	26	24	16	14	22	
	55土	M-111	35	34	25	23	19	
	56土	M-111	30	26	22	19	8	
	57土	M─112	31	29	22	18	15	
	58土	L—112	64	60	43	42	71	3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
	59土	L-112	25	22	13	13	10	
	60土	I—110					10	
	61土	K-112	39	37	28	27	28	
	62.±.	K-112	35	33	28	24	19	
	63土	K-113	61	55	52	47		3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
	64土	L-112	39	35	25	19	27	
	65土	L—112	29	27	20	18	6	
	66土	L-111	27	26	19	18	19	
	67土	L-111	109	102	101	95		3方柱の柱穴、深度基準1039.68m:67土検出レベル
			43	43	29	28	43	
	68土	K-111						
	69土	K—111	29	24	22	18	17	
	70土	K—111	38	34	28	25	28	
	71土	K—111	35	33	24	23	15	
	'				21	18	23	
		K-111	341	291	2,11		/	
	72土	K—111 K—110	34	29				
	72土 73土	K —110	22	21	14	13	11	
	72土							

表 4 土坑計測表(4)

衣4 」	しりはし例表	(1)						
	76土	J-110	60	50	41	39	52	
	77土	I—111	48	45	32	29	21	
	78土	I—110	48	40	40	32	37	
	79土	I—110	25	24	22	20	15	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	80土	I—110	44	36	30	24	22	
	81土	I—110	37	32	23	19	38	
	82土	I—110	52	50	43	38	44	· Management of the state of th
1								The state of the s
	83土	H-110	44	42	25	24	52	
	84土	н—110	40	35	25	23	46	
		H—110	46	42	35	33	39	
	85土							
	86土	G·H—110	60	52	44	38	29	
	87土	G-110	30	28	21	20	14	
	88土	G-110	38	30	33	22	15	
	+							
	89土	G-110	27	24	16	15	24	
	90土	F · G—111	103	98	. 87	84	52	
	+							
	91土	G-110	77	68	62	51	52	
	92土	G109	67	60	58	47	36	
	93土	н—110	36	32	25	21	29	·
					_			
	94土	H-109	34	32	25	23	37	AND THE RESIDENCE OF THE PROPERTY OF THE PROPE
	95土	G-109	28	24	18	17	17	
	96士.	G-109	23	22	17	17	25	
-								
	97土	F-109	35	31	24	22	37	
	98土	F-110	50	48	39	- 38	68	
,	99土	G-109	62	59	47	38	41	CONTRACTOR AND THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR
	100土	G-109	67	46	55	40	40	
	101土	G-109	48	43	39	36	42	· · ·
			66	62	57	54		4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
	102土	H —109						4万代の代代、深及基準1039.39m.130工快币レベル
	103土	H-109	79	67	68	59	56	·
	104土	I—109	24	22	16	19	13	
	105土	I109	33	30	20	18	35	
	106土	J—109	35	33	23	22	31	
	107土	K109	46	40	35	30	25	
-								
	108土	L-109	42	38	32	27	27	
	109土	L-109	50	45	39	36	20	
	110土	L-109	53	51	38	38	28	MAN A STATE OF THE
	111土	L-106	57	47	21	21	40	
	112土	M-107	46	43	37	31	19	
	113土	K-108	44	41	32	29	22	
	114土	J —109	29	26	19	18	14	
	115土	J108	33	29	24	21	19	
	116土	J—108	62	61	48	47	67	4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
								4万年/八、休及至年1035.33間・130工(大田レ・ハル
	117土	I—108	34	31	18	16	27	
	118土	I—108	29	27	20	18	16	
1	119土	н · I—108	83	70	58	58	56	
L ·	120土	H-108	33	30	24	22	28	
	121土	н—108	83	80	75	68	79	
						50		4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
	122土	H—108	73	71	53			4.7/1エッ/注八、休及至毕1037.39M,130上恢日レベル
	123土	н—107	39	33	27	23	24	
	124土	H-107	40	34	27	23	17	
			10		- 1	20	9	
	125土	H-107		33				
	126土	I-107	73	68	62	56	66	4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
	127土	I-107	40	35	28	25	11	
						29		
	128土	I—107	43	39	32		20	
	129土	J—108	35	34	25	25	14	
	130土	K-107	62	57	61	57	56	4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
	131土	K-107	27	26	20	19	28	
	132土	K ─106	70	66	52	50	40	4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
	133土	J-107	36	32	27	- 23	17	
-								
	134土	I—106	45	45	36	34	38	
	135土	J—106	90	75	77	64	59	4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
	136土	I-109	68	60	42	42		4方柱の柱穴、深度基準1039.39m:130土検出レベル
								1777上-77上/八 177人至于1000,000Ⅱ,100上7大川 1/ 1//
	137土	F108	42	37	32	27	27.	
	138土	F-108	25	24	17	14	24	
	139土	F-108	89	85	71	59	72	
	140土	E-108	65	56	42	41	50	
	141土	E-107·108	36	31	27	22	23	
	142土	E-107	61	53	43	41	40	
	144_L.	E 107	0.1	00	43	41	40	A CONTRACTOR OF THE PROPERTY O

表 5 土坑計測表(5)

表 5	上坑計測表	(5)						
	143土	F-107	90	87	73	70	120	
	144土	F · G-107	119	105	77	65	99	
-	145土	E-105	28	27	20	19	25	
	146土	G-107	34	33	27	23	20	
	147土	I—108	34	30	21	19	26	
	148土	1 100	34		21	13	20	欠番 新:22—P24
	149土							
	150土							欠番 新:22—P 20
	151土							欠番 新:22—P21
	152土							欠番 新:22—P23
	153土							欠番 新:22—P18
	154土							欠番 新:22—P19
	155土							欠番 新:22-P17
	156土							欠番 新:22—P16
	157土							欠番 新:22—P13
	158土							欠番 新:22-P15
	159土							欠番 新:22-P9
	160土							欠番 新:22-P12
	161土							欠番 新:22—P8
-	162土						-	欠番 新:22—P 25
	163土							欠番 新:22—P7
	164土							大番 新:22—P2
·	165土							大街 初・22─F2 欠番 新:22─P1
	+							
	166土							
	167土							欠番 新:22—P6
	168土							欠番 新:22—P10
	169土							欠番 新:22—P5
	170土	J—102	66	63	46	44	81	
	171土							欠番 新:22—P11
	172土							欠番 新:22—P14
	173土	I—108	37		27		37	
	174土	J98	49	42	33	31	78	
	175土							欠番 新:22-P4
	176土	A-90	114	100	85	70	63	
	177土	H·I-108·109	299	195	264	166	48	112 1 200
	178土	H-103	200	. 100		100	47	
	179土	M-96	20	18	21	13	76	
	180土		88	87	87	83	58	
		M-97						THE WAY TO BE AN ARRANGED TO THE WAY THE TOTAL PROPERTY OF THE PARTY O
	181土	M-98	36	32	25	24	100	·
	182土	N-100	47	46	48	41	91	
	183土	N-104·105	117	117	127	125	26	
	184土	K-100	32	23	21	15	23	
	185土	L99	52		35	33	71	
	186土	K · L—98	61	50	37	34	64	
	187土	н—89	29	28	19	19	25	
	188土	н89	34	32	26	24	8	
	189土	I98	18	15	16	13	24	
	190土	J—103	66	62	51	49	60	
	191土	J—102	34	30	23	20	48	
	192土	F-111	65	57	57	50	73	
	193土	D · E—106	85		62	50	74	·
	194土	D · E—106	147	117	105	80	96	
-	195土	J—101	45	111	32	00	44	
			_	22	30	0.5	28	
	196土	F—113	50			25		
	197土	I97	67	56	53	42	26	
	198土	s—113	98	85	57	48	19	
	199土	G-106	70		50			旧:1方柱P1 深度基準:1039.15m:検出レベル
	200土	F-107	93		68			旧:1方柱 P 2 深度基準:1039.16m:検出レベル
	201土	E-107	60	58	54	52		旧:1方柱P3 深度基準:1039.17m:検出レベル
	202土	E-105	70	67	50	48	84	旧:1方柱P4 深度基準:1039.18m:検出レベル
	203土	F-105	90	86	80	59		旧:1方柱P5 深度基準:1039.19m:検出レベル
	204土	E-106	121	113	96	89		旧:1方柱P6 深度基準:1039.20m:検出レベル
	205土	J—103		5	.,			伏甕
-	206土	H-89·90	42	32	23	21	25	
-	207土	K-104	41	37	30	28		旧:11—P25
	208土	L-101	107	100	83	75	29	I
	208上	L-101 L-102·103	98	80	83	65	42	
	1 209⊥	L 107,103	98	00	83	00	42	LANGUA .

表 6 土坑計測表(6)

20 1	7-2-01 D 13-C							- 1 th British Care - Anna Anna - Anna Anna - Anna
	210土	L-95·96	64	62	48	46		旧:3c—P59
	211土	M-102	34	32	25	25	54	旧:2—Pけ
	212土	J—105	57	53	48	46		旧:11—P27
	213土	J105	36	33	23	22		日:11—P 26
	214土	M-102	40	- 00	35		15	IH I II I I I I I I I I I I I I I I I I
	215土	M-103	37	34	27	25		IH: 2—Pr
				34				
	216土	M-102	62		40	40		旧:2—Pt
	217土	L-102	46		35			旧:2—Ps
	218土	L—102	61	56	52	50	30	
	219土	K —99	40	38	31	31	14	
4A区	1土	イ・ウ―148	205	197	146	134	83	
	2土	ウ―148	112	48	93	28	30	
	3土	エ・オ―147	91	86	78	61	27	
	4土	<i>⊅</i> —148	131	125	119	107	43	
	5土	1√149 • 150	140	136	137	132	37	
		<i>1</i> 149 130 <i>1</i> 149 149	185		160	140	64	
	6土			131				
	7土	ゥ—149	112	107	103	101	64	
	8土	ゥ・エ―149	111	97	83	63	46	
	9土	ゥ―149	26	23	24	18	19	
	10土	オ─151	169	149	150	140	33	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	11土	オ ─150·152	112	105	97	94	32	
	12土	ゥ―151	88	87	80	76	25	
	13土	ı—152	79	76	70	68	11	
	14土	ウ―154	183	166	168	154	29	
		1—156	155	153	138	124	46	
	15土							. Annual control of the control of t
	16土	ı—158	137	137	108	107	61	
	17土	ウ―158	94	87	84	84	22	1.10
	18土	1—158	83	74	78	70	7	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	19土	z ·7—159	87	82	78	68	16	
	20土	7-154 • 155	200	188	175	160	76	·
	21土	7—153	145	143	108	105	86	
	22土	7-151 · 152	185	170	142	132	120	, and the same of
	23土	ア・イ―150	164	160	144	97	93	
	24土	1-148 · 149	122	118	115	110	70	CARTERIO AT
	25土	‡—150	156	129	147	111	25	11/21/
	26土	ᡮ─155	93	90	85	73	26	
	27土	オ・カ―156	130	117	100	86	48	
	28土	シ─157	116	116	82	79	47	
	29土	Y—163	99	90	80	79	22	
	30土	ı—149	36	27	20	18	14	
	31土	ı—149	34	33	30	24	41	
	32土	1-149	33	31	28	23	40	
	33土	ı—149	21	21	18	16	10	
	34土	ı—149	24	23	19	16	33	
							- 55	
	35土	ウー149	26	21	19	16	0.1	
	36土	ゥ148	30	29	25	25	21	
	37土	ゥ149	23	21	18	15		·
	38土	オ─149	27	27	22	19	13	
	39土	カ 147	34	28	25	18	21	
4B⊠	40土	T-177·178	152	141	118	115	81	
	41土	s-178	45	38	36	30	23	
	42土	R-178·179	130	129	122	120	67	
	43土	Q · R—177	115	114	73	72	61	
-					88	80	31	
	44土	Q-178	93	83				
	45土 46土	P · Q—179	158	143	148	124	44	
		L-177·178	167	160	157	153	121	

地区	遺構	/ -	口径	(cm)	底径	(cm)	深さ	Ht. +/
地点	番号	位置		短軸			(cm)	備考
1住	P1	L93	130	112	92		27	深度基準1041.57m:床面
	P 2	J · K—93·94	91	86	57	52		
	P3	J·K—94	44	35	19			
	P 4	K94	52	51	43	37		
	P5	K-95	39	36	20	16		
	P 6 P 7	L-94 L-94	35 84	30 50	15 59			
	P8	L—94	68	60	32	31	20	
	P 9	K-94	130	98	91	65		
	P 10	K —94	73	68	54	35		
2住	P1	L-102	49	40	30	26		旧:2―Pg、深度基準1041.70m:2―P10検出レベル
	P 2	L-102	61		27			Ⅱ:2—Pi
	P3	L-101	42	39	21			旧:2—Pe
	P 4 P 5	K—101·102 L—101	48 41	46 32	19 24	19 18		旧: 2—Рf 旧: 2—Рь
	P 6	L-100	20	18	14			П : 2—Ра
	P 7	L-100	35	28	22	18		日:2一P18
	P8	L-100	20	18	12	11	65	旧:2一Pく
	P 9	M-100	35	31	18	18	85	旧:2—P1
	P 10	M-101	24	21	13			IB: 2—P7
	P 11	M-101	27	23	12			旧:2—P12
	P 12 P 13	M—101 M—102	22 33	21	12 25	12		旧:2Pさ 旧:2P13
	P 14	M—102 M—102	42		30			
	P 15	L-102	45	43	32	30		П. 2— Р п П. 2— Р m
	P 16	L-102	30	24	28	22		旧:2—Pつ
2・17・26住	P1	M —102	28	25	24			旧:2-P9、深度基準1041.70m:2-P10検出レベル
	P 2	M 102	20	17	9		42	旧:2-P11・Pた
	P 3	M ─102	21	20	11	8		旧:2—P11
3住	P1	I—95	51	46	35			旧:3c-P32、深度基準1041.18m:出入口部の敷石レベル
	P 2 P 3	I—94 I—93·94	73 68	54 61	39 42	34 41		旧:3c-P 50 旧:3c-P 40
	<u>гэ</u> Р4	J · K—93	64	61	31	26		П : 3—РА
	P 5	K-94	48	44	25	24		III : 3—РВ
	P6	K-95	62	54	30			旧:3—PC
	P7	J95	58	57	- 55	49		旧:3c−P44
10住	P1	G-106	75	73	63			旧:10—P1A、深度基準1039.38m:炉址南の硬化面レベル
	P 2	G-106	73	68	51	49		旧:10—P2
	P3	G-105	43	40	33	30		Ⅱ:10—P4
	P 4 P 5	I—105 I—106	62 62	58 53	45 30	44 28		日: 10—P8 日: 10—P10
	P 6	I—100	52	50	33	31		IH: 10—P 12
	P 7	H—107	62	60	48	43		III: 10—P14
	P 8	F-106	60	52	38	38	110	日: 10—P17
	P 9	F-106	67	65	55	53		I∃: 10—P18
	P 10	G-105	25	24	17	17		III: 10—P3
	P11	H-105	28	25	18	17		日:10—P5
	P 12	н—105 н—105	29 30	27	21	20		旧:10—P6 旧:10—P7
	P 13 P 14	H—105 I—105	30	30	21 23	20 21		日:10—P7 日:10—P9
	P 15	I—105	22	20	14	14		旧:10―F9 旧:10―P11
	P 16	H-107	30	28	20	20		III: 10—P 13
	P 17	H-107	24	24	15	13		IH: 10—P15
	P 18	G—107	32	31	22	22		旧:10—P16
100	P 19	G-106	37	32	28	28		日:10—P1B
12住	P1	I—95	104	93	87	75		旧:12-PI、深度基準1041.48m:12-P5検出レベル
	P 2	I—94 I—93	105 117	79	98	73		旧:12—PH
	P 3 P 4	J—93 J—92	117	111	95 65	87 64		旧:12—PF 旧:12—PD
	P 5	K · L—92	130	109	70	69		III : 12—Р В III : 12—Р А
	P 6	L-93	143	120	93	92		旧:12—PB
	P 7	L—95	127	121	62	60		旧:12—P C
	P8	K-96	129	112	42	37	136	旧:12—PE
	P 9	J—96	147	123	77	71	176	旧:12—PG

表8	3 凶仕店址	ビット計測表	(4)					
	P 10	I-94					,	旧:3c-P55
-	P 11	I-93	28	26	18	16	74	
	P 12	I-92	35	30	20	15	78	
	P 13	J-92	39	33	22	21	67	
	P 14	K-92	41	36	20	18	53	and the second s
	P 15	K-92	38	37	19	17	56	3
		L-92	40	35	26	18	55	
	P 16					16		
	P 17	L-93	36	31	17		49	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	P 18	L-93	42	38	25	22	55	
	P 19	M-94	40	38	16	15	75	
	P 20	M-94	47	45	20	20	78	
	P 21	M - 94	45	40	27	20	68	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	P 22	L-95	27	26	15	14	53	
	P 23	L-95	22	20	14	13	75	
	P 24	L-96	27	20	10	9	79	
	P 25	K-96	30	16	18	12	95	
	P 26	I-95	28		18		123	I⊞: 3c-36
	P 27 P	I-95	77		57		128	
	P 28	K-96·97	138	124	94	93	101	
	P 29	H·I-92	162	147	160	102	75	
	P 30	M-95	36	30	31	23	130	
			43	42	27	25	82	
19#	P 31	L-92 I-95	104	93	87	75		旧:12-PI、深度基準1040.94m:13-P6南の敷石レベル
13住	P1							
	P 2	I-94	105	79	98	73		旧:12-PH
	P3	I-93	97	82	64	58		旧:13-P14
	P 4	J-93	102	89	48	47		旧:13-P9
	P 5	K-93	73	67	50	44	103	
	P6	K - 94	77	68	43	41	92	77-
	P7	K-95	103	93	43	37	130	
	P8	J·K-96	92	70	79	65	184	旧:13-PC
	P9	I-96	102	98	76	71	211	旧:13-P11
	P 10	J-93	42	39	23	22	26	旧:13-P12
	P11	K-93	33	30	19	17	2	旧:13-P1
	P 12	K-93	31	28	15	13		旧:13— P 2
	P 13	K-94	29	28	13	13		旧:13-P3
	P 14	K-94	40		25	10		III: 13 – P4
	P 15	K-94	30	28	16	14		旧:13-P10
-	P 16	L-94	33	29	22	19		旧:3c - P 23
								日:13-P8
	P 17	K-94	24	21	13	11		П : 13 − Р 8 П : 3c − Р 52
	P 18	K ⋅ L − 95	30	28	19	18		
	P 19	K-95	25		21			旧:3c-P51
	P 20	K-95	31	25	16	14		旧:3c-P49
	P 21	K-96	32	29	23	19	. 73	旧:3c-P33
	P 22	I-95	77		57		74	1.00
14住	P1	H-95	93	58	58	39	144	旧:14-P7、深度基準1040.80m:14-P19検出レベル
	P 2	H-95	82	61	56	40		旧:14— P 6
	P3	H-94	95	76	61	48	156	旧:14—P5
	P 4	J-93	73	56	35	31	126	旧:3c-P35
	P 5	J · K - 94	75	68	47	40		旧:14-P1
	P 6	J·k-96	86		83			I⊟: 14 − P4
	P7	I-96	73	66	43	38		IB: 14-P8
	P8	H-95	30	38	16	16		旧:16住内の支柱穴2
	P9	H-95	51	30	39	10		旧:15住東側 P
				25		22		
-	P 10	H-94	36	35	24	23		旧:15·16住内支柱穴3
	P11	H-93	31	21	21	18		旧:15·16住内支柱穴1
-	P 12	J-94	45	38	17	15		H : 14 – P 2
	P 13	K-95	32		18			旧:14—P3
	P 14	H-96	30	30	20	19		旧:16住内支柱穴3
	P 15	J-93	23	20	15	15		旧:3c-P63
	P 16	J-93	26	24	17	16		旧:3c-P64
	P 17	K-94	29	23	22	17	11	旧:3c-P62
	P 18	K-95	29	26	21	19		旧:3c-P61
	P 19	K-95	25	23	18	16		旧:3c-P60
15住	P1	F · G – 92	108	104	68	58		旧:南断面 P 1、深度基準1040.33m:15 – P 2東脇敷石レベル
10 11.	P 2	H-91	81	78	53	50		旧:15-P1
	P 3	H · I – 92	87	83	52	41		III: 15 - P2
	P4	H·I-93·94	78	70	46	46		III: 15 – F 2
			. /AI	701	40	40	140	TI OI OI OI

表 9 3 区住居址ピット計測表(3)

	3 区往后址							
	P 5	G-94	62	50	34	34	155	旧:15—P4
	P6	I-92	25	21	15	14	56	旧:15住支柱穴
	P7	H-91		32			22	
	P8	H-91	33	28	15	14	38	旧:15住支柱穴1
	P 9	H-91	31		12		12	
	P 10	H-92	31	. 28	26	20	37	旧:15住支柱穴2
	P11	I-92	38	38	31	30		旧:15住支柱穴3
	P 12	G-91	33	31	25	23		旧:15住支柱穴
16住	P1	H-93	85	76	43	41		旧:16-P3、深度基準1040.03m:16-P2東脇敷石レベル
	P 2	I-94	60	47	37	32		B:16-P2
	P3	I-95·96	78	64	34	28		H: 16-P1
	P4	H-97	46	39	23	22		旧:南断面P3
	P 5	G-93	25	25	16	26		旧:南断面P4
	P6	H-94	28	27	18	18		旧:15:16住内の支柱穴2
	P7	I-95·96	26		12	10		旧:16住支柱穴1
	P8	I-96	31	29	23	22		旧:16住支柱穴 Pa
17住	P1	L-102	50	46	22	20		
177±								旧:2-Pv、深度基準1041.70m:2-P10検出レベル
	P2	L-102	37	34	27	24		旧:2-Pu
	P3	L-102	53	43	23	23		IE: 2-Ph
<u> </u>	P4	L-101	51	40	22	20		III: 2 – P17
	P5	L-101	24	20	13	12		IE: 2-P15
	P 6	L·M-101	38	36	20	18		旧:2-P こ
	P7	M-101	36	28	25	25		旧:2-Pそ
	P 8	M-101	30	25	15	14		旧:2-P8・Pち
	P 9	M-101	31		22			旧:2-Pせ
	P 10	M-101	32	29	15	14	84	旧:2−P4
	P 11	M - 101	33	28	22	20	109	
	P 12	M-101	20	17	13	12	65	旧:2-Pす
	P 13	M-102	47	39	39	35		旧:2-P10
	P 14	M-102	19	18	12	12	41	旧:2-Pき
	P 15	M-102	67	54	46	42	90	
	P 16	M-102	32	30	15	15		旧:2-Po
	P 17	M-103	28	23	18	15		IB: 2 − P ≿
	P 18	$M - 102 \cdot 103$	48	38	32	27		III: 2 - P P
	P 19	M-103	22	21	14	13		旧:2 - P お
	P 20	L-103	36	28	21	19		旧:2 - P z
	P 21	L-103 L-103	32	26	25	19		旧:2- F z 旧:2- P か
	P 22	4	72	55	53			
	-	L-103	43	38		35		旧:2-Px
104	P 23	L-103			31	24		旧:2-Pw
18住	P1	G-92	54	44	31	28		旧:18-P2、深度基準1040.90m:18-P5検出レベル
	P2	F · G – 92	108	104	68	58	193	旧:南断面 P 1
	P3		20					
	P 4	G-91	62	57	48	47	136	
		H-90·91	81	70	35	47 34	127	旧:18-P1
	P 5	H-90·91 H·I-91	81 93		35 41	47	127 141	旧:18-P1 旧:15住内PA
	P 5 P 6	H-90·91 H·I-91 H-92	81 93 65	70 75	35 41 54	47 34 37	127 141 153	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB
	P 5 P 6 P 7	H-90·91 H·I-91 H-92 G-93	81 93 65 68	70 75 59	35 41 54 54	47 34 37 40	127 141 153 179	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5
19住	P5 P6 P7 P1	H-90·91 H·I-91 H-92 G-93 P-111·112	81 93 65 68 60	70 75 59 53	35 41 54 54 50	47 34 37 40 44	127 141 153 179 60	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
19住	P 5 P 6 P 7 P 1 P 2	H-90·91 H·I-91 H-92 G-93 P-111·112 Q-111·112	81 93 65 68 60 48	70 75 59 53 47	35 41 54 54 50 36	47 34 37 40 44 35	127 141 153 179 60 59	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
19住	P5 P6 P7 P1 P2 P3	H-90·91 H·I-91 H-92 G-93 P-111·112	81 93 65 68 60	70 75 59 53	35 41 54 54 50	47 34 37 40 44	127 141 153 179 60	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
19住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4	H-90·91 H·I-91 H-92 G-93 P-111·112 Q-111·112	81 93 65 68 60 48	70 75 59 53 47	35 41 54 54 50 36	47 34 37 40 44 35 39 37	127 141 153 179 60 59	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
19住	P5 P6 P7 P1 P2 P3	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91 \\ H\cdot I-91 \\ H-92 \\ G-93 \\ P-111\cdot 112 \\ Q-111\cdot 112 \\ Q-112 \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52	70 75 59 53 47 49	35 41 54 54 50 36 42	47 34 37 40 44 35 39	127 141 153 179 60 59 57	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
19住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91 \\ H\cdot I-91 \\ H-92 \\ G-93 \\ P-111\cdot 112 \\ Q-111\cdot 112 \\ Q-112 \\ R-113 \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52	70 75 59 53 47 49 46	35 41 54 54 50 36 42 39	47 34 37 40 44 35 39 37	127 141 153 179 60 59 57 55	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
19住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5	H-90·91 H·I-91 H-92 G-93 P-111·112 Q-111·112 Q-112 R-113 R-113	81 93 65 68 60 48 52 50 46	70 75 59 53 47 49 46 45	35 41 54 54 50 36 42 39 37	47 34 37 40 44 35 39 37 35	127 141 153 179 60 59 57 55 56	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-111\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46	70 75 59 53 47 49 46 45 47	35 41 54 54 50 36 42 39 37 40	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル
	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91 \\ H\cdot I-91 \\ H-92 \\ G-93 \\ P-111\cdot 112 \\ Q-112 \\ Q-112 \\ R-113 \\ R-113 \\ Q-114 \\ P-111\cdot 112 \\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55	35 41 54 54 50 36 42 39 37 40 30 46	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91 \\ H\cdot I-91 \\ H-92 \\ G-93 \\ P-111\cdot 112 \\ Q-112 \\ Q-112 \\ R-113 \\ R-113 \\ Q-114 \\ P-111\cdot 112 \\ P-110\cdot 111 \\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66	35 41 54 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 74 64	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P1 P2 P1	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68	35 41 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56 40	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 74 64 141	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65	35 41 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56 40 43	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 74 64 141 130	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P3	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61	35 41 54 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56 40 43 54	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 74 64 141 130	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P3	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69	35 41 54 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56 40 43 54	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 74 64 141 130 114 125	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P3 P4 P5	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ Q-120\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72 67	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69 64	35 41 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56 40 43 54 56 43	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47 41	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 74 64 141 130 114 125	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P3 P4 P5	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ Q-120\\ Q-119\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72 67 90	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69 64 78	35 41 54 55 4 50 36 42 39 37 40 46 56 40 43 54 56 43 51	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47 41 43	127 141 153 179 60 59 57 55 56 47 44 141 130 114 125 149	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P7	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ Q-120\\ Q-119\\ Q-118\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72 67 90 91	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69 64 78	35 41 54 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56 40 43 54 43 54 45 45 45 45 45 45 46 47 48 48 48 48 48 48 48 48 48 48	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47 41 43 37	127 141 153 179 60 59 57 55 56 4 74 41 130 114 125 149 162 163	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル 深度基準1041.20m:21-P4上の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P1 P1 P1 P2 P1 P2 P1	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot 112\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ Q-120\\ Q-119\\ Q-118\\ I-102\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72 67 90 91 58	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69 64 78 78	35 41 54 50 36 42 39 37 40 46 56 40 43 54 56 43 51 45 34	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47 41 43 37 31	127 141 153 179 60 59 57 55 56 4 4 41 130 114 125 149 162 163 93	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル 深度基準1041.20m:21-P4上の敷石レベル
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot I12\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ Q-120\\ Q-119\\ Q-118\\ I-102\\ I-102\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72 67 90 91 58 33	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69 64 78	35 41 54 50 36 42 39 37 40 46 56 43 54 56 43 51 45 34 18	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47 41 43 37	127 141 153 179 60 59 57 55 56 47 44 141 130 114 125 149 162 163 93 76	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル 深度基準1041.20m:21-P4上の敷石レベル に 165土、深度基準1039.40m:22-P4検出レベル 旧:164土
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P8 P7 P1 P8 P8 P8	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot I12\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ Q-120\\ Q-119\\ Q-118\\ I-102\\ I-102\\ I-102\\ I-102\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72 67 90 91 58 33 72	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69 64 78 78 53 30	35 41 54 50 36 42 39 37 40 30 46 56 40 43 54 43 54 45 56 43 44 45 45 46 47 48 48 48 48 48 48 48 48 48 48	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47 41 43 37 31 18	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 41 130 114 125 163 93 76 83	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル 深度基準1041.20m:21-P4上の敷石レベル 温:165土、深度基準1039.40m:22-P4検出レベル 旧:164土 日:166土
20住	P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P1 P2	$\begin{array}{c} H-90\cdot 91\\ H\cdot I-91\\ H\cdot I-91\\ H-92\\ G-93\\ P-111\cdot 112\\ Q-112\cdot I12\\ Q-112\\ R-113\\ R-113\\ Q-114\\ P-111\cdot 112\\ P-110\cdot 111\\ Q-117\\ R-118\\ S-119\\ R-120\\ Q-120\\ Q-119\\ Q-118\\ I-102\\ I-102\\ \end{array}$	81 93 65 68 60 48 52 50 46 51 42 57 68 78 76 67 72 67 90 91 58 33	70 75 59 53 47 49 46 45 47 40 55 66 68 65 61 69 64 78 78	35 41 54 50 36 42 39 37 40 46 56 43 54 56 43 51 45 34 18	47 34 37 40 44 35 39 37 35 36 28 43 54 39 38 42 47 41 43 37 31	127 141 153 179 60 59 57 55 56 57 64 441 130 114 125 163 93 76 83 88	旧:18-P1 旧:15住内PA 旧:15住内PB 旧:南断面P5 深度基準1041.85m:19-P5南の敷石レベル 深度基準1040.85m:20-P2南の敷石レベル 深度基準1041.20m:21-P4上の敷石レベル に 165土、深度基準1039.40m:22-P4検出レベル 旧:164土

表10 3区住居址ピット計測表(4)

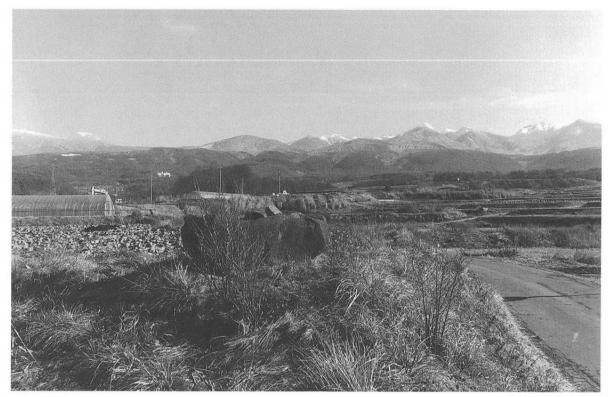
衣10 3) 区住店址	ヒット計例衣	(4)					
	P 6	I-103	66	63	46	43	78 日:167土	
	P7	I-102	40	36	23	23	83 旧:163土	
	P8	H · I – 103	46	45	26	25	92 旧:161土	
	P 9	H-103	54	43	37	28	00 旧:159土	•
	P10	I-103	54	52	27	23	89 日:168土	
		I-103	56	- 02	31	31	94 旧:171土	
	P11							
	P 12	I-103	74	48	38	28	98 旧:160土	*****
	P 13	H-103·104	52	46	34	32	90 旧:157土	
	P 14	H · I – 104	46	42	33	33	91 旧:172土	•
—								
	P 15	I-104	46	40	30	25	79 旧:158土	
	P 16	H-104	35	35	24	. 23	90 旧:156土	
	P17	H-103·104	79	71	52	51	89 旧:155土	
				53	60			
	P 18	H-104	71				90 日:153土	
1	P 19	H-104	50	42	33	33	97 旧:154土	
	P 20	G-104	60	57	38	32	89 旧:150土	
	P 21	G-104	56	40	38	28	85 旧:151土	
	P 22	G-104	70	58	38	. 37	10 旧:149土	
	P 23	G-104	61	47	49	42	97 日:152土	
	P 24	G-103	71	64	46	44	09 旧:148土	
	_							
	P 25	G-103	26	24	17	16	84 旧:162土	
23住	P1	J-93	53	50	34	27	12 旧:3b か3c の P 、深度基準1041.30m:奥壁掘方	低面レベル
	P 2	K-92·93	69		42		65 旧:3c- P 14b	
	P3	K-93	68		48		68 H : 3c - P 14a	- VALLET
	P4	K ⋅ L−94	58	52	39	33	81 旧:3c-P22	
	P 5	L-95	60	59	56	54	96 旧:3c- P 28	
	P 6	K-95	63	62	38	36	14 IH: 3c - P47	
			00		- 50			
	P7	K-93		28		13	40 旧:3c- P 17	
	P8	K - 93	30		16		41 旧:3c- P 16	
	P 9	K-63	19		13		30 旧:3c- P 25	
				22		23	32 H : 3c - P 15	
	P 10	K-63	38	33	26			
	P11	L-93	43	38	32	22	35 旧:3c- P 21	
	P 12	L-94	36	28	26	18	27 旧:3c- P 29	
	P 13	L-94	33	30	19	19	40 H : 3c - P 20	
				30		19	- International Control of the Contr	
	P 14	K-95	28		20		39 旧:3c- P 19	
24住	P1	J·K-93	53	50	39	37	88 旧:3c-P38、深度基準1041.20m:奥壁掘方底面	ゴレベル
	P 2	K-93	63	61	44	40	74 旧:3c- P 12	
					39	37	94 H : 3c - P7	
	P3	L-94	69	61				
	P4	L-95	73	54	51	49	79 旧:3c-P26	
	P 5	K-95	64	60	52	44	85 旧:3c-P48	
	P 6	k-93	33	30	17	16	40 旧:3c-P 24	
		-					AT A TAX A T	
	P 7	K-93	34	30	17		39 旧:3c- P 18	
	P8	K - 93	27		19		36 旧:3c- P 13	
	P 9	L-93	26	23	13	13	28 旧:3c- P 11	,
 								
	P 10	L-93	32	29	22	15	39 旧:3c- P 10	
I	P11	L-93	37	33	28		44 旧:3c-P9	
	P 12	L-93	34	33	23	23	45 旧:3c- P 8	
	P 13	L-94	32	22	18		46 日:3c - P 6	
								· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	P 14	L-94	30	27	18		40 旧:3c- P 5	
	P 15	L-94	19	16	9	8	17 旧:3c- P 4	
	P 16	L-94	35	33	21	19	46 旧:3c- P 3	
	P 17	L-95	20	17	10		18 H : 3c - P 2	
	-							***************************************
	P 18	L-95	32	28	19		33 旧:3c- P 1	
	P 19	L-95	35	32	16	15	67 旧:3c- P 27	
23・24住	P1	J-95	72	66	58	53	01 旧:3c-P42、深度基準1041.30m:23住奥壁掘力	片底面 レベル
	P 2	J-95	57	51	44	39	17 旧:3a-PE	
	P3	J-95	83	83	88	88	26 旧:3c- P 43	
	P 4	J-95	118	94	100	77	47 I日:3c- P 54	
	P 5	J-95	135		110		95 IE: 3c - P 59	
				0.0		0.5		
	P6	J-94	44	36	31	25	72 旧:3c- P 39	
1 .	P7	J-94	81		53		98 旧:3c- P 65	
	D.0	I · J – 94	83	74	73	60	35 旧:3c- P 57	
	l PX		1 00	- 1-1	57	50		
	P8		co		2/1	1 1	25 旧:3c- P 58	
	P 9	I-94	68				and the contract of the contra	
			68 113		103		20 旧:3c- P 56	
	P 9	I-94		42		26		
	P 9 P 10 P 11	I-94 I·J-94 I-93·94	113 50	42	103 35		25 旧:3c- P 41	
	P 9 P 10 P 11 P 12	I-94 I·J-94 I-93·94 I-94	113	45	103	39	25 日:3c-P41 86 日:3c-P31	
	P 9 P 10 P 11 P 12 P 13	I-94 I·J-94 I-93·94 I-94 I-93·94	113 50 51	45 46	103 35	39 25	25 旧:3c-P41 86 旧:3c-P31 旧:3a-PD	
	P 9 P 10 P 11 P 12	I-94 I·J-94 I-93·94 I-94	113 50	45	103 35	39 25	25 日:3c-P41 86 日:3c-P31	

表11 3区住居址ピット計測表(5)

		- 00	90				0.0	III . O. D. I
	P 15	J-93	28		18			IE: 3c-P45
	P 16	J-93	36		21			旧:3c-P30
	P 17	J -93	27	25	18	16		I∃:3c−P46
25住	P1	L-106	50	48	37	35		旧:11-P1、深度基準1040.58m:25-P12検出レベル
	P 2	L-106	27	27	19	18		旧:11-P2
	P3	L-105	41	34	28	27		旧:11-P3
	P4	L-105	43	39	24	22		旧:11-P4
	P 5	L-105	35	34	24	21		旧:11-P5
	P 6	L-105	39	36	30	22		旧:11-P6
	P 7	L-105	35		23			旧:11-P7
	P8	L-105	47	46	33	31		旧:11-P8
	P 9	L-105	38		25			旧:11−P9
	P 10	L-106	31	25	17	16		旧:11—P10
	P 11	L-105	27	25	16	14		旧:11—P11
	P 12	L-104	35	33	19	17		旧:11—P12
	P 13	L-104	40		26		82	旧:11-P13
	P 14	L-104	43	39	29	26	98	旧:11—P14
	P 15	L-105	37	- 32	25	22	95	旧:11-P15
	P 16	L-104	22		13			旧:11—P16
	P 17	K-104	32		21			旧:11-P17
	P 18	L-104	33		24	23		旧:11-P18
	P 19	K-104	33		19			旧:11—P19
	P 20	K · L - 104	40		21	17		旧:11—P20
	P 21	K-104	37	30	24	20	103	旧:11—P21
	P 22	K-104	23	18	13	11	114	旧:11—P22
	P 23	K-104	35	33	23	21	101	旧:11-P23
	P 24	K-104	23	22	13	12		旧:11-P24
	P 25	L-104	43	40	29	20	47	旧:11—P27
	P 26	L-105	33	30	22	21		旧:11— P 28
26住	P1	L-102	42	42	30	25	103	旧:2-Pk、深度基準1041.70m:2-P10検出レベル
	P 2	K-102	43	31	16	16		旧:2-Pj
	P3	L-101	20	17	13	13		旧:2-Pd
	P4	L-101	33	30	23	23		Ⅱ: 2-Pc
	P 5	L-101	23		16			旧:2-P16
	P 6	L-101	23	21	13	12		Ⅱ:2-P14
	P7	M-101	23	21	13	10		旧:2-P13
	P8	M-101	47	35	28	24		旧:2-P2
	P 9	M-101	23	22	13	19		旧:2-Pし
	P 10	M-102	49	32	21	18		日:2-P5
	P 11	M-102	32		18			旧:2-Pあ
	P 12	M-102	26		16			日:2-Pg
	P 13	L-103	23	20	13	11		III: 2 - P ?
	P 14	L-103	25	22	16	14		旧:2-P v
27住	P1	J-177	20	19	13	13		
,			201	10	10	10	10	THE THE TAXABLE WAS A STATE OF

表12 黒曜石集計測表

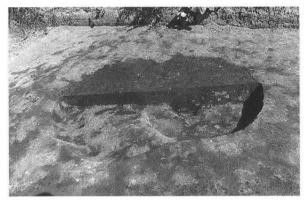
法 量 (最大値)			種別	采旦	
長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(mm)	但加	番号
69.1	51.5	24.1	71.3	原石	No 1
48.6	42.1	23.3	54.0	原石	No 2
61.0	48.5	29.3	86.0	原石	No 3
41.0	34.3	27.3	47.8	原石	No 4
40.0	37.8	29.5	53.0	原石	No 5
56.9	50.3	27.3	66.2	原石	No 6
39.7	37.4	27.9	62.7	原石	No 7
40.8	31.8	41.6	89.7	原石	No. 8
37.1	34.4	20.3	35.5	原石	No. 9



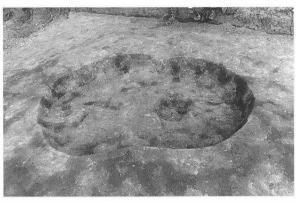
ヒジリ石



ベッタ沢と3区(北東から)



1 A区1・2号土坑半截(西から)



1 A 区 1 ・ 2 号土坑 (西から)



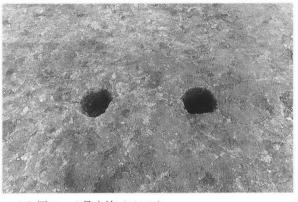
1B区4号土坑半截 (西から)



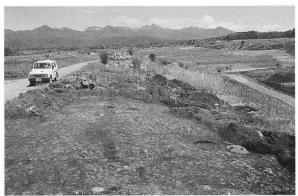
1B区3・4号土坑 (南西から)



1B区3・4号土坑 (北から)



1B区5・6号土坑 (西から)



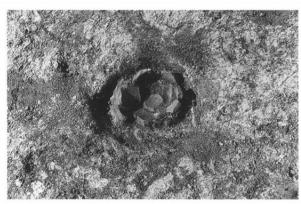
1 C区全景 (西から)



1 C区7号土坑 (東から)



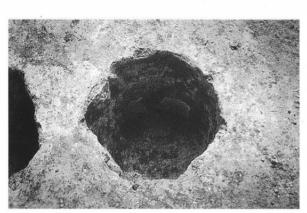
2区4号住居址 (南から)



2区4号住居址炉址 (南東から)



2区4号住居址P6 (南西から)



2区4号住居址P4 (西から)



2区5号住居址(南から)



2区5号住居址炉址(北から)



2区5号住居址埋甕1 (西から)



2区5号住居址埋甕1 (西から)



2区5号住居址埋甕1半截(西から)



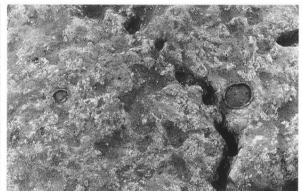
2区5号住居址埋甕2 (西から)



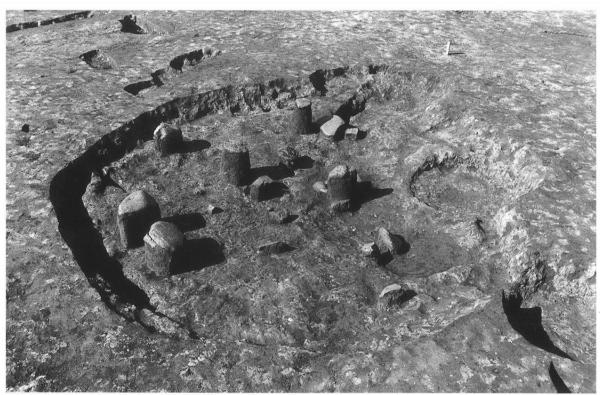
2区5号住居址埋甕3 (西から)



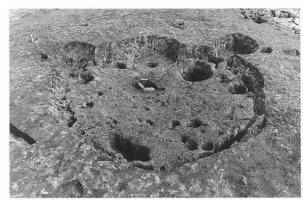
2区5号住居址埋甕3半截(南東から)



2区5号住居址埋甕2・3 (東から)



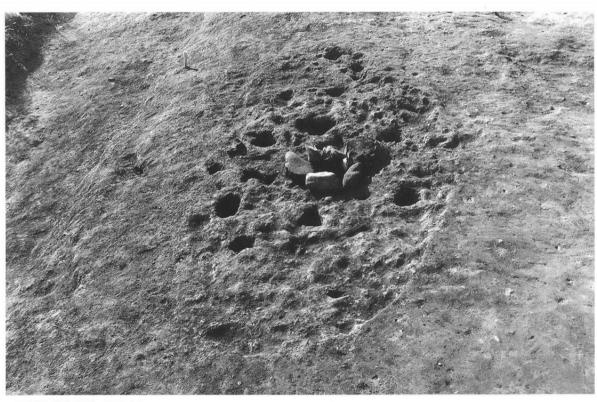
2区6号住居址 (南東から)



2 区 6 号住居址45・46・57・85号土坑(南西から)



2区6号住居址炉址(南から)



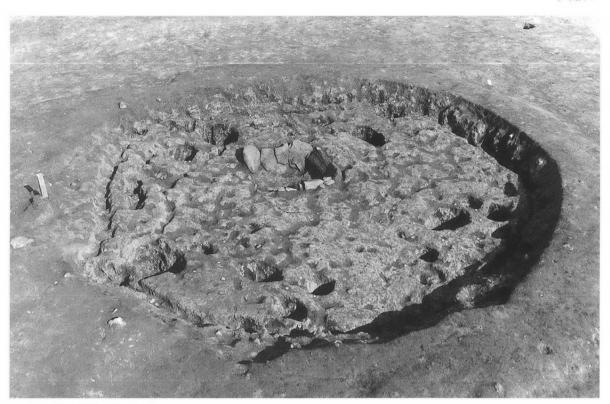
2区7号住居址(東から)



2区7号住居址炉址と伏甕(北西から)



2区7号住居址埋甕(西から)



2区8号住居址 (南西から)



2区8号住居址土器・礫・焼土検出状態 (西から)



2区8号住居址 (西から)



2区8号住居址焼土検出状態 (西から)



2区9号住居址 (東から)



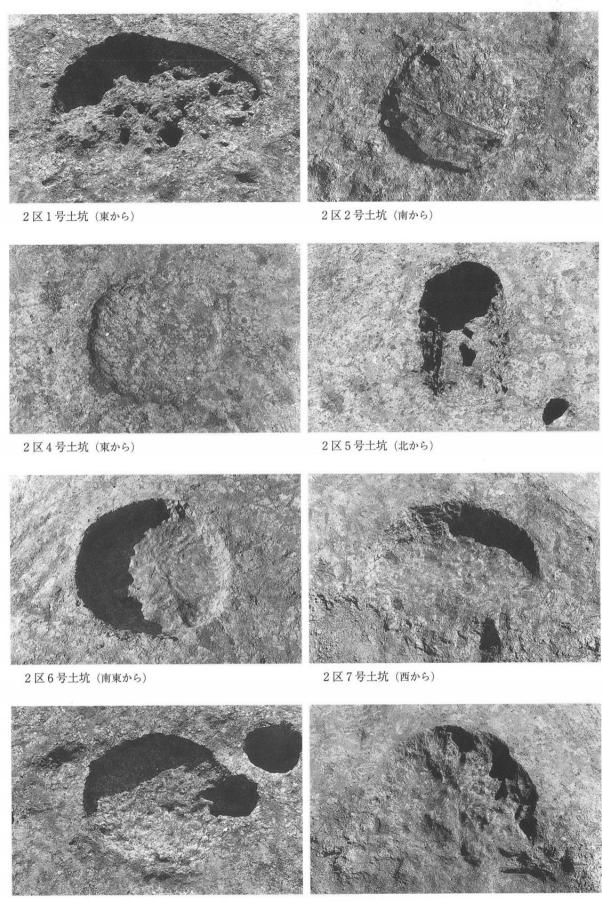
2区8号住居址炉址 (西から)



2区1号方形柱穴列(北から)

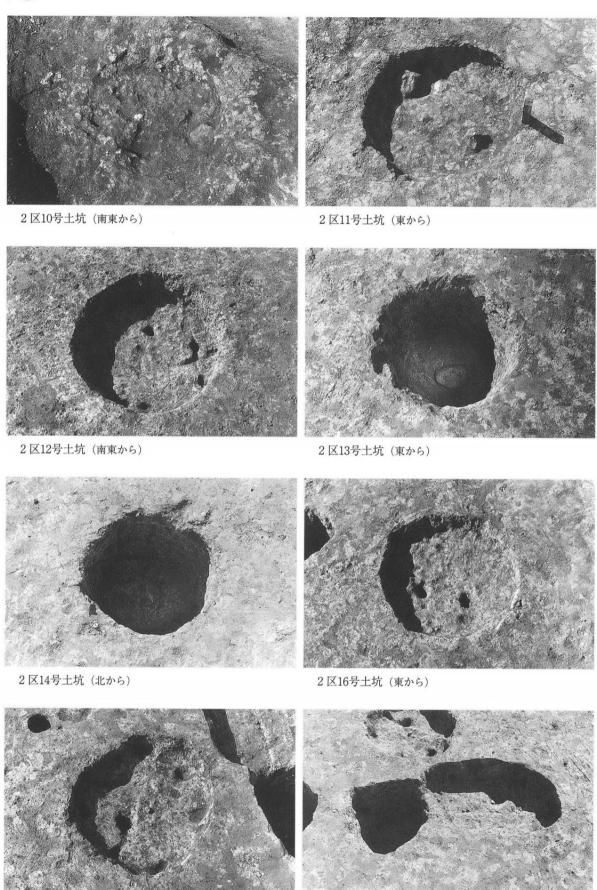


2区2号方形柱穴列(北から)



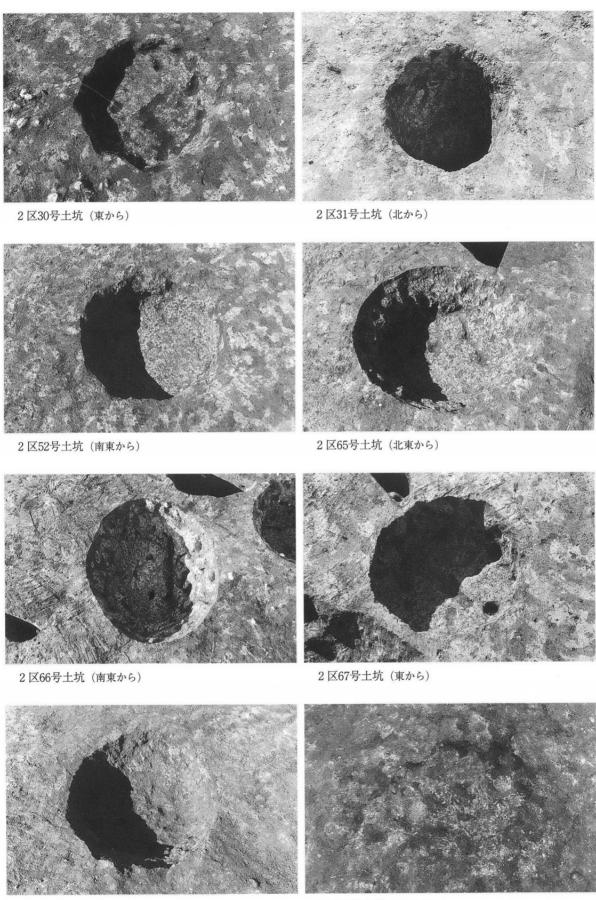
2区8号土坑・4号住居址P13 (東から)

2区9号土坑 (西から)

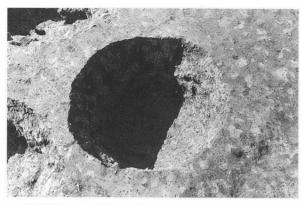


2 区17号土坑 (東から)

2 区18・19号土坑(北から)



2 区69号土坑(南から) 2 区70号土坑(北から)



2区71号土坑 (北東から)



2区79号土坑 (南東から)



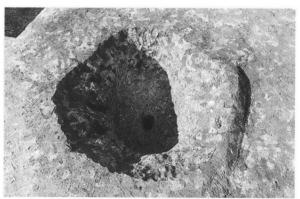
2 区79号土坑 (北から)



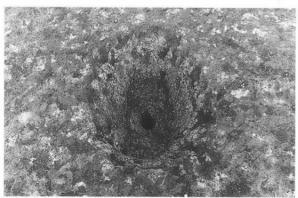
2区79号土坑 (南東から)



2 区80号土坑(南東から)



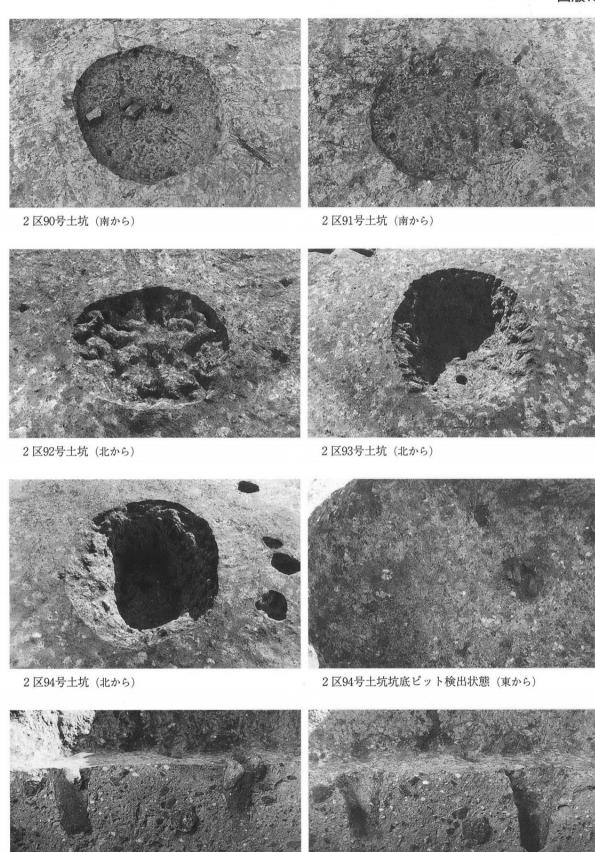
2 区81号土坑 (南東から)



2区82号土坑 (南東から)



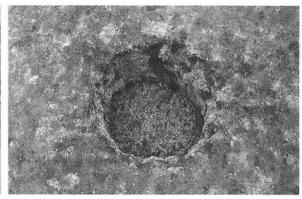
2 区87号土坑 (北から)



2区94号土坑坑底ピット半截 (西から)

2区94号土坑坑底ピット (西から)

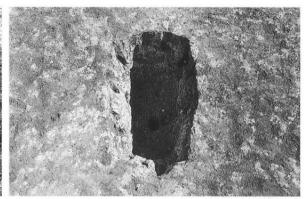




2 区99号土坑 (北から)



2 区100号土坑 (南東から)



2区103号土坑 (北西から)



2 区104~109号土坑(東から)



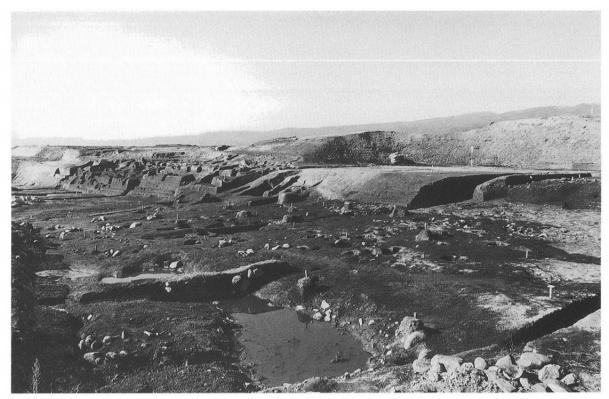
2 区114号土坑 (北から)



2 区115号土坑 (北西から)



2 区116号土坑 (北から)



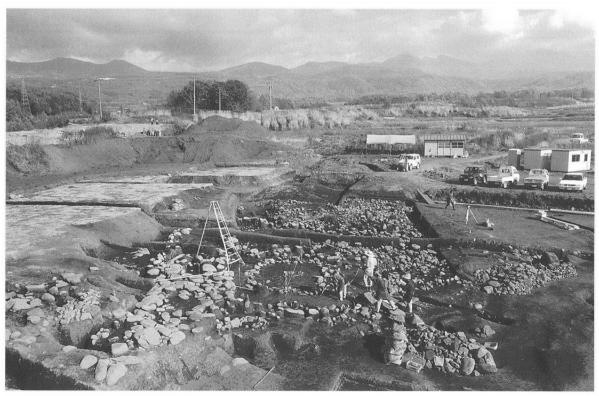
3区全景 (東から)



3 区礫検出状態 (東から)



3区斜面の礫検出状態 (東から)



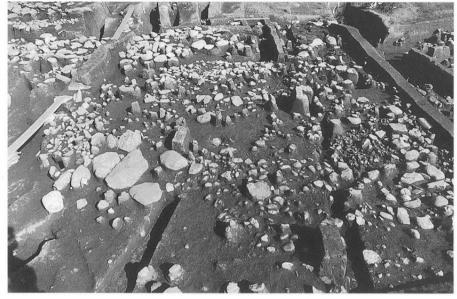
3 区斜面から低地の礫検出状態 (西から)



3 区斜面の礫検出状態 (南東から)



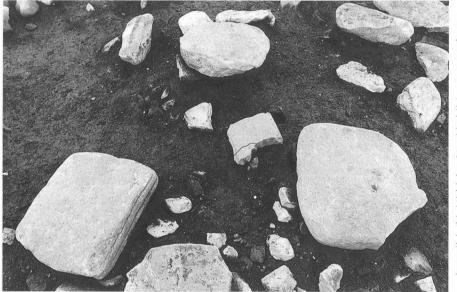
3 区斜面(4 号配石)の礫検出状態(南西から)



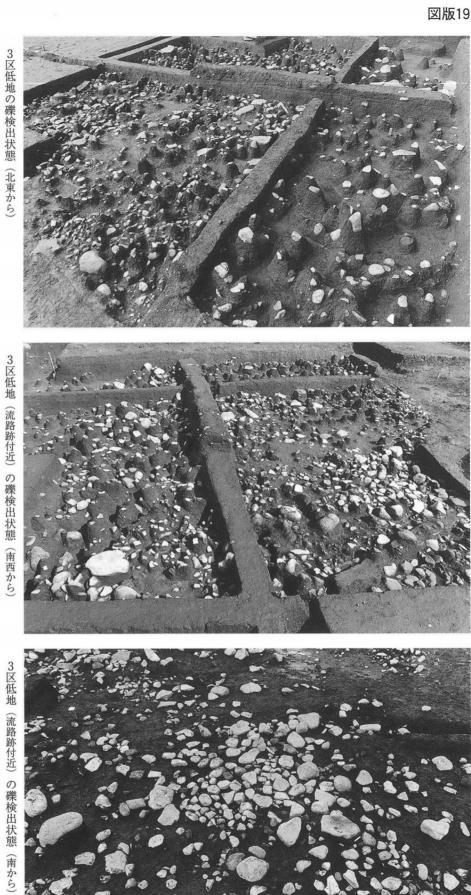
3区低地(10号住居址周辺)の礫検出状態(南から)

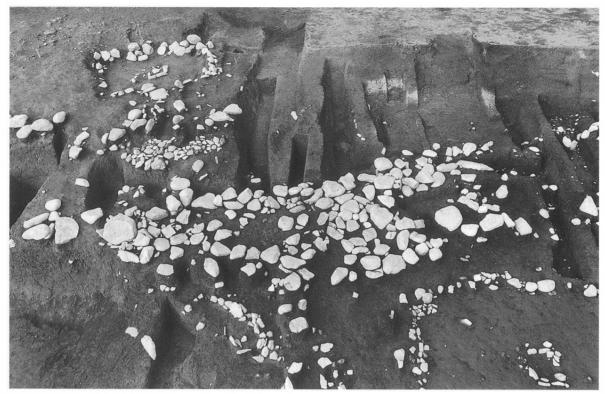


3区低地F - 10周辺の礫 (左上は10号住居址) (南から)

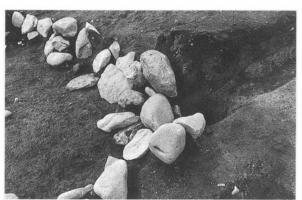


3区低地F・G-18石皿(中央)と台石(右・左下)(南から)





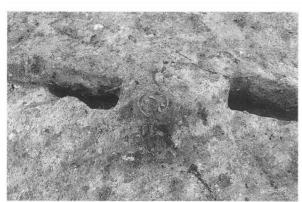
3区2号住居址と6号配石(南から)



3区2号住居址礫堤(東から)



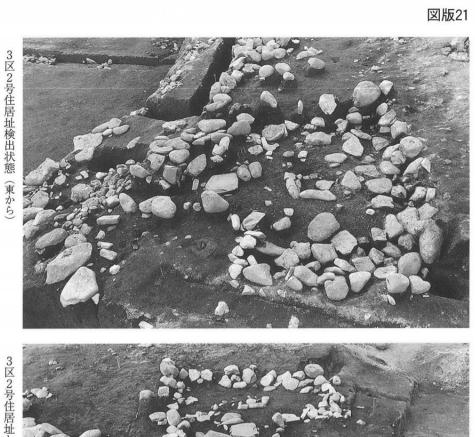
3区2号住居址炉址と軽石製品(南から)



3区17号住居址炉址 (南から)



3 区17号住居址炉址半截(南から)







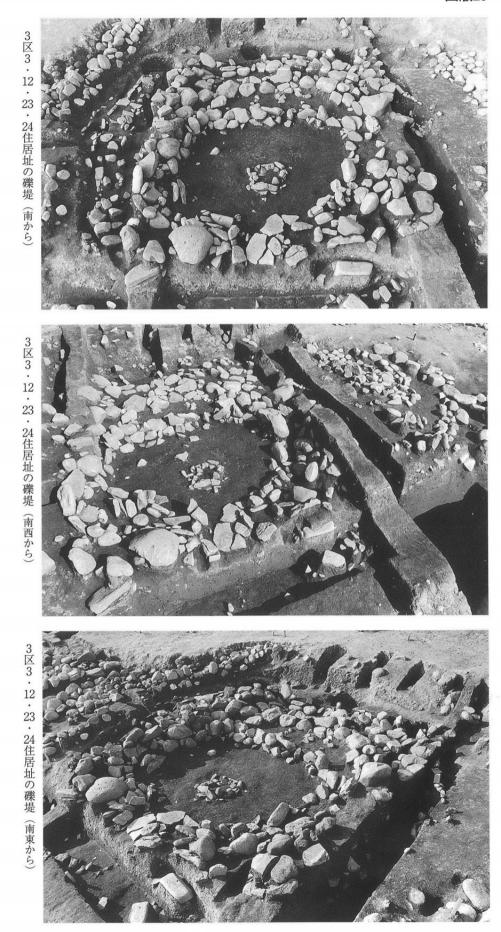
3区2・17・26号住居址(南から)

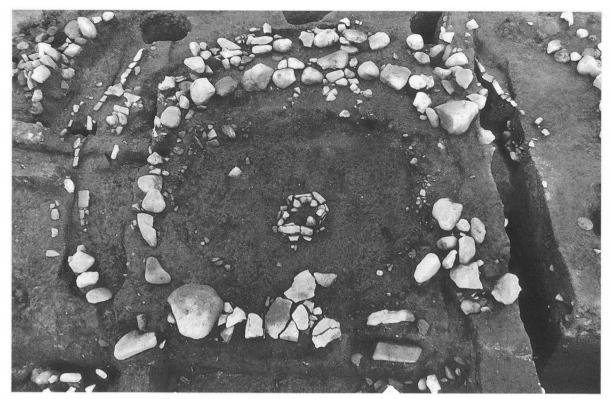


3区3・23・24住居址内の石棒 (西から)

3区3・23・24住居址内の礫(北から)

3区3・23・24住居址内の礫 (南から)





3 区 3 号住居址土堤、12号住居址縁石、23・24号住居址礫堤(南から)



3 区 3 ・23号住居址礫堤下の土堤 (北から)



3区3号住居址礫堤下の土堤 (南西から)



3区3号住居址礫堤下の土堤 (北から)